

武丸初瀬

—福岡県宗像市武丸所在遺跡の発掘調査報告—

宗像市文化財調査報告書 第55集

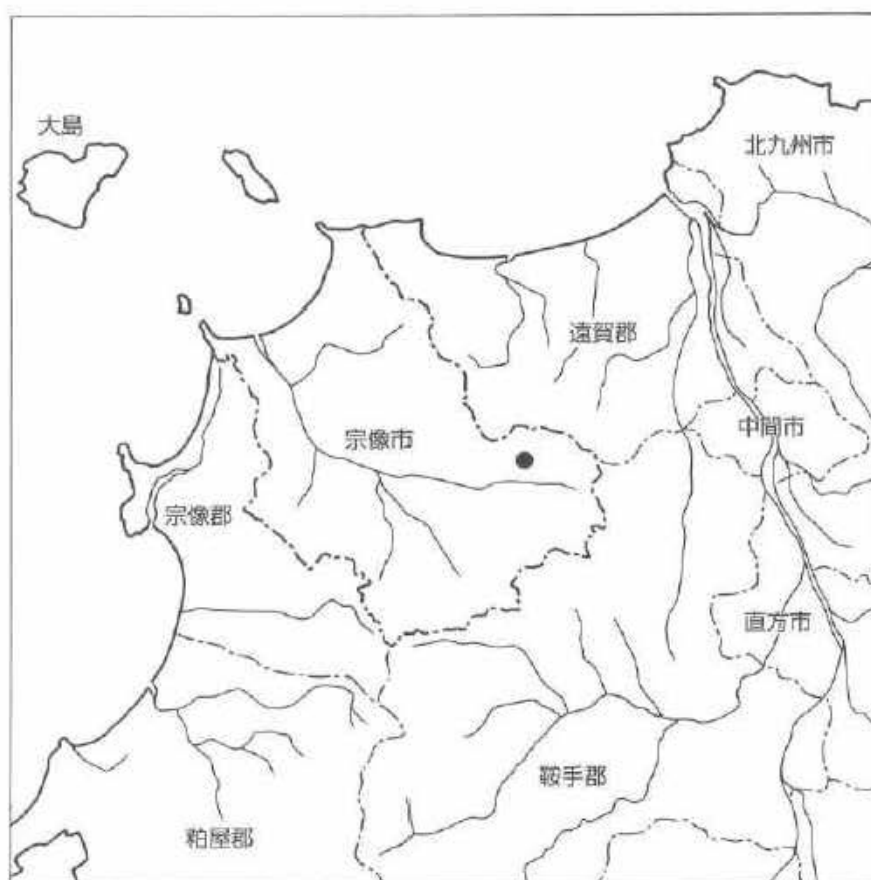
2004

宗像市教育委員会

TAKE MARU HA SE
武丸初瀬

—福岡県宗像市武丸所在遺跡の発掘調査報告—

宗像市文化財調査報告書 第55集



2004

宗像市教育委員会

序 文

宗像市は福岡県の北部、福岡市と北九州市の中間に位置し、北側に玄界灘、東側に遠賀郡境の四塚連山、中心部の宗像盆地には釣川が貫流し、ＪＲ鹿児島線沿いに住宅地が広がる地理的景観を有しています。

昭和30年、第１次産業の従事者が60パーセントを占める純農村地であった本市は、昭和36年の国鉄鹿児島本線の電化や昭和38年着工の自由ヶ丘団地造成、同41年着工の日の里団地造成などの開発を契機に人口は急増し、昭和56年の市制施行、平成15年４月には宗像郡玄海町との合併を遂げるなど、急激な都市化が進んでいます。

このような変化は、自然破壊や環境破壊、埋蔵文化財の消滅といった負の状況を生み出し、心豊かな生活を求める市民の生活環境に影響を及ぼしつつあります。

本市は、平成13年度にはじまる第４次宗像市総合計画において《ひとが結ぶ「ゆい」のまち むなかた》を目指して「ひとづくりでまちづくり」を重要な柱に据えて、さらなる発展をつづけています。

本報告書は、平成14年度に実施しました武丸初瀬遺跡の弥生時代から古墳時代にわたる集落跡の発掘調査記録をおさめております。

本書が、広く文化財の保護および学術研究に貢献することを願いたしますとともに、発掘調査全般にわたってご協力いただいた多くの方々に心から感謝の意を表する次第であります。

平成16年２月25日

宗像市教育委員会
教 育 長 川 崎 雅 光

例 言

- 1、本書は、平成14年度個人の住宅建築に伴って調査を実施した武丸初瀬遺跡（宗像市武丸1956-1番地ほか）の発掘調査報告書である。
- 2、発掘調査は、宗像市教育委員会が事業主体となって実施した。
- 3、福岡県文化財番号は、武丸初瀬遺跡（330176）とする。
- 4、遺構は、住居SC・土坑SK・溝SD・貯蔵穴SUとする。
- 5、本報告書遺物番号は、すべて通し番号である。また、遺物観察表の項目は以下の基準で記入した。

（ ）は複元数値・それ以外は実測値
多く含むは全体の60%以上・含むは全体の30～70%・所々含むは全体の40%以下
小礫3mm以上・粗砂粒1～3mm・砂粒1mm前後・細砂粒は1～0.3mm・シルトは泥質の範囲だが粒子が確認できる範囲とした。泥質は肉眼では粒子が確認できない範囲
標準土色帖の名称を基準に、記入した。例えば同じ橙色は細分せずや幅を持たせ、器面で観察できる複数の色調を記入した。断面は内外面以外の色の場合のみ記入
ほぼ器面の風化度で判断。2次焼成に伴う風化もそのつと記入

□は図版にあるもの

番号	出土地点	器種	器形	計測単位 mm	胎土	色調	焼成
発掘調査 327 15頁	B区SCI・3区下層	土師器	脚付鉢	口径(10.0)・基部最狭径2.2・脚径(16.0)・器高7.0	褐色粒子を多く含む。白色粒子も所々含む。ほか泥～シルト質	内外面ともに表皮部分は赤褐色・その他にぶい黄褐色	良

- 6、測量は、国土調査法第Ⅱ座標系を用い、方位は磁北である。
- 7、発掘調査については、発掘調査作業員（名前は下段に示す）がおこない、遺構の実測及び写真は、岡崇・吉田恵美（前宗像市文化財嘱託）がそれぞれ担当した。遺跡の全景写真については、（有）空中写真企画によって撮影していただいた。
- 8、遺物の実測は、浅倉弥生、星裕子、神野晋作（九州大学大学院生）、山口小百合（九州大学学生）、岡がおこなった。
- 9、遺構、遺物の製図は、中原美知子、星が、遺物の整理は、浅倉、西村広子、田代貞子、田崎紘子、東和子、濱田広美、田島圭子がおこない、許斐麻衣（福岡大学学生）、川口陽子（福岡大学学生）、谷山修一（別府大学学生）、岩下昂介（別府大学学生）の協力を得た。
- 10、遺物写真の撮影は、岡がおこなった。
- 11、本書の執筆および編集は、岡がおこなった。
- 12、宗像市発掘調査作業員

市橋保	大森勝	久富敏子	杉本トキエ	児山敬	有村亘
越知美知子	姫野洋子	松本ヤヨミ	吉田由美子	池田純	梶谷治雄
辻ヨシエ	倉田千代香	岡本智里子	榊泰彦	太塚誠治	池田ひな子
堀本博子	山瀬桂子	広瀬富知恵	田中佳子	宮野正孝	吉良保
石村陽子	羽江三千代	永石恵子	高野浦慎一	緒方富美子	
永留篤子	安立裕子	佐藤洋子	江頭恵利子	岡本格	

本報告書に関わった多くの方々にこの場をかりて感謝いたします。

本文目次

第1章 序 説

1. 調査の経過	1
2. 組織と構成	1
3. 位置と環境	2
4. 調査区の概要	5

第2章 調査の記録

1. A区貯蔵穴	7
2. B区貯蔵穴	10
3. B区円形住居	42
4. B区方形住居	44
5. B区土坑	51
6. B区溝	54
7. B区断層	55

第3章 まとめ

1. 弥生時代	56
2. 古墳時代	57

挿 図 目 次

第1図 周辺遺跡分布図	3	第11図 B区SU4・5出土遺物実測図	14
第2図 A区・B区位置図及び事業計画図	4	第12図 B区SU6～11遺構実測図	15
第3図 A区・B区遺構配置図	6	第13図 B区SU6出土遺物実測図	16
第4図 A区SU2出土遺物実測図	7	第14図 B区SU6出土遺物実測図	17
第5図 A区SU1～5遺構実測図	8	第15図 B区SU7出土遺物実測図	17
第6図 A区SU4出土遺物実測図	9	第16図 B区SU7出土遺物実測図	18
第7図 貯蔵穴模式図	9	第17図 B区SU8出土遺物実測図	19
第8図 B区SU1～5遺構実測図	11	第18図 B区SU9出土遺物実測図	20
第9図 B区SU1出土遺物実測図	12	第19図 B区SU9・10出土遺物実測図	21
第10図 B区SU1～3出土遺物実測図	13	第20図 B区SU10出土遺物実測図	22

第21图	B区SU11出土遺物実測図	23	第38图	B区SC 5 遺構実測図	43
第22图	B区SU12~17遺構実測図	24	第39图	B区SC 5 出土遺物実測図	43
第23图	B区SU12 A・B 出土遺物実測図	25	第40图	B区SC 1 遺構実測図	44
第24图	B区SU13出土遺物実測図	26	第41图	B区SC 1 出土遺物実測図	45
第25图	B区SU14出土遺物実測図	27	第42图	B区SC 1 出土遺物実測図	46
第26图	B区SU15出土遺物実測図	27	第43图	B区SC 1 出土遺物実測図	47
第27图	B区SU16出土遺物実測図	27	第44图	B区SC 2 遺構実測図	47
第28图	B区SU17出土遺物実測図	27	第45图	B区SC 2 出土遺物実測図	47
第29图	B区SU19出土遺物実測図	28	第46图	B区SC 1・2 遺構実測図	48
第30图	B区SU18~23遺構実測図	29	第47图	B区SC 3 遺構実測図	48
第31图	B区SU20 B 出土遺物実測図	30	第48图	B区SC 3 出土遺物実測図	48
第32图	B区SU21出土遺物実測図	30	第49图	B区SK 1 遺構実測図	51
第33图	B区SU22出土遺物実測図	31	第50图	B区SK 1 出土遺物実測図	52
第34图	B区SU23出土遺物実測図	32	第51图	B区SD 1 遺構実測図	54
第35图	B区SU24遺構実測図	32	第52图	B区SD 1 出土遺物実測図	54
第36图	B区SC 4 遺構実測図	42	第53图	B区断層位置図	55
第37图	B区SC 4 出土遺物実測図	42	第54图	B区断層土層図	55

表 目 次

第1表	A区SU 1~5 遺構計測表	9
第2表	A区SU 1~5 出土遺物計測観察表	9
第3表	B区SU 1~24遺構計測表	32
第4表	B区SU 1~24出土遺物計測観察表	33
第5表	B区SC 4・5 遺構計測表	43
第6表	B区SC 4・5 出土遺物計測観察表	43
第7表	B区SC 1~3 遺構計測表	49
第8表	B区SC 1~3 出土遺物計測観察表	49
第9表	B区SK 1 遺構計測表	53
第10表	B区SK 1 出土遺物計測観察表	53
第11表	B区SD 1 出土遺物計測観察表	54

図版目次

図版 1	遺跡周辺の航空写真 (1/12,500) 昭和53年 6 月撮影		
図版 2	A 区及び遠景	A 区 (上から)	
	A 区SU 1	A 区SU 4	
	A 区SU 2	A 区SU 4 遺物出土状況	
	A 区SU 3	A 区SU 5	
図版 3	B 区及び遠景		
	B 区 (上から)		
図版 4	B 区SU 1	B 区SU 6 土層 (中)	B 区SU10土層
	B 区SU 2 土層	B 区SU 6 土層 (左・右)	B 区SU10
	B 区SU 2	B 区SU 6	B 区SU11土層 (左・右)
	B 区SU 3	B 区SU 7	B 区SU 8・11
	B 区SU 4 土層 (左・右)	B 区SU 8 土層	B 区SU12遺物出土状況
	B 区SU 4	B 区SU 8	B 区SU12
	B 区SU 5	B 区SU 9 土層	B 区SU13土層 (左・右)
		B 区SU 9	B 区SU13
図版 5	B 区SU14土層 (左・右)	B 区SU18土層	B 区SU22土層
	B 区SU14土層 (中)	B 区SU18	B 区SU22
	B 区SU14	B 区SU19	B 区SU23土層
	B 区SU15土層	B 区SU20土層	B 区SU23
	B 区SU15	B 区SU20	B 区SC 4
	B 区SU16	B 区SU21土層	B 区SC 5
	B 区SU17土層 (左・右)	B 区SU21	
	B 区SU17		
図版 6	A 区出土遺物 1・2・3・4・5		
	B 区出土遺物 6・22・47・56・75A・75B・82A・82B・84・85・86・87・88・89・106・107		
	110・111・142・144・178・179・180・181・203・204・205		
図版 7	226・227・240A・240B・240C・241A・241B・279・282・286・287・296A・296B・297・309		
	318・319・320・321・322・323・324・325・326		
	B 区SC 1・出土遺物327・328・330・334・335・338・339・342・343・347・348・349・350		
	361・364		
図版 8	B 区SC 2・出土遺物366・367・B 区SC 3・出土遺物369・370・371・372・373		
	B 区SK 1・出土遺物374・375・376・377・381A・381B		
	B 区SD 1・SD 1 第 2 ベルト土層・出土遺物383・384・385・386・387		
	南壁断層 (A 面)・東壁断層 (B 面)		

第1章 序 説

1. 調査の経過

個人の住宅建築に伴って、宗像市武丸（初瀬）1956-1ほかが計画されたことを受けて、平成13年8月27日から同9月5日にかけて確認調査を実施したところ、2箇所より遺構が検出されたことから、平成14年4月2日から同7月5日にかけて調査を実施することとなった。文書手続きについては以下に記す。

事前審査番号：1333

埋蔵文化財発掘の届出について：14宗教生186号平成14年4月1日

埋蔵文化財調査の報告について：14宗教生307号平成14年6月27日

埋蔵物発見届：14宗教生455号平成14年8月12日

埋蔵物保管証：14宗教生456号平成14年8月12日

終了通知書：15宗教生73号平成15年4月14日

2. 組織と構成

平成14年度 発掘調査組織構成

総 括	宗像市教育委員会	教 育 長	川 崎 雅 光
		教 育 部 長	城月カヨ子
		生涯学習課長	伊豆丸正敏
		文化財係長	原 俊 一
庶務・会計		主 査	安 部 裕 久
発掘調査担当		主 任 技 師	岡 崇
		嘱 託	吉 田 恵 美

平成15年度 報告書作成組織構成

総 括	宗像市教育委員会	教 育 長	川 崎 雅 光
		教 育 部 長	城月カヨ子
		生涯学習課長	伊豆丸正敏
		文化財係長	原 俊 一
庶務・会計		主 任 技 師	岡 崇
報告書担当			

3. 位置と環境

本遺跡は、宗像市の東側に位置し、遠賀郡岡垣町との境に接する戸田山（標高267.4m）から南西方向に派生した丘陵の先端部に位置する。行政区では宗像市武丸1956-1番地ほかである。

現状は水田、畑地、果樹園となっていたため丘陵全体が区画され大きく削平されていた。そのため遺跡が検出された部分も少なくA区とB区の2箇所だけである。遺構の検出された標高は20～22mの範囲である。

丘陵の西側は釣川、久戸川、富地原川、名残川によって形成された小規模な平野が広がっており、石丸、武丸、富地原、徳重、田久、陵巖寺の地域に囲まれている。近年の発掘調査の増加によってこの周辺の遺跡環境が次第に、明らかになっている。以下時代順に列挙する。（番号は分布図と符合する）

〈縄文後期から晩期〉

2・富地原深田は研究学園都市（リサーチパーク）の開発により1992～1993年にかけて調査し、おもに古墳時代の住居や土坑などが検出された。その中で長方形の土坑が検出され、縄文時代の浅鉢が3点出土した。このように現在までのところ縄文時代の遺構は単発的な出土状況であるため、集落などの存在を明らかにすることはできていない。

〈弥生時代〉

3・石丸は宅地造成に伴って1977年に調査され、貯蔵穴や溝状遺構をはじめ古墳時代の土坑や墳墓等が検出されている。とくに貯蔵穴から出土した土器は、北部九州の土器を主流とするものの、一部山口県下関市綾羅木郷遺跡等を分布の中心とする土器が流入しており、このような分布の特徴が宗像地域の特色であるとする指摘があり、注目される。

4・名残遺跡群の1983～1984年に調査が実施された富地原梅木遺跡の部分には、住居や貯蔵穴、土壇墓など弥生時代の拠点的な集落を窺わせる資料である。また、弥生土器の編年作業がおこなわれている。

〈古墳時代〉

4・名残遺跡群は弥生時代以来連続と続く墳墓群である。

5・徳重本村は1995～1998年に調査した遺跡で、なかでも2号墳は市郡域において最も古い前方後円墳であり、古墳時代の幕開けを示唆する遺跡である。

6・武丸的場は1999年以降断続的に調査をしている遺跡であり、石棺墓や石蓋土壇墓、壺棺墓、横穴式石室などが検出され、前期から後期にかけての遺跡である。

7・武丸皆真庵、8・富地原上瀬ヶ浦、4・名残遺跡群（名残高田）は主に石室を主体部とする後期の群集墳である。

9・富地原神屋崎は1991年に調査を実施し、土坑や方形住居を検出している。なかでもSK8より検出された白玉の未製品などは玉製作工房を示唆する貴重な資料である。

10・富地原川原田は富地原地区は場整備にともなって1992年に調査され、弥生時代から続く集落跡であるが、陶質土器、朝鮮系軟質土器、畿内系土師器などの外来色の強い遺物を出土している。

〈古代〉

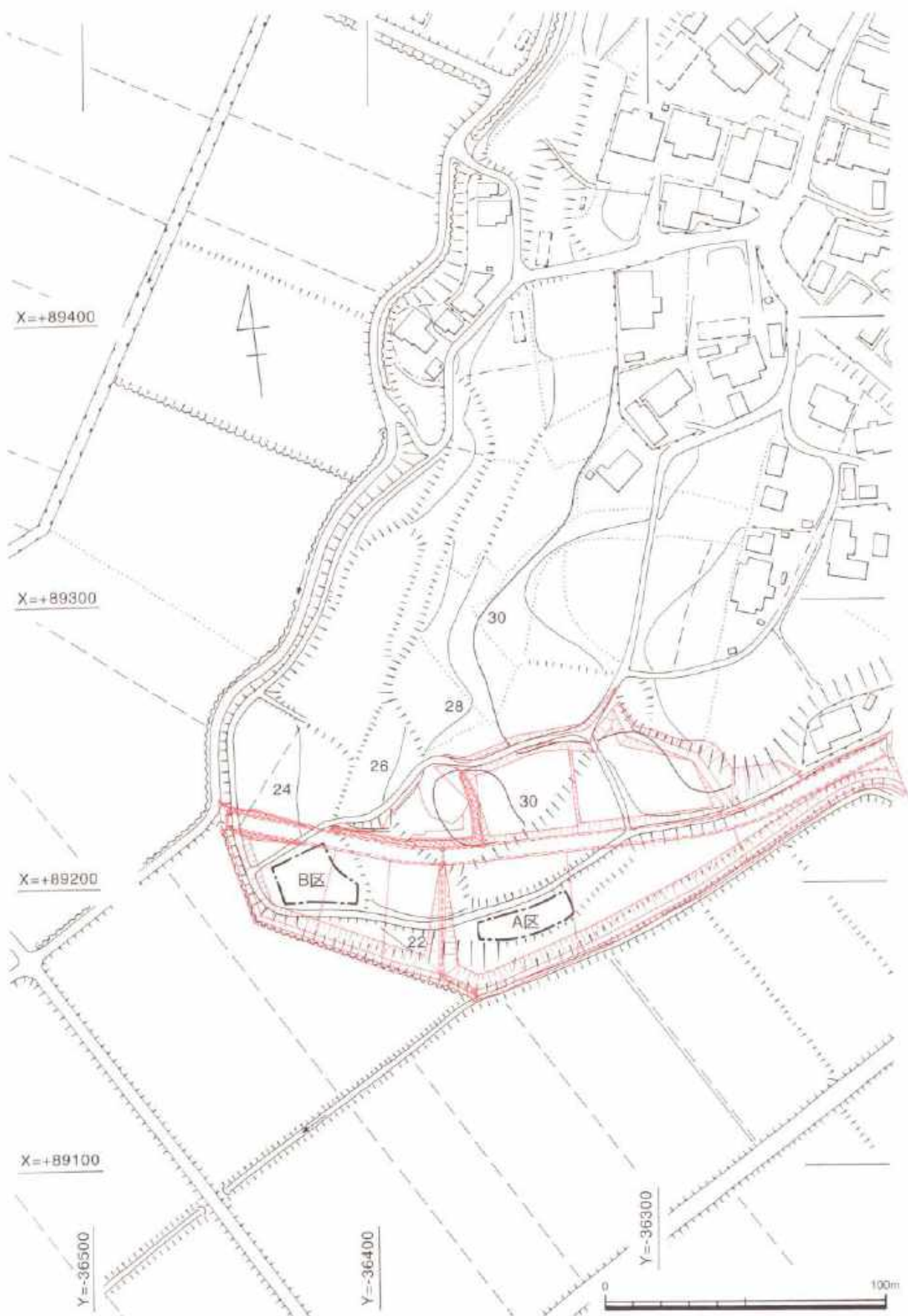
11・武丸大上げは個人ほ場整備に伴い1993年に調査を実施している。古墳時代の堅穴住居をはじめ掘立柱建物跡や石組み遺構などが検出されている。特に掘立柱建物跡は、包含層から出土した瓦との関連から8世紀後半から9世紀前半を成立時期としている。

6・武丸的場では群集墳の一角から2基の火葬骨蔵器が出土した。今後武丸周辺や宗像地域全体を視野に入れ古代の状況を把握する必要がある。

以上、当該遺跡周辺の現在までの遺跡分布状況である。



第1図 周辺遺跡分布図 (1/25,000)



第2図 A区・B区位置図及び事業計画図 (1/2,000)

4. 調査区の概要

事業計画図で示されるすべての範囲において確認調査を実施した結果、丘陵の南側の区画（武丸1223）より貯蔵穴が検出され、さらに西側の丘陵先端部の区画（武丸1956-1）で土坑や柱穴などが検出された。それぞれに調査区を設定し前者をA区、後者をB区として調査を実施した。それ以外の部分では、田畑や果樹園などによって大きく丘陵が削平されており、遺構などは認められなかった。

A区

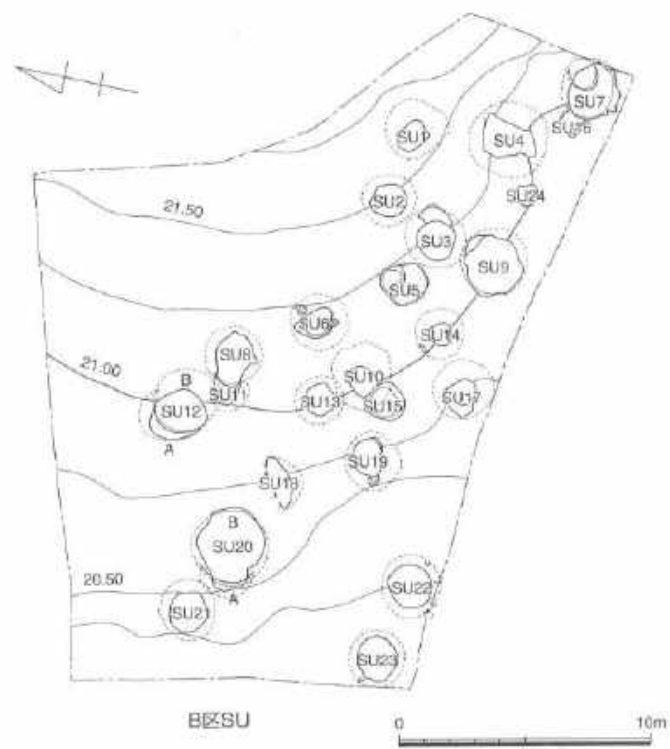
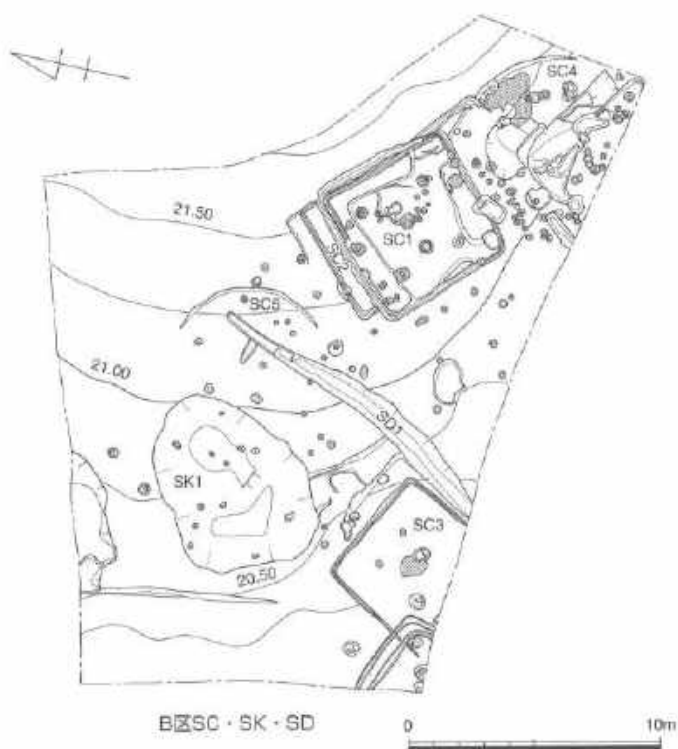
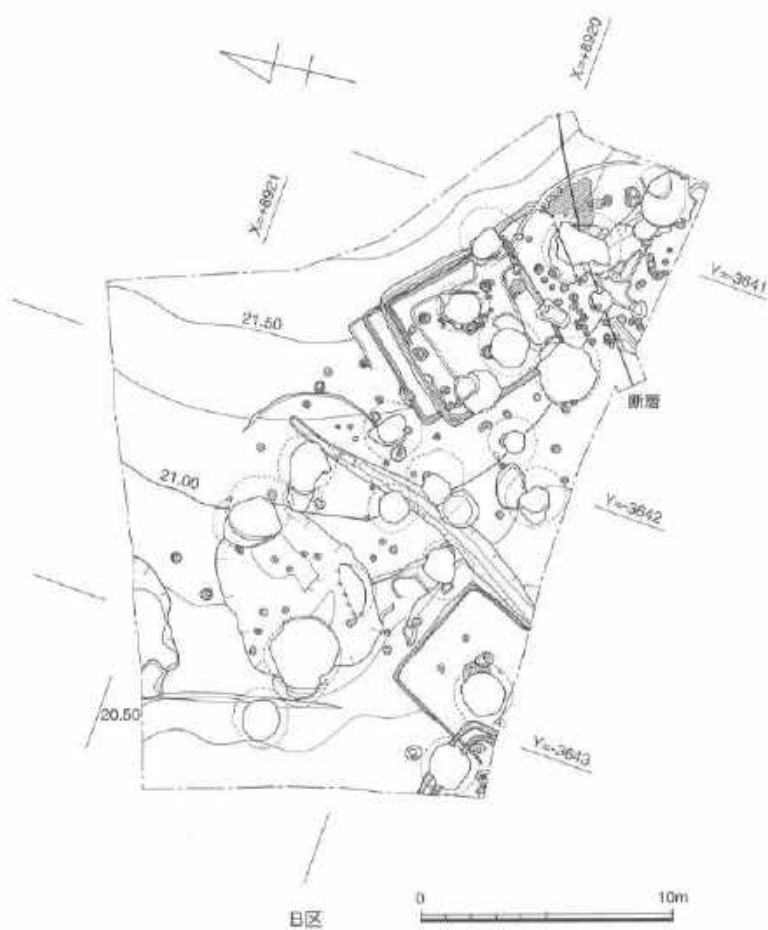
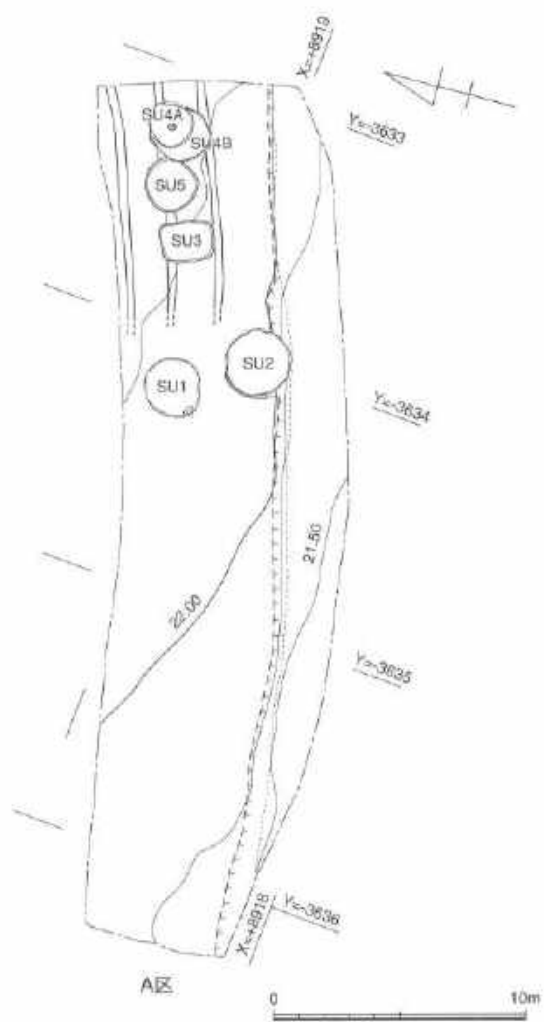
検出された遺構は貯蔵穴（以下SU）5基である。

丘陵の南側斜面に位置し、水田として区画された一角である。地表面から厚さ約15cmの耕作土を除去し地山が検出された。地山は花崗岩の風化土であるバイラン土で、検出された遺構はこのバイラン土から掘り込まれている。調査区内南側は、現水田面以前の区画として段となり50cmほど低くなる。調査区の面積は約300㎡で標高21.4～22.6mの範囲である。遺構は主に調査区の東側で検出された。また、SUの床面から検出面までの深さが最大54cm、平均で36cmであり、B区で検出されたSUの深さが平均114cmであることから考えると全体的に78cm程度すでに削平されていることがわかる。

B区

検出された遺構はSU24基、円形住居および方形住居（以下SC）5棟、土坑（以下SK）1基、溝（以下SD）1条である。

丘陵の先端に位置し、現状では畑として区画されていた。丘陵の高い方は地表面から10cm程度、丘陵の低い方は80cmの耕作土および包含層を除去後に遺構面が検出された。地山は丘陵の高い方でA区同様バイラン土、低い方は黄褐色の粘質土となっている。調査区の面積は約600㎡で標高20.2～21.8mの範囲である。遺構は、調査区の南から西側にかけてSKやSD、SCが検出され、その後にSUが検出したことから、大きく2層確認された。



第3図 A区・B区遺構配置図 (1/300)

第2章 調査の記録

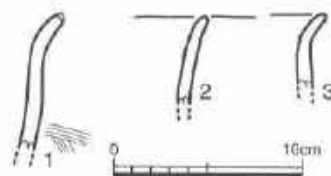
1. A区貯蔵穴

SU1（遺構：第5図、第1表、図版2）

SU1は、調査区の中ほどで検出された。周辺には南東側3.5mにSU2、東側5.8mにSU3が存在する。検出平面形は円形を呈する。検出面から床面までの深さは最大32cmでかなり削平されている。床面はやや凹レンズ状に中央が下がり、径は2.3mである。

SU2（遺構：第5図、第1表、図版2／遺物：第4図、第2表、図版6）

SU2は、調査区の中ほどで検出された。周辺には北西側3.5mにSU1、北東側5.6mにSU3が存在する。検出平面形は円形を呈する。検出面から床面までの深さは最大43cmで、床面はほぼ水平であり、径は2.66mである。



第4図 A区SU2出土遺物実測図（1/4）

SU3（遺構：第5図、第1表、図版2）

SU3は、調査区の東側で検出された。周辺には東側2.3mにSU5、西側5.8mにSU1が、南西側5.6mにSU2が存在する。検出平面形は長方形を呈する。検出面から床面までの深さは最大18cmで残りが悪い。床面はほぼ水平であり、長軸1.96m、短軸1.52mである。

SU4（遺構：第5図、第1表、図版2／遺物：第6図、第2表、図版6）

SU4は、調査区の東端で検出された。周辺には西側2.5mにSU5が存在する。検出平面形は円形を呈していたが、掘削中に2基が切りあっていることが確認できた。深いほうをSU4 Aで浅いほうをSU4 Bとした。

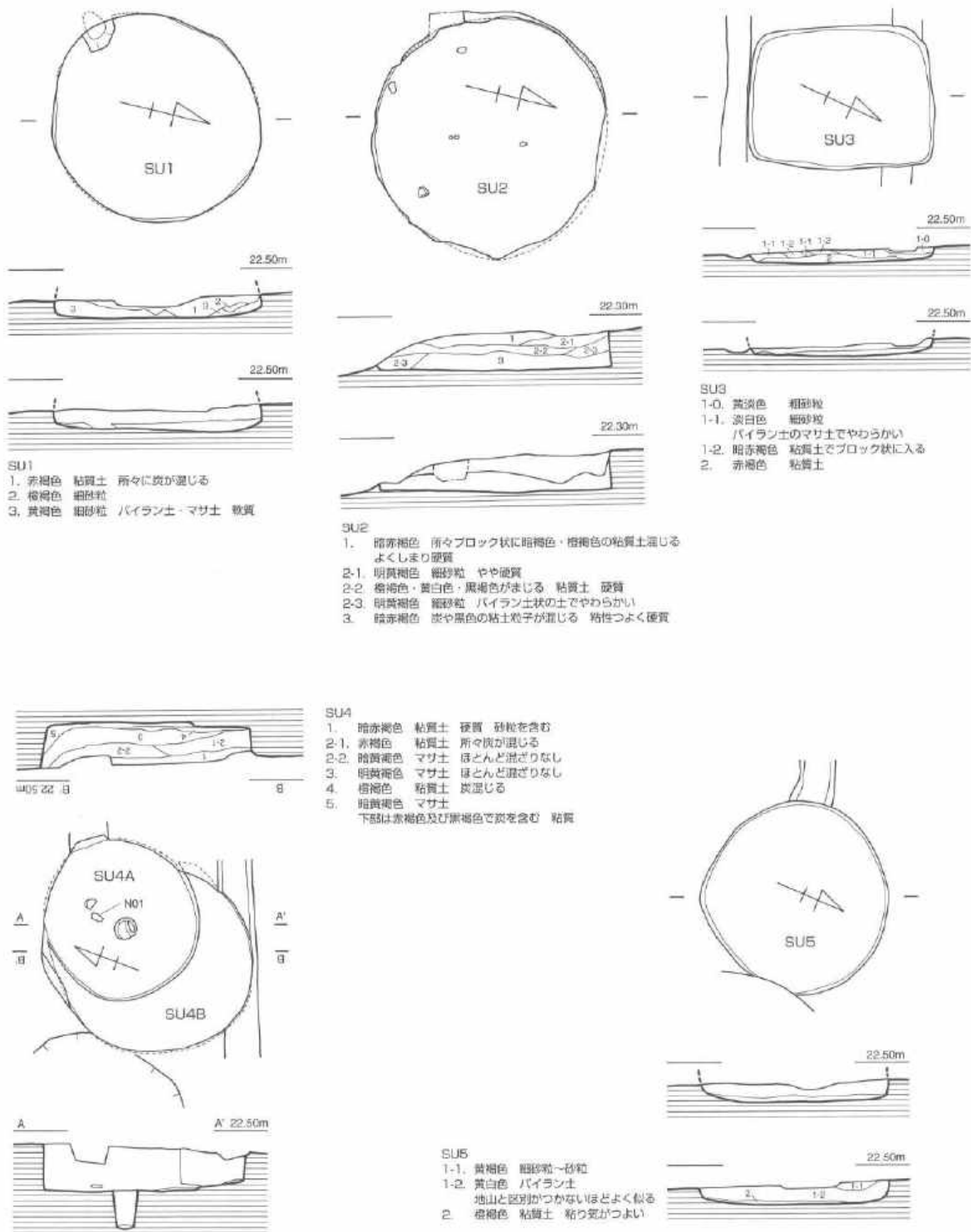
SU4 Aは検出面から床面までの深さは最大54cmでA区の中では残りの良い貯蔵穴である。床面はほぼ水平で、中央に床面から40cmほどの深さを有する柱穴が検出された。床面の径は1.76mである。

SU4 Bは検出面から床面までの深さは最大45cmでSU4 Aより最大で9cmほど浅い。床面はほぼ水平である。床面の径は約2mである。

床埋土の状況からSU4 Aの後にSU4 Bが掘られ、拡張したのではないかと考えられる。

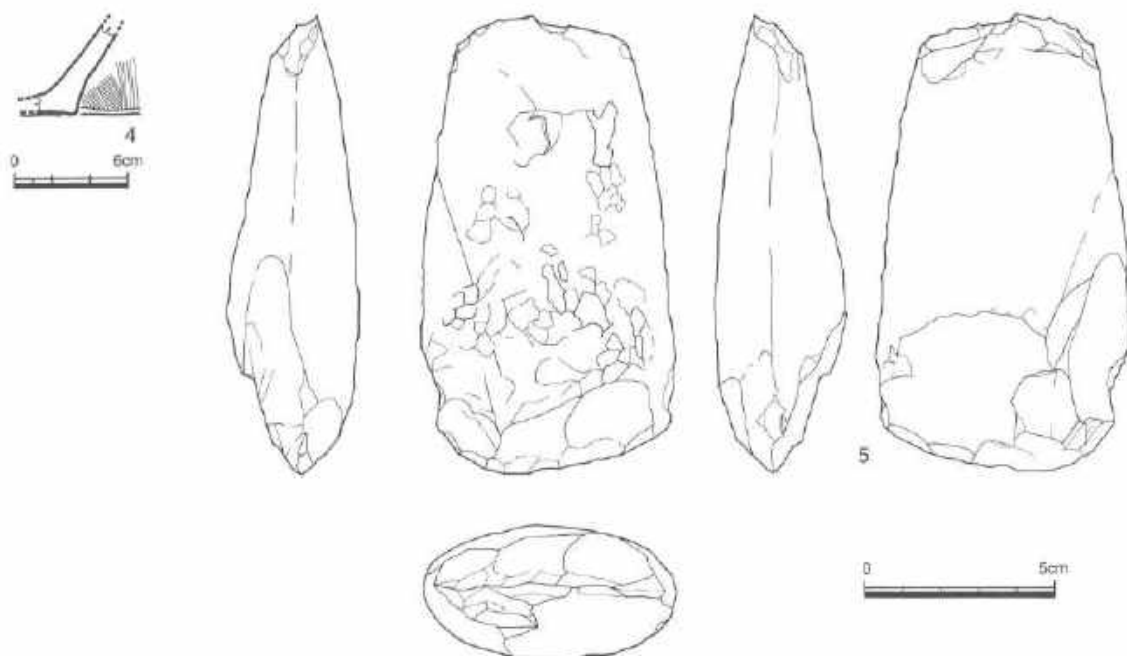
SU5（遺構：第5図、第1表、図版2）

SU5は、調査区のやや東側で検出された。周辺には西側2.3mにSU3、東側2.5mにSU4が存在する。検出平面形は円形を呈し、検出面から床面までの深さは最大25cmである。床面はほぼ水平であり、径は2.08mである。



第5図 A区SU1～5遺構実測図 (1/60)

0 1m



第6図 A区SU4出土遺物実測図 土器（1/4）石器（1/2）

第1表 A区SU1～5遺構計測表

単位(m)

遺構番号	調査区	平面形	断面形	底径	深さ	上面標高	床面標高	遺構挿図	遺物挿図
SU1	A区	円形	台形A	2.26	0.32	22.24	21.92	第5図	—
SU2	A区	円形	台形A	2.66	0.43	22.12	21.69	第5図	1～3
SU3	A区	長方形	不明	長軸1.96 短軸1.52	0.18	22.30	22.12	第5図	—
SU4A	A区	円形	台形A	1.76	0.54	22.36	21.82	第5図	4・5
SU4B	A区	円形	台形A	2.22	0.45	22.36	21.91	第5図	—
SU5	A区	円形	不明	2.07	0.25	22.31	22.06	第5図	—

第2表 A区SU1～5出土遺物計測観察表

番号	出土地点	器種	器形	計測単位 cm	胎土	色調	焼成
第4図 1 2頁	A区SU2南半	弥生	甕上半部	—	白色や赤褐色の砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面におい赤褐色～褐灰色～におい黄褐色・外面におい赤褐色	やや良
第4図 2 7頁	A区SU2ベルト内	弥生	甕上半部	—	砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内・外面ともに灰黄褐色～黒褐色	やや良
第4図 3 2頁	A区SU2ベルト内	弥生	甕上半部	—	粗砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面におい黄褐色～褐灰色・外面におい橙色～黒褐色	やや良
第3図 4 5頁	A区SU4A	弥生	甕底部	—	白色及び赤褐色の砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面におい赤褐色・外面橙色～灰褐色	やや良
第3図 5 5頁	A区SU4A No1	給刃 石斧		長12.1・幅6.7・厚3.5	玄武岩?	灰色	—



第7図 貯蔵穴模式図（綾羅木郷遺跡・第7図より）

2. B区貯蔵穴

SU1（遺構：第8図、第3表、図版4／遺物：第9・10図、第4表、図版6）

SU1は、調査区の東側で、SC1の東コーナー部分から検出された。SC1の東コーナー床面も検出当初から若干陥没していて、屋内土坑と考えられた。周辺には西2.84mにSU2、南3.65mにSU4が存在する。住居のコーナーに規定され検出面の平面形は隅丸の方形を呈す。底部平面形は不整形円形を呈する。断面形は台形C型で、内部は開口部より南東側が広がっている。

SU2（遺構：第8図、第3表、図版4／遺物：第10図、第4表）

SU2は、SC1のやや東側床面中央下部より検出された。SC1の貼床を除去しSC2床面を検出していた時点で、すでに若干の陥没が確認できた。周囲には東2.84mにSU1、南西2.44mにSU3が存在する。検出面および底部平面形は円形で、断面形は台形C型である。

SU3（遺構：第8図、第3表、図版4／遺物：第10図、第4表、図版6）

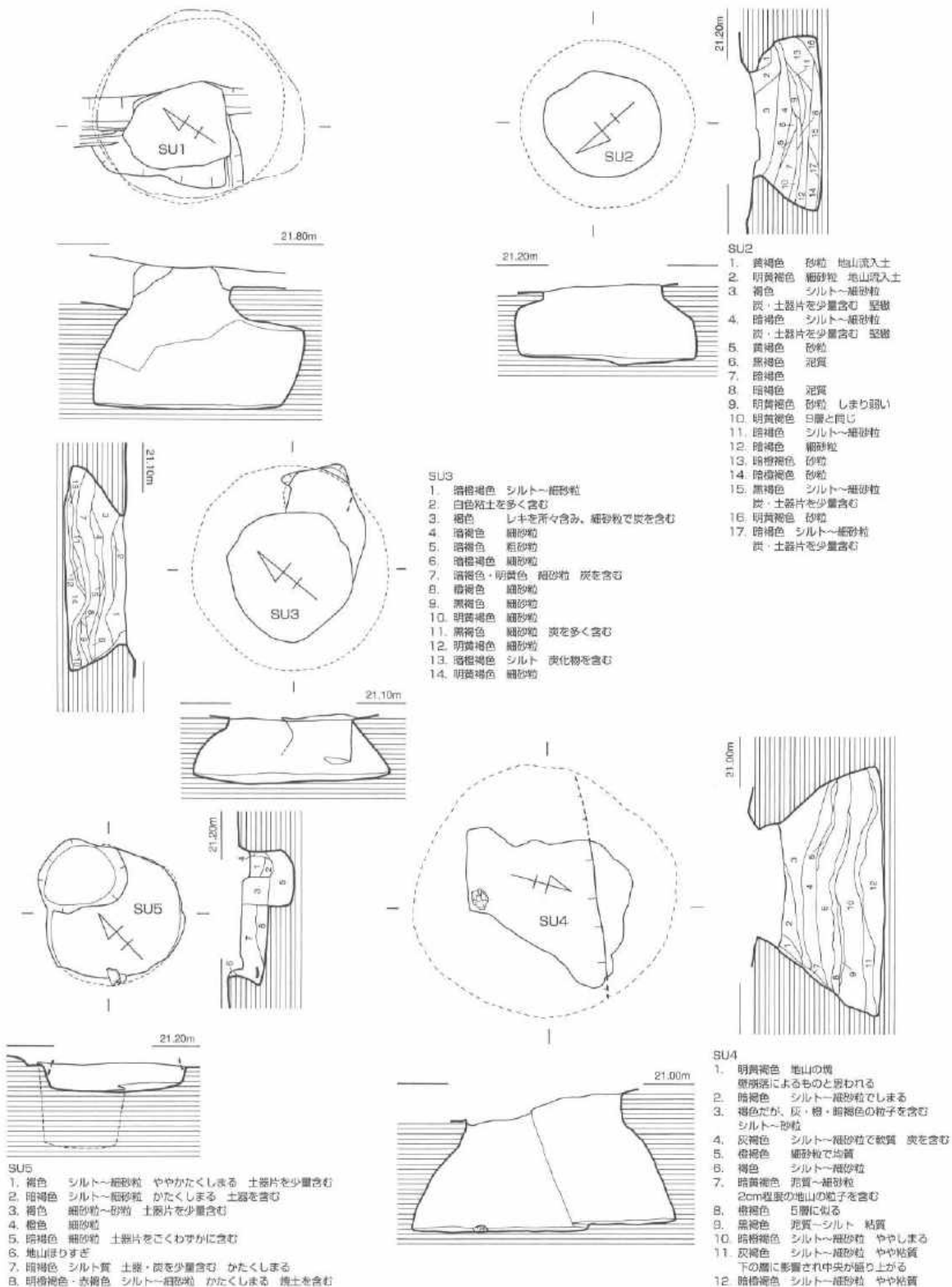
SU3は、SC1の南側下部より検出された。周囲には北東4.5mにSU1、北東2.44mにSU2、東4.80mにSU4、西2.20mにSU5、南2.51mにSU9が存在する。検出面および底部平面形は円形で、断面形は台形A型である。

SU4（遺構：第8図、第3表、図版4／遺物：第11図、第4表、図版6）

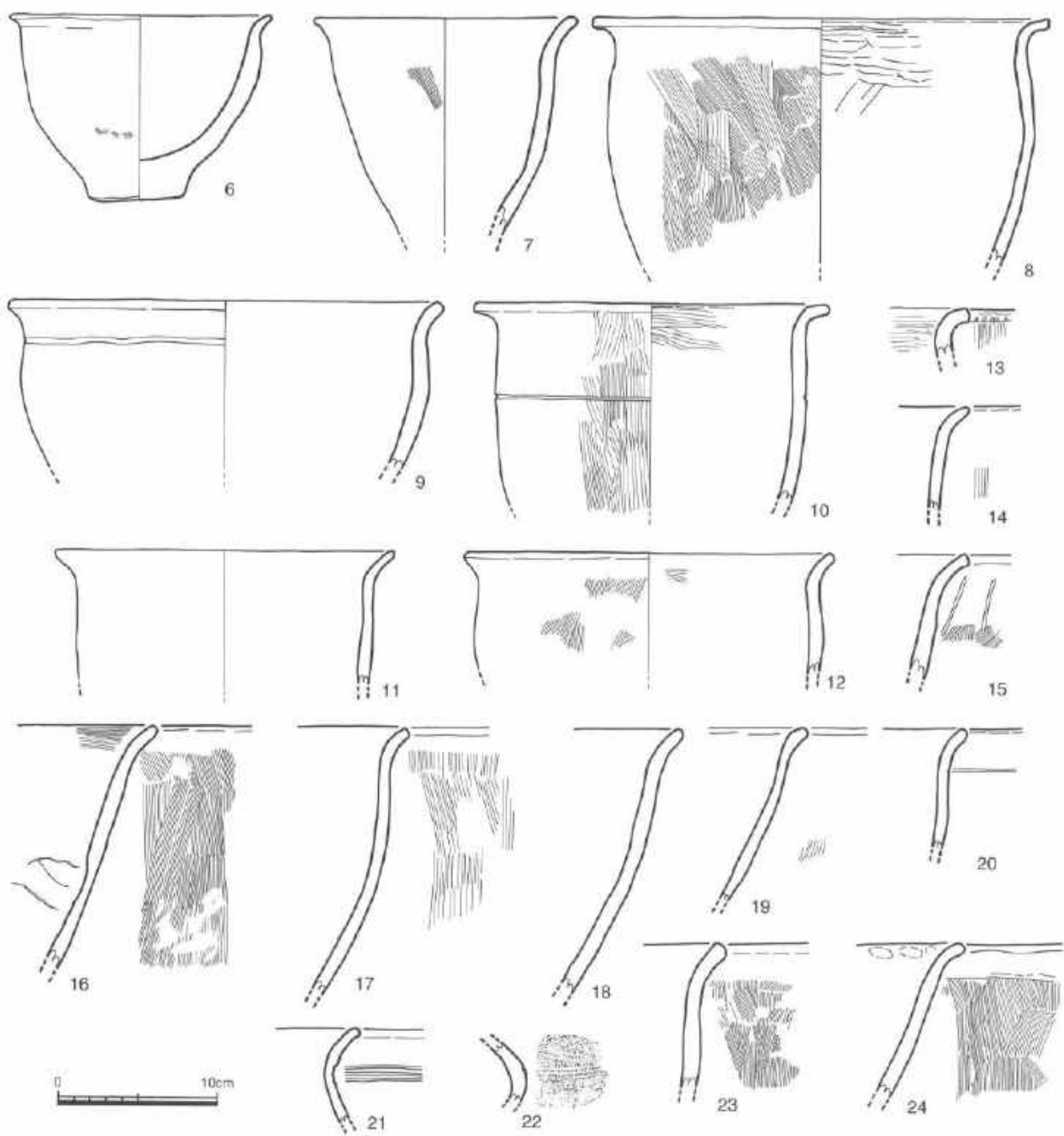
SU4は、SC4や古墳時代の遺構面などの埋土を除去した後に検出された。周囲には北2.84mにSU1、南東3.80mにSU7、西4.85mにSU9が存在する。検出上面のSC4床面に貼られていた赤橙色土がこの貯蔵穴の上面で窪んでおり、陥没していたことが窺える。また、古墳時代の不明遺構などで攪乱され、現状での平面形は不定方形を呈しているが、本来円形だったものと考えられる。底部平面形は円形で、断面形は台形A型を呈す。また、床面は本来平らだったものと考えられるが、完掘後床面には北東から南西にかけて高さ4cmほどの段が認められ、周辺を精査した結果、小規模な断層であることがわかった。残念ながら埋土完掘後に確認されたため埋土と断層についての観察はできなかった。

SU5（遺構：第8図、第3表、図版4／遺物：第11図、第4表、図版6）

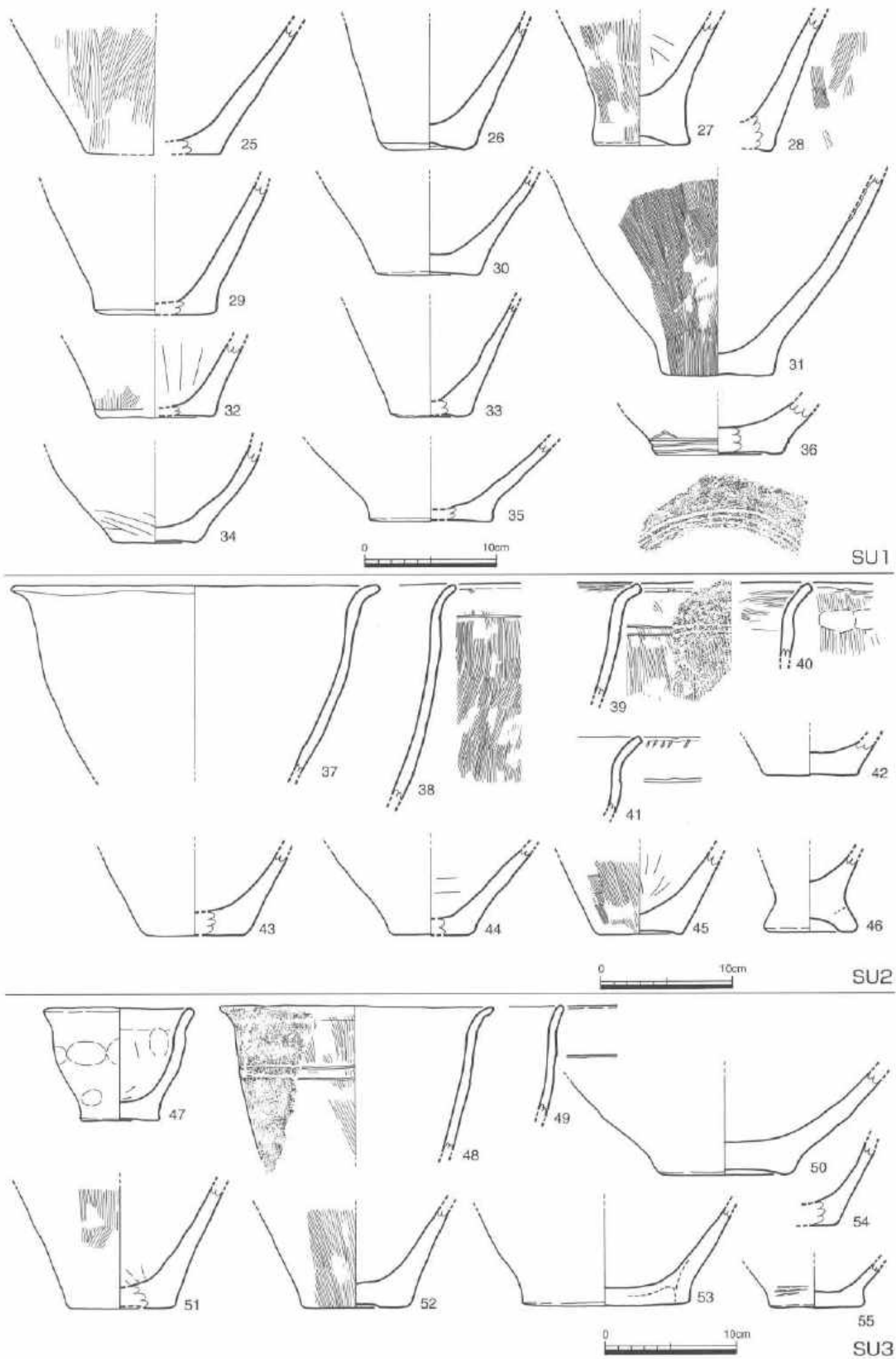
SU5は、SC1の西側コーナー下部より検出された。周辺には北東3.50mにSU2、東2.20mにSU3、北西3.70mにSU6、南東3.63mにSU9、西4.15mにSU10、南西2.40mにSU14が存在する。検出面および底部平面形は円形を呈し、断面形は方形B型である。床面の北側はSC1の柱穴などの遺構で切られる。SU15同様周辺の貯蔵穴に比べ床面が浅い。



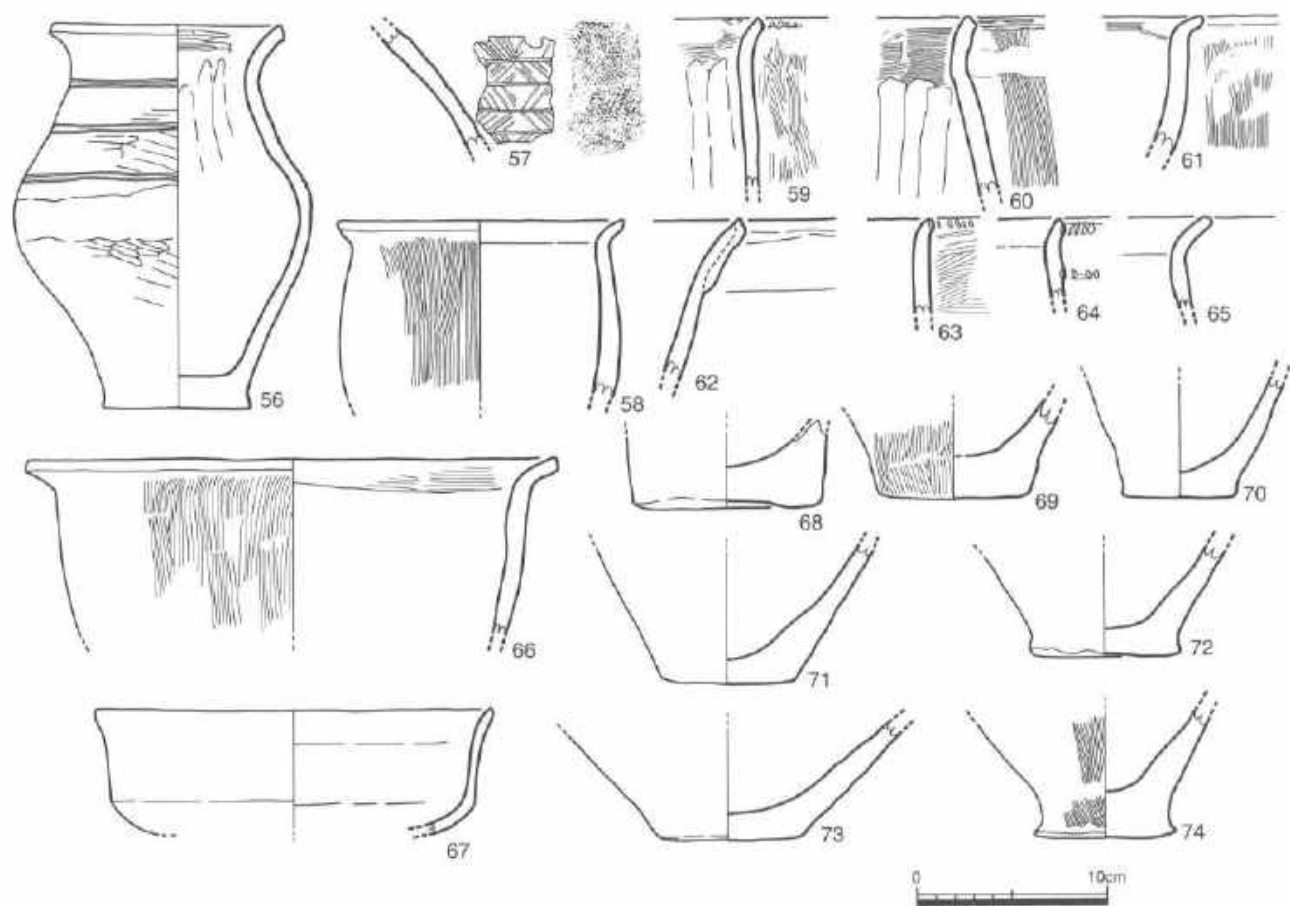
第8図 B区SU1～5遺構実測図 (1/60)



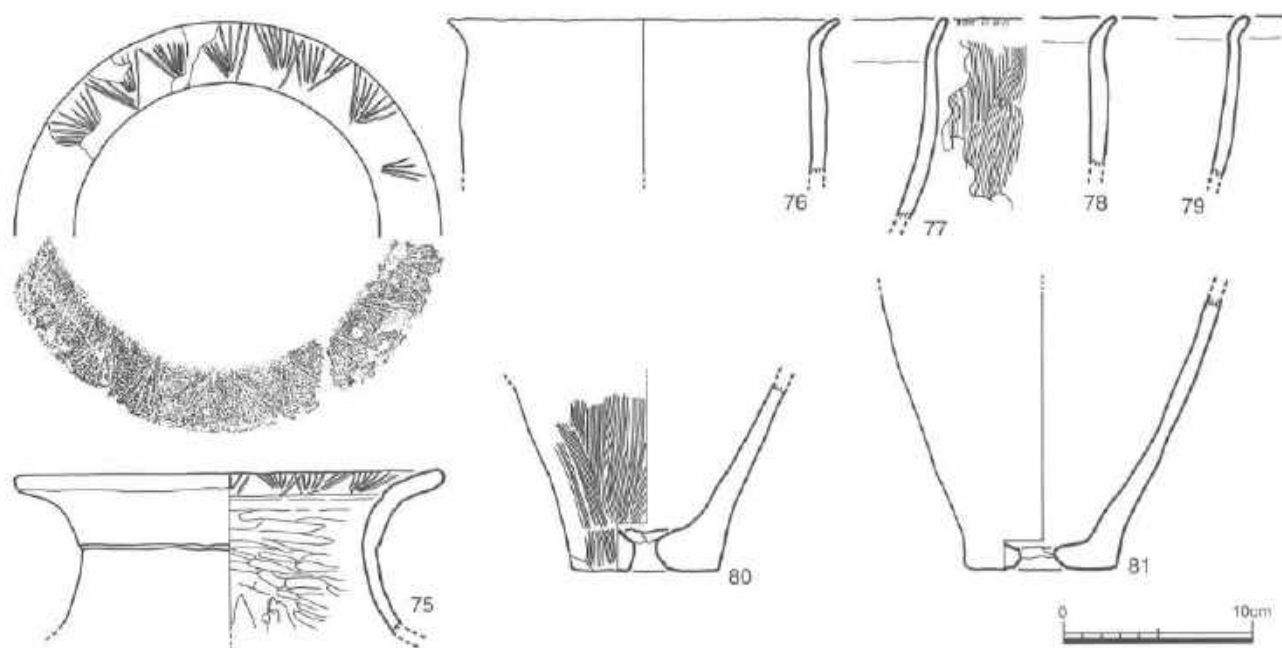
第9图 B区SU1出土遗物实测图 (1/4)



第10図 B区SU1~3出土遺物実測図 (1/4)

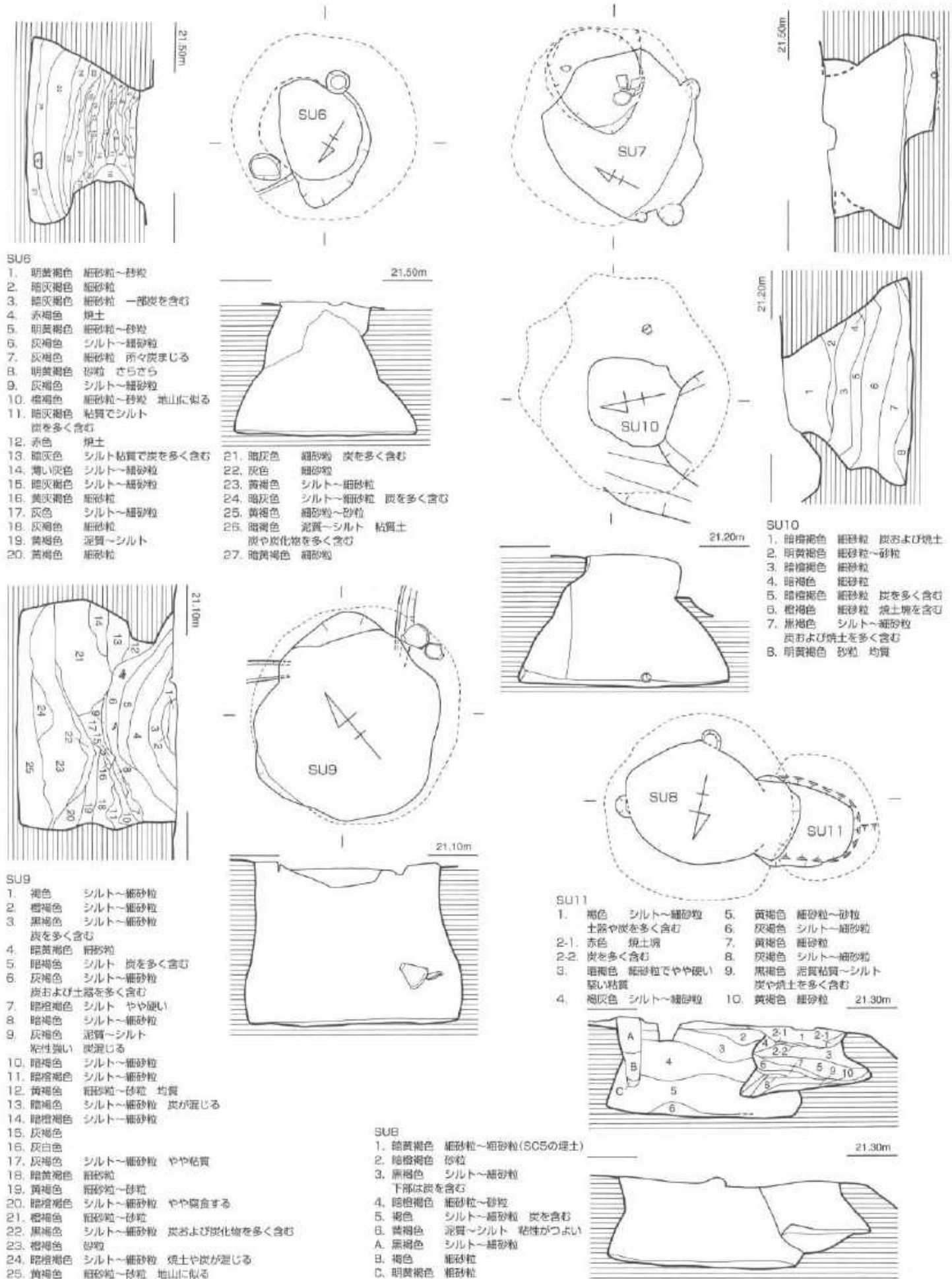


SU4

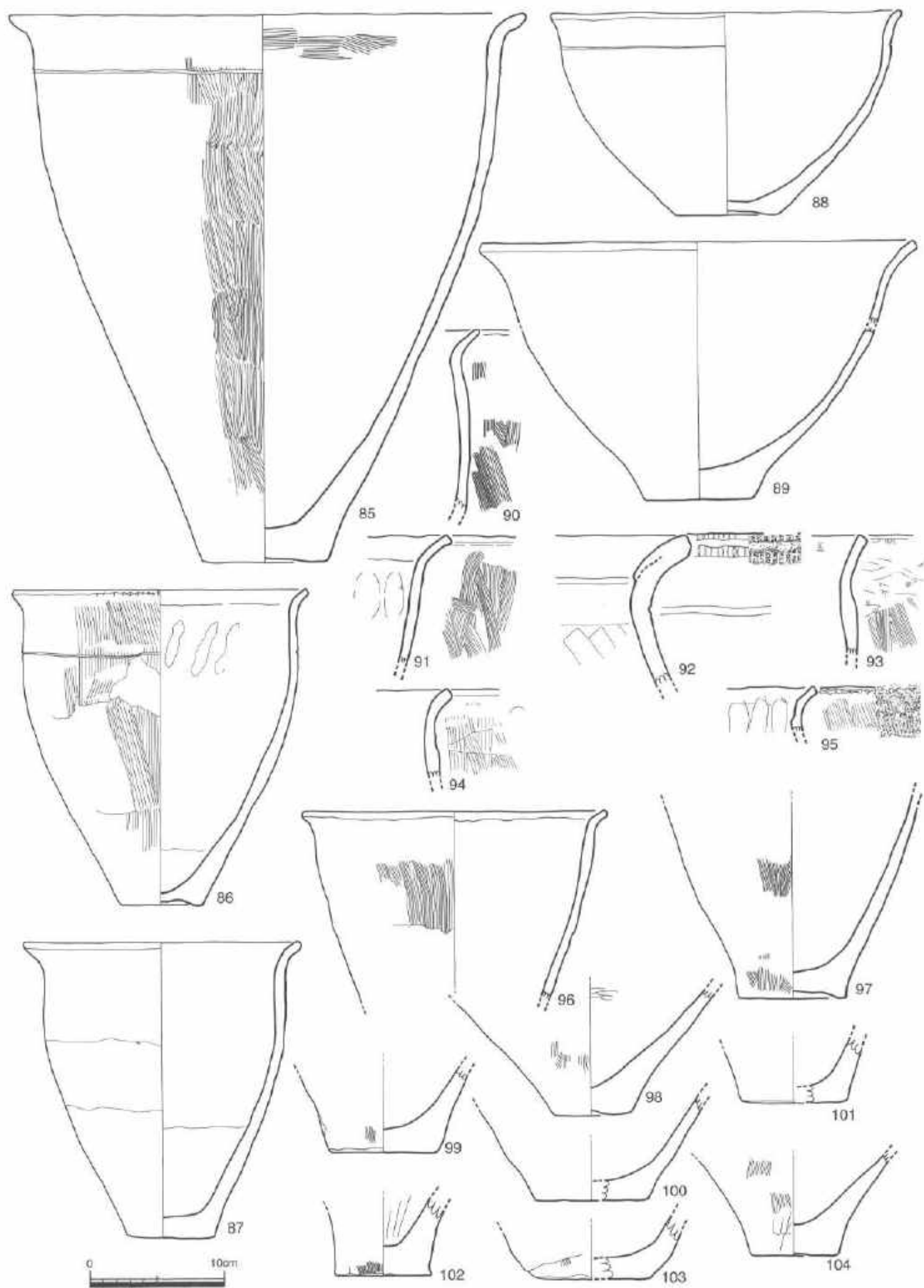


SU5

第11图 B区SU4·5出土文物实测图 (1/4)



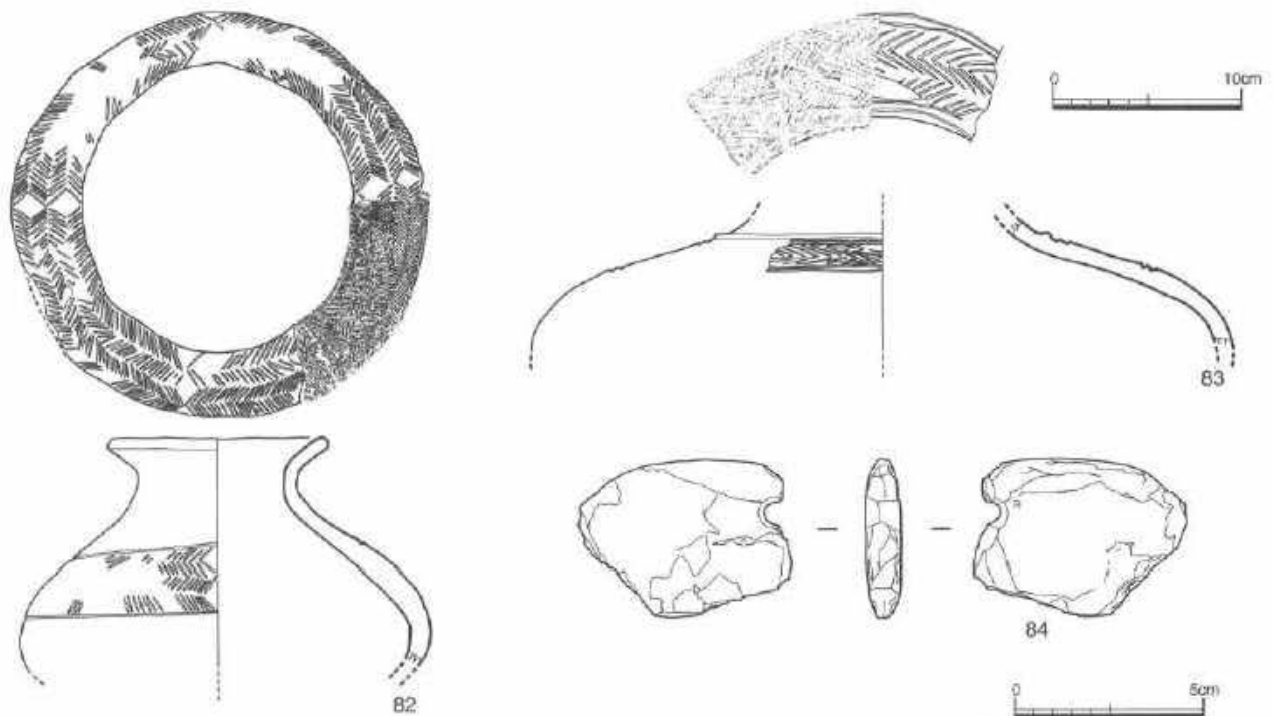
第12図 B区SU6～11遺構実測図 (1/60)



第13图 B区SU6出土遗物实测图 (1/4)

SU6〔遺構：第12図、第3表、図版4／遺物：第13・14図、第4表、図版6〕

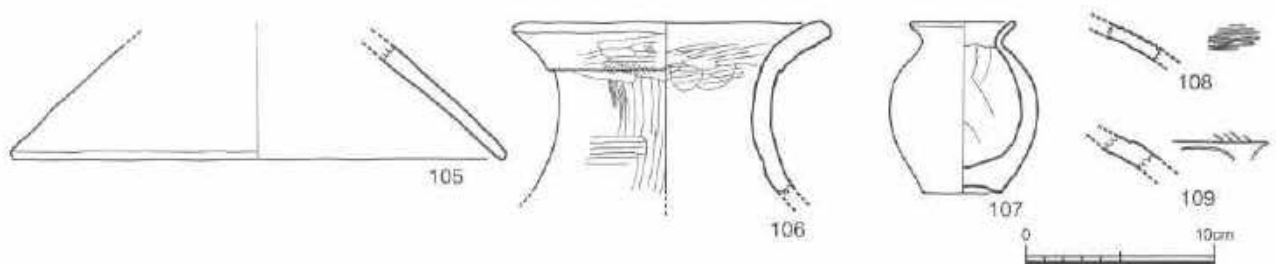
SU6は、SC1とSC5の間より検出された。周囲には、南東5.62mにSU2、同方向3.70mにSU5、北西3.69mにSU8、南西2.90mにSU10、西3.05mにSU13が存在する。調査当初は平面形が不整楕円形を呈しており土坑と考え掘削したが、地表から15cm程掘削したところで壁がオーバーハングしはじめたため貯蔵穴であることが確認された。底部平面形は円形である。断面形は地表から20～80cmまでは竪穴状に掘削され、そこから床面までは台形で袋状B型である。埋土はほぼ自然堆積状で中層から上層の一部に焼土を含む層が認められる。



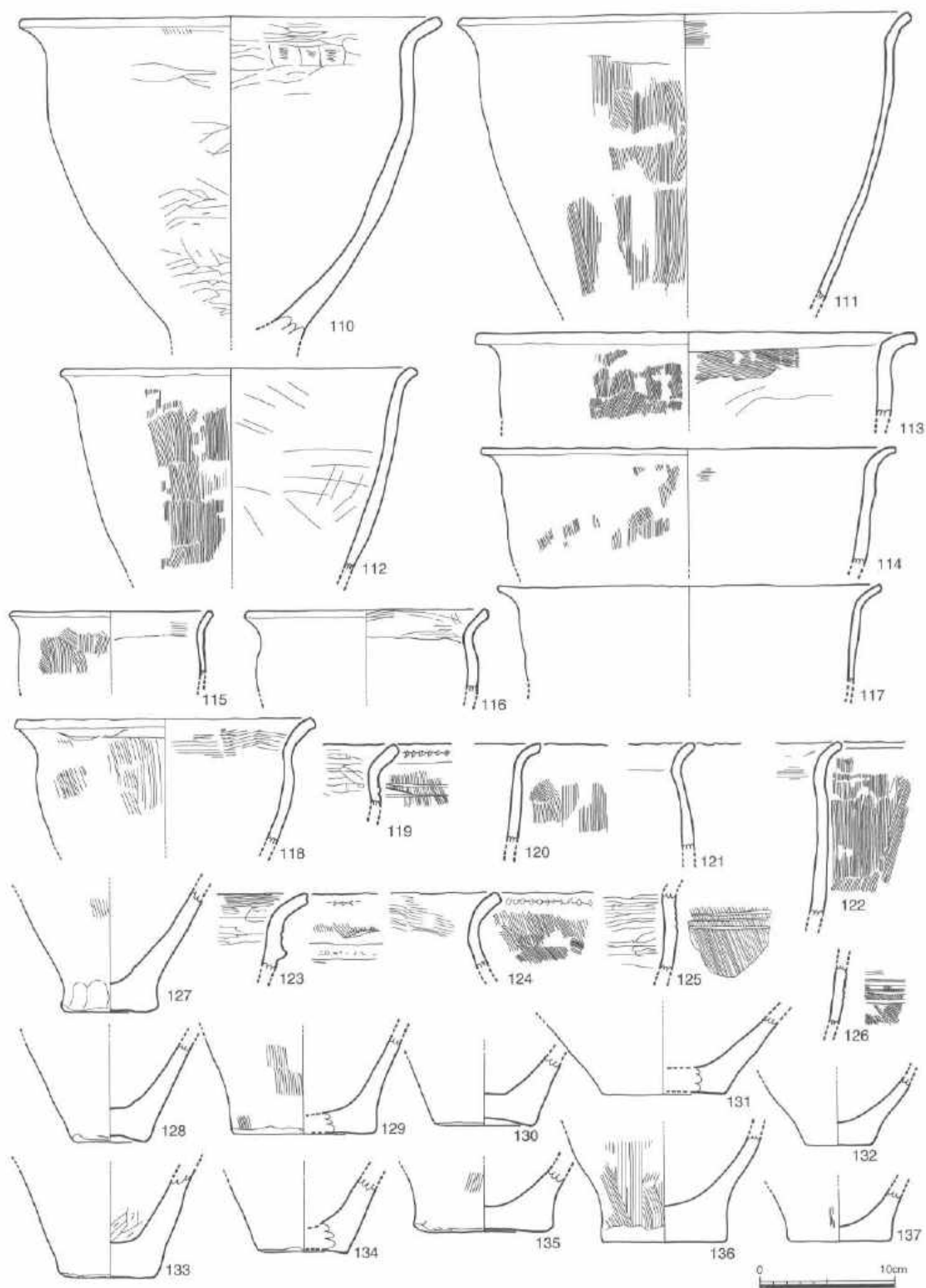
第14図 B区SU6出土遺物実測図 土器（1/4）石器（1/2）

SU7〔遺構：第12図、第3表、図版4／遺物：第15・16図、第4表、図版6〕

SU7は、調査区の最も南東側より検出された。北西側に接するようにSU16があり、同方向3.80mにSU4が存在する。検出当初は平面形が円形を呈し、断面は台形A型であり、さらに埋土を完掘して床面を再度精査していたところ、床面北側より円形の掘り込みを検出した。この掘り込みは直径1.1～1.3m、深さ40cm



第15図 B区SU7出土遺物実測図（1/4）

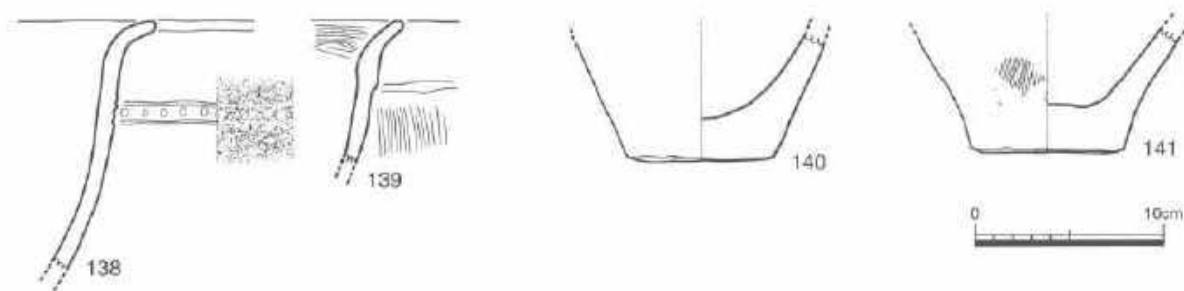


第16图 B区SU7出土遗物实测图 (1/4)

である。土層での観察はできなかったものの、貯蔵穴に付随するものと考えられる。この貯蔵穴に関しては、調査中大雨によりオーバーハングした壁が崩落し、原形を留めておらず、図面も崩落後の図面となった。この後、極力このような事態を避けるために検出後すぐに検出平面形を図示し、掘削後に壁が崩落しても下場ラインと合成することで、原形に近い状態の図面を作成するようにした。完掘後の平面写真と図面には若干の違いが生じているのはこのためである。

SU8（遺構：第12図、第3表、図版4／遺物：第17図、第4表）

SU8は、調査区の中央で、SC5の埋土を除去した後に検出された。西に検出されているSU11に切られており、周辺には南東3.69mにSU6、北西2.60mにSU12、南西3.88mにSU13が所在する。検出面および底部平面形は円形で、断面形は台形A型である。



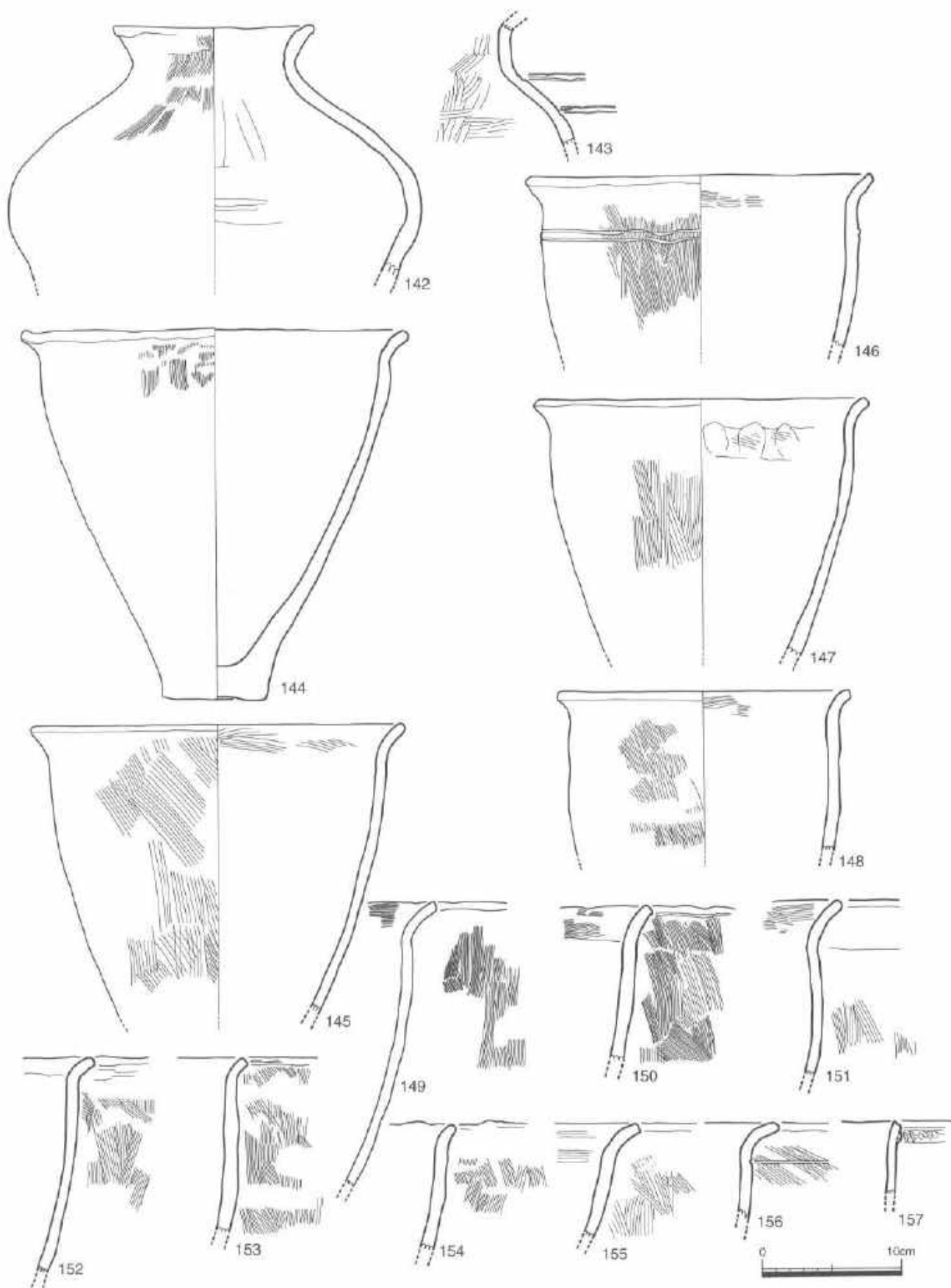
第17図 B区SU8出土遺物実測図（1/4）

SU9（遺構：第12図、第3表、図版4／遺物：第18・19図、第4表、図版6）

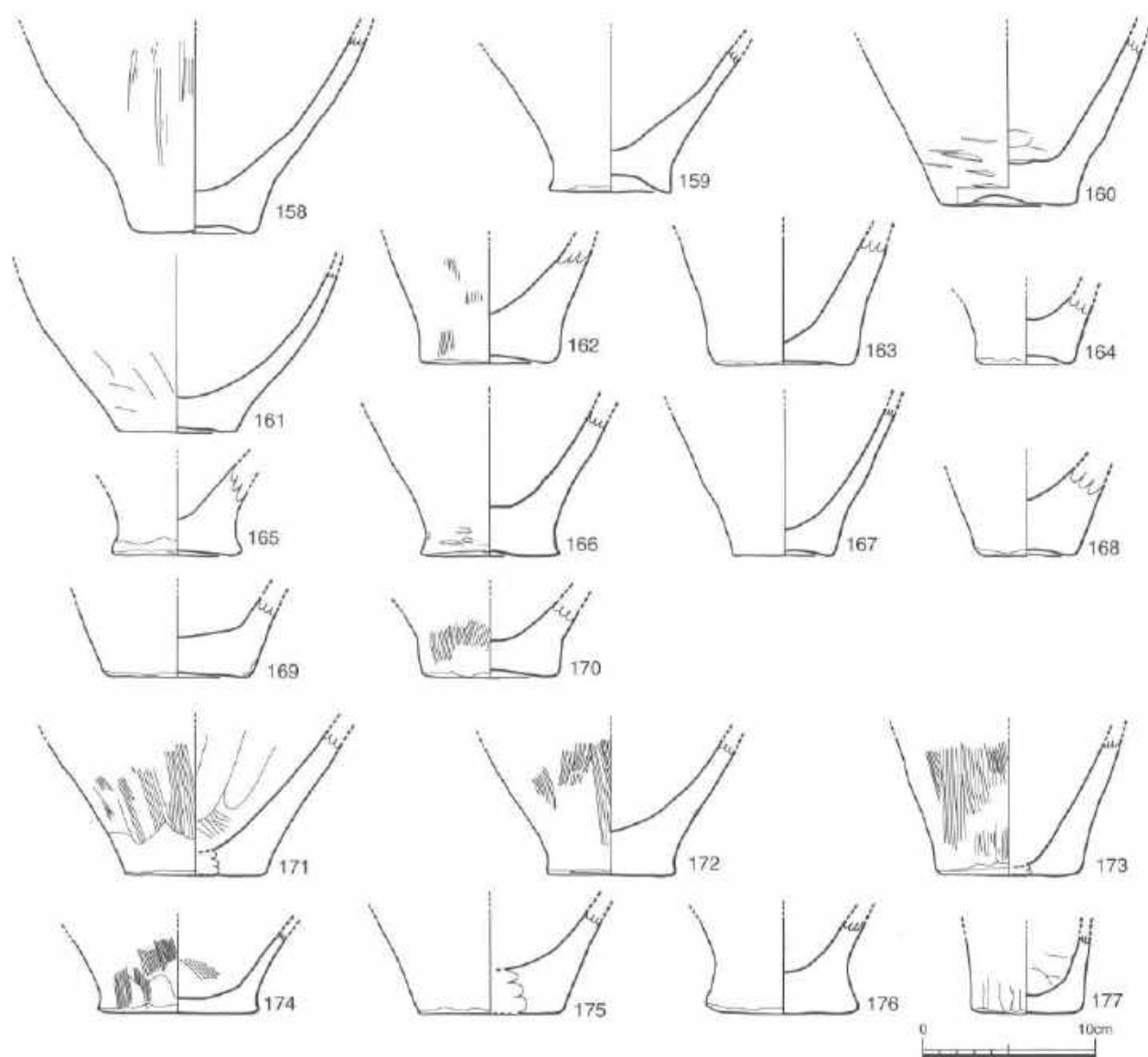
SU9は、SC1の南側コーナーに切られた状態で検出された。調査区の南東側で北側に近接してSU3、東4.85mにSU4、北西3.63mにSU5、西3.61mにSU14が所在する。調査区内の貯蔵穴の中では最も深い。検出平面形は円形を呈し、底部平面形も円形である。断面形は下半部がやや膨らむ方形B型である。埋土は土層の観察から、最初は壁の崩落などで一気に埋まったものが、その後の自然堆積で徐々に埋まったものと考えられる。

SU10（遺構：第12図、第3表、図版4／遺物：第19・20図、第4表、図版6）

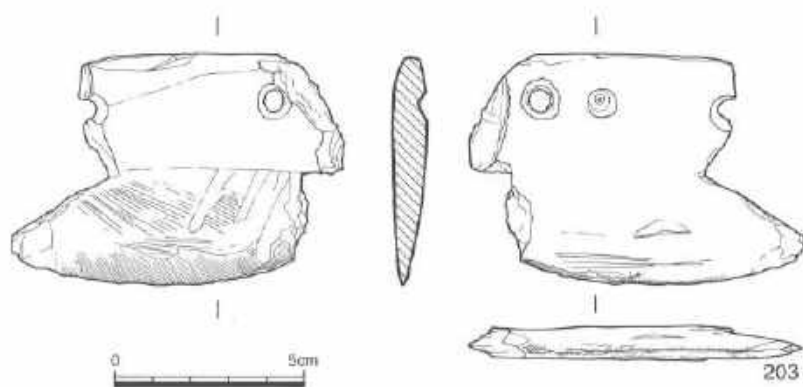
SU10は、SU15と並んで西側の一部をSD1に切られる。南西側にSU15が近接している他、東4.15mにSU5、北東2.90mにSU6、北西1.80mにSU13、南東3.55mにSU14、南西3.28mにSU19が所在する。検出面の平面形はほぼ円形であるが、底部平面形は東側が張り出し、やや歪な円形を呈す。断面形はほぼ台形A型である。北側の壁もやや張り出し、SU6と一部貫通する。



第18图 B区SU9出土遗物实测图 (1/4)

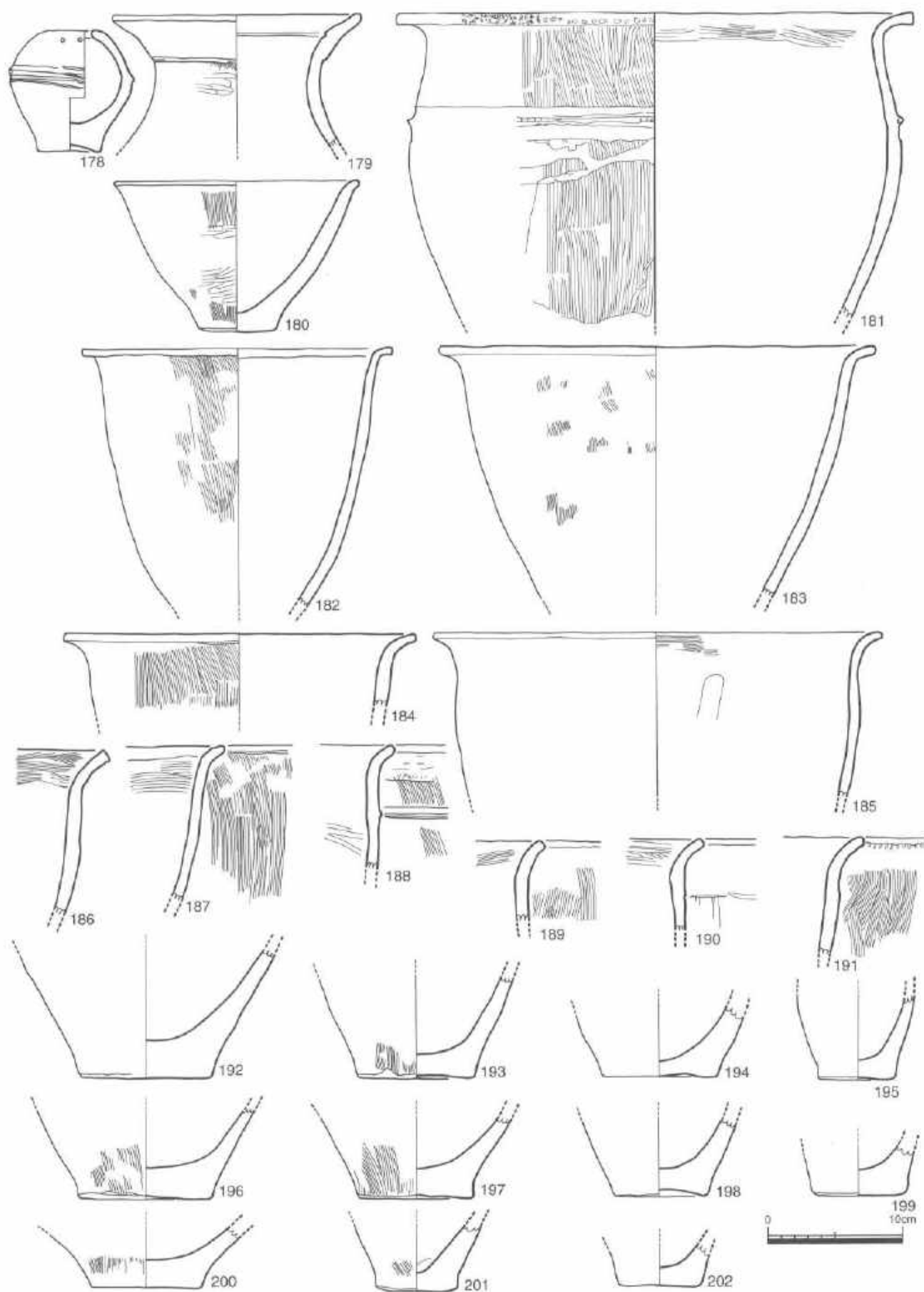


SU9



SU10

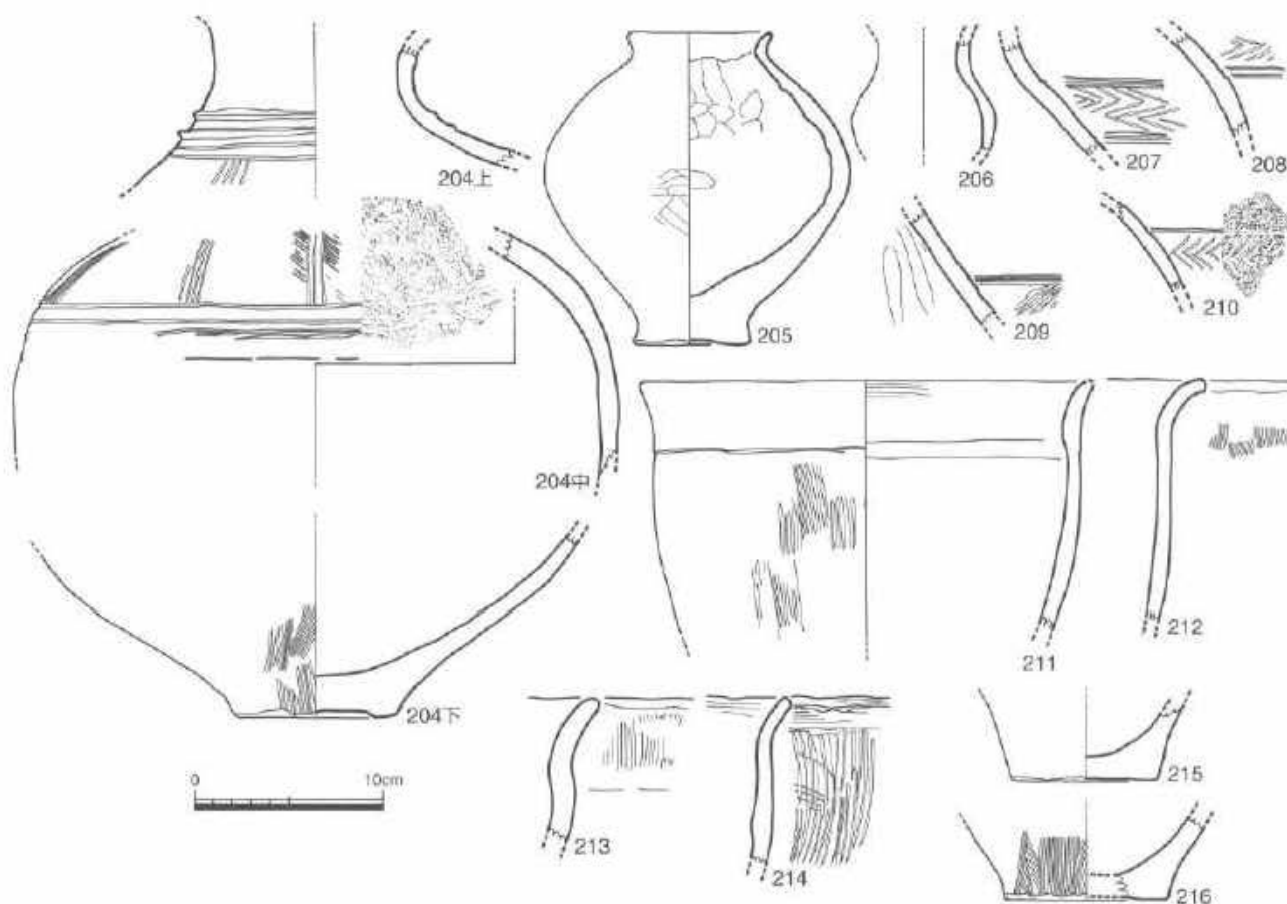
第19图 B区SU9·10出土遗物实测图 土器 (1/4) 石器 (1/2)



第20图 B区SU10出土遗物实测图 (1/4)

SU11（遺構：第12図、第3表、図版4／遺物：第21図、第4表、図版6）

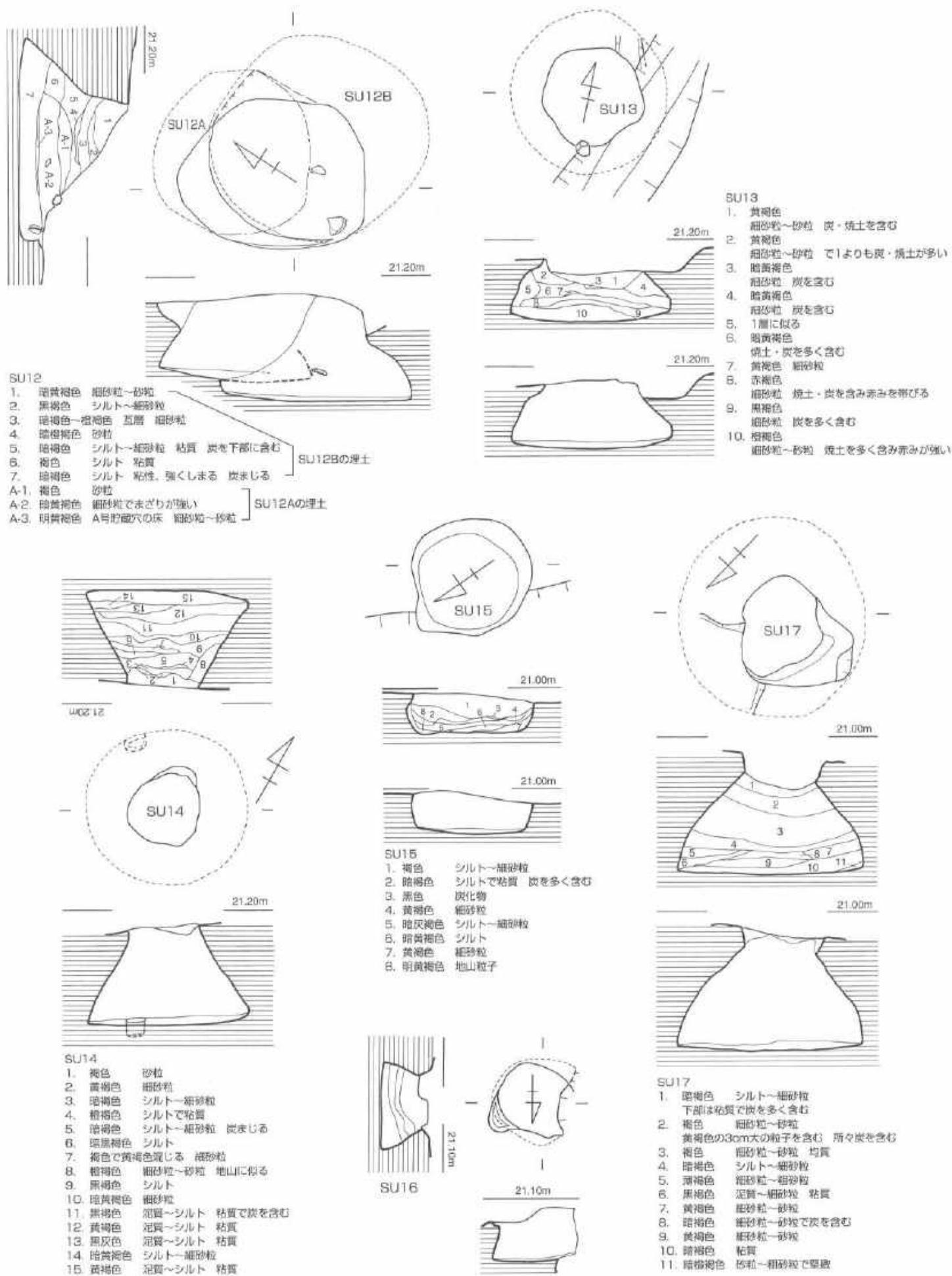
SU11は、SK1の東側、SC5の西側より検出され、東側ではSU8を切り、北西側ではSU12が接している。周囲には南3.68mにSU13、西6.10mにSU20が存在する。検出当初は小規模な楕円形を呈し、土坑として掘削を進めたが、炭および焼土を検出したところで焼土坑と判断し図化した。その後さらに掘削を進めたが、壁はオーバーハングし、深さも増したことから、貯蔵穴の上層であったことが判明した。



第21図 B区SU11出土遺物実測図（1/4）

SU12（遺構：第22図、第3表、図版4／遺物：第23図、第4表、図版7）

SU12は、2基が切り合っており、古い方をSU12B、新しい方をSU12Aとした。調査区北西側より検出され、南西側がほぼ全域にわたってSK1によって削平される。周辺には南東側に隣接してSU11があり、南4.73mにSU18、南西5.98mにSU20が存在する。平面形はSK1の埋土を除去後に円形で検出された。土層観察の結果、SU12Bの埋土が埋まった後に再度SU12Aを掘削したものと考えられる。床面はSU12BよりSU12Aが20cm浅く、規模も小さくなる。



第22図 B区SU12～17遺構実測図 (1/60)

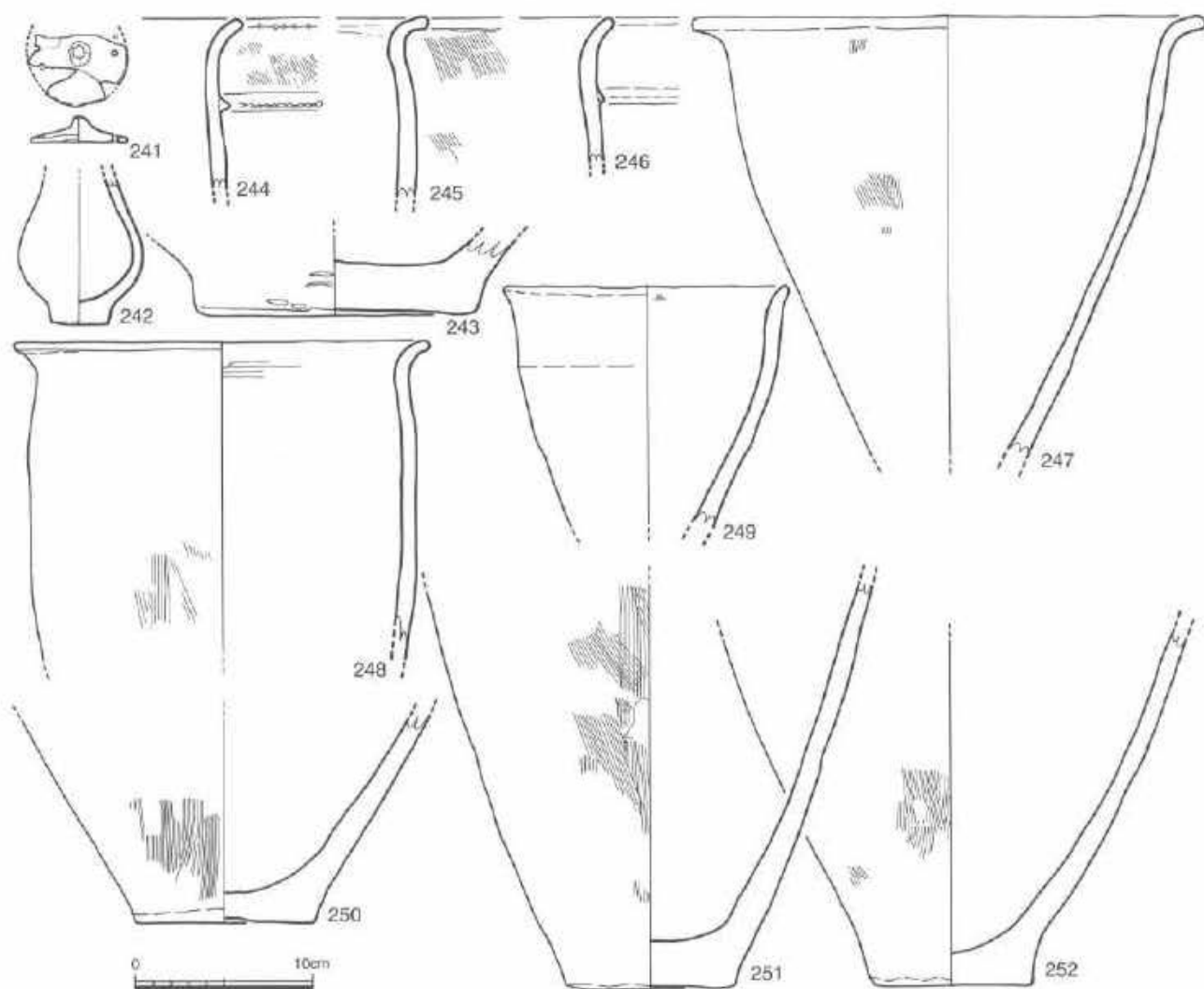


217・218はSU12Aそれ以外はSU12B

第23図 B区SU12A・B出土遺物実測図 土器 (1/4) 石器 (1/2)

SU13（遺構：第22図、第3表、図版4／遺物：第24図、第4表、図版7）

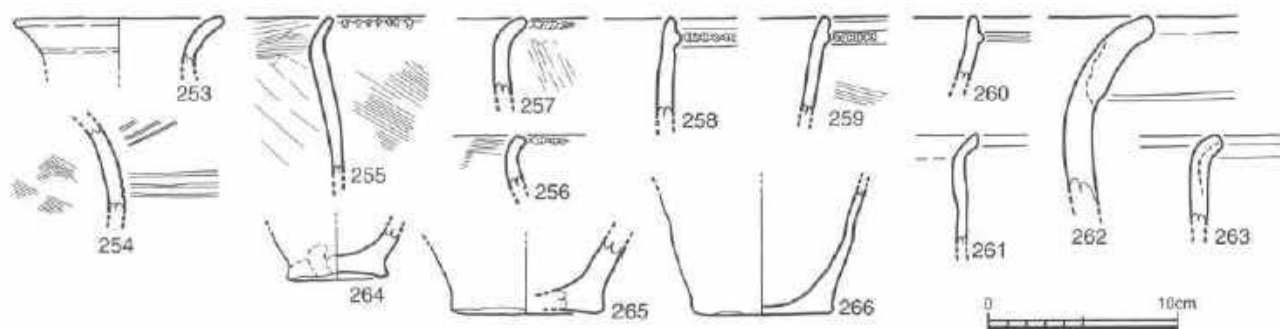
SU13は、SD1に切られて検出され、周辺には東3.05mにSU6、南東1.80mにSU10、南2.52mにSU15、西4.00mにSU18、南西3.20mにSU19、北側にSU8・11・12が存在する。平面形は円形で底部平面形も円形であった。断面形は台形A型で床面がやや凹レンズ状の弧を描く。埋土は、他の貯蔵穴に比べ焼土や炭などの炭化物を多く含んでいた。



第24図 B区SU13出土遺物実測図（1/4）

SU14（遺構：第22図、第3表、図版5／遺物：第25図、第4表）

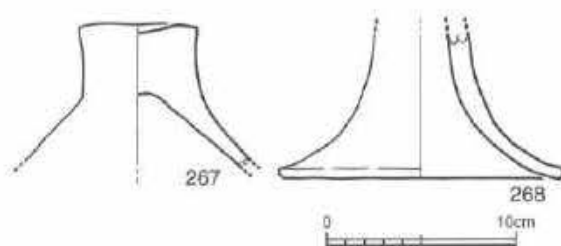
SU14は、SC1の南西側より検出され、北東2.40mにSU5、東3.61mにSU9、北西3.55mと3.52mにSU10とSU15、南西2.32mにSU17が存在する。検出当初から平面形は円形で、床面平面形も円形を呈する。床面北西側に柱状の窪みが認められる。断面形は均整のとれた台形A型である。



第25図 B区SU14出土遺物実測図 (1/4)

SU15 (遺構：第22図、第3表、図版5／遺物：第26図、第4表)

SU15は、SD1の東側に検出され、西側の一部がSD1によって切られる。北東側のSU10とは近接し、北2.52mにはSU13、南東3.52mにはSU14、南3.17mにはSU17、西2.39mにはSU19が所在する。SU10と並んで2基は土坑状に検出された。検出面および底部平面形は円形で、断面形は方形B型である。深さは検出面から最大53cmと浅く、床面の状況から周辺の貯蔵穴と比べても当初から浅かったものと考えられる。

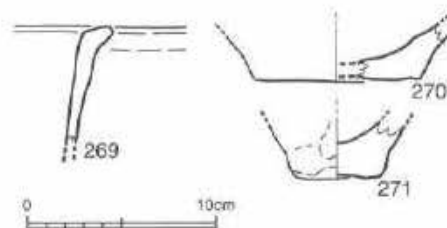


第26図 B区SU15出土遺物実測図 (1/4)

SU16 (遺構：第22図、第3表、図版5

／遺物：第27図、第4表)

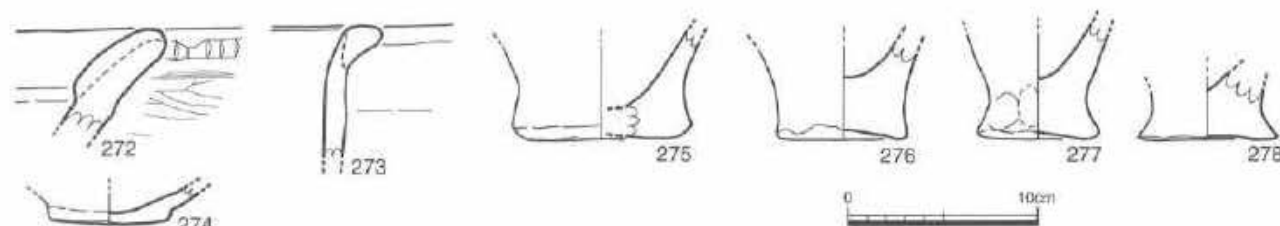
SU16は、調査区の南東側において、SU7の西側に接するように検出された。検出面および床面の平面形は円形を呈し、断面形は台形A型を呈する。周辺の貯蔵穴に比べSU24と同様かなり小形である。



第27図 B区SU16出土遺物実測図 (1/4)

SU17 (遺構：第22図、第3表、図版5／遺物：第28図、第4表)

SU17は、調査区の南側より検出され、周辺には東5.22mにSU9、北東2.32mにSU14、北3.17mにSU15、北西4.63mにSU19、西8.17mにSU22が所在する。南側は畑の段で大きく削平される。検出当初は、平面形が不整形円形の土坑状に検出され、30cm程掘り下げたところではほぼ円形に検出された。底部平面形はほぼ円形で、断面形は袋状B型である。



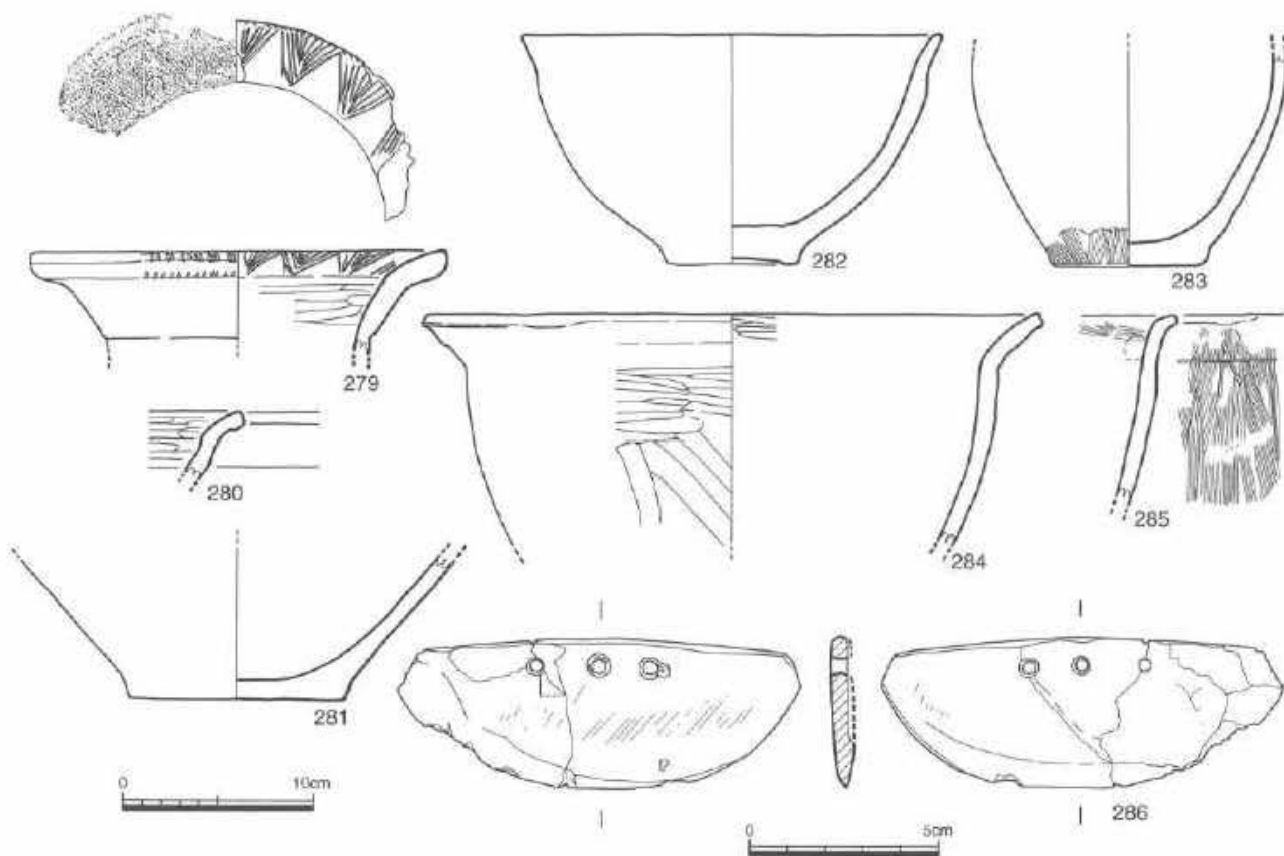
第28図 B区SU17出土遺物実測図 (1/4)

SU18（遺構：第30図、第3表、図版5）

SU18は、北西側の大部分をSK1によって削平される。周辺には北東4.10mにSU11、北4.73mにSU12、東4.00mにSU13、南東3.94mにSU19、西2.70mにSU20が存在する。底部平面形は円形で断面形は台形A型である。

SU19（遺構：第30図、第3表、図版5／遺物：第29図、第4表、図版7）

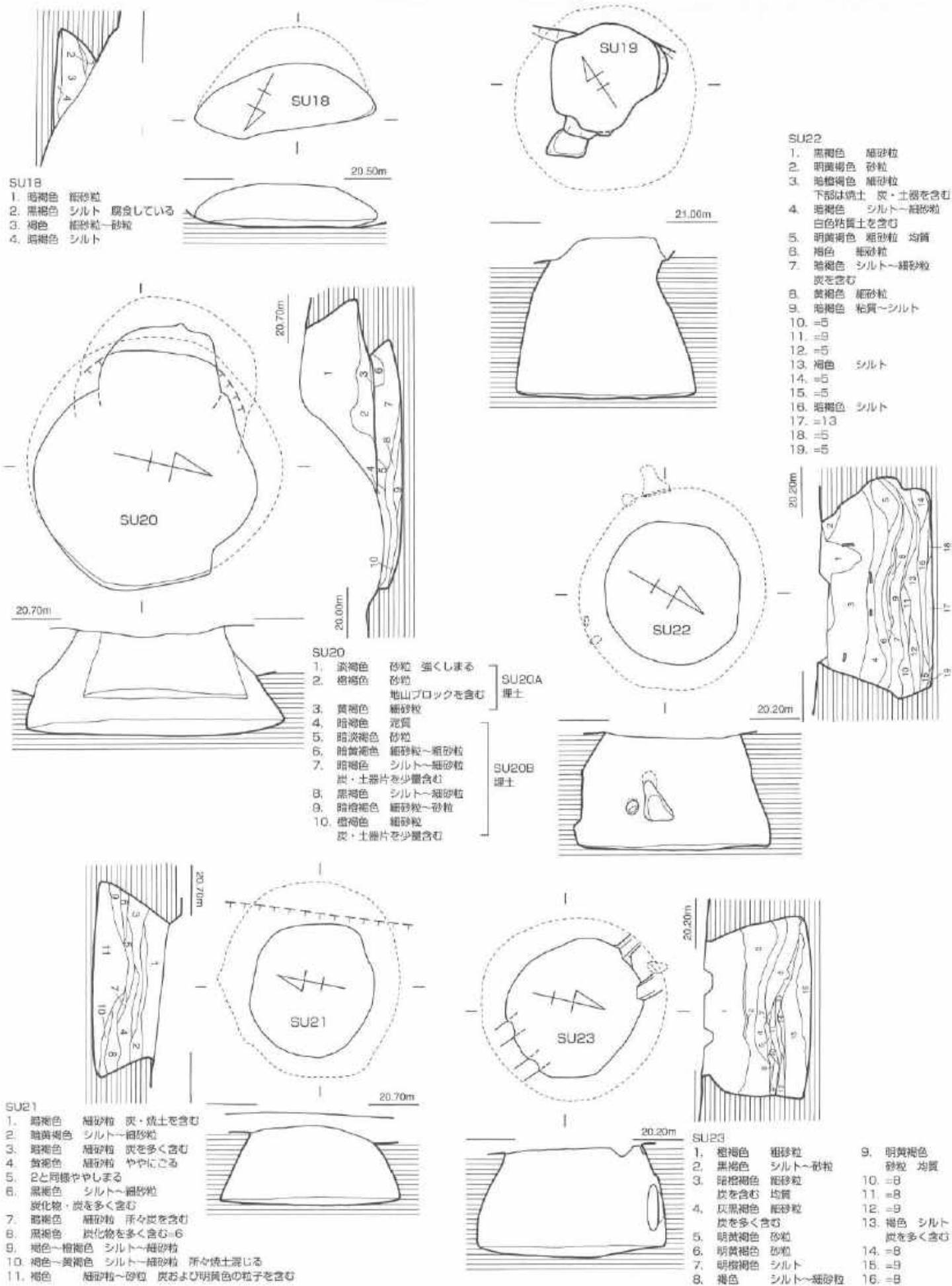
SU19は、SC3の北東側より検出された。周辺には北東3.28mにSU10、北東3.20mにSU13、東2.39mにSU15、北西3.94mにSU18、南西5.17mにSU22が存在する。検出平面形は歪な円形で、底部平面形は整った円形を呈する。断面形は台形A型で北壁はほぼ直角、南壁はオーバーハングし、開口部がやや北に寄っている。



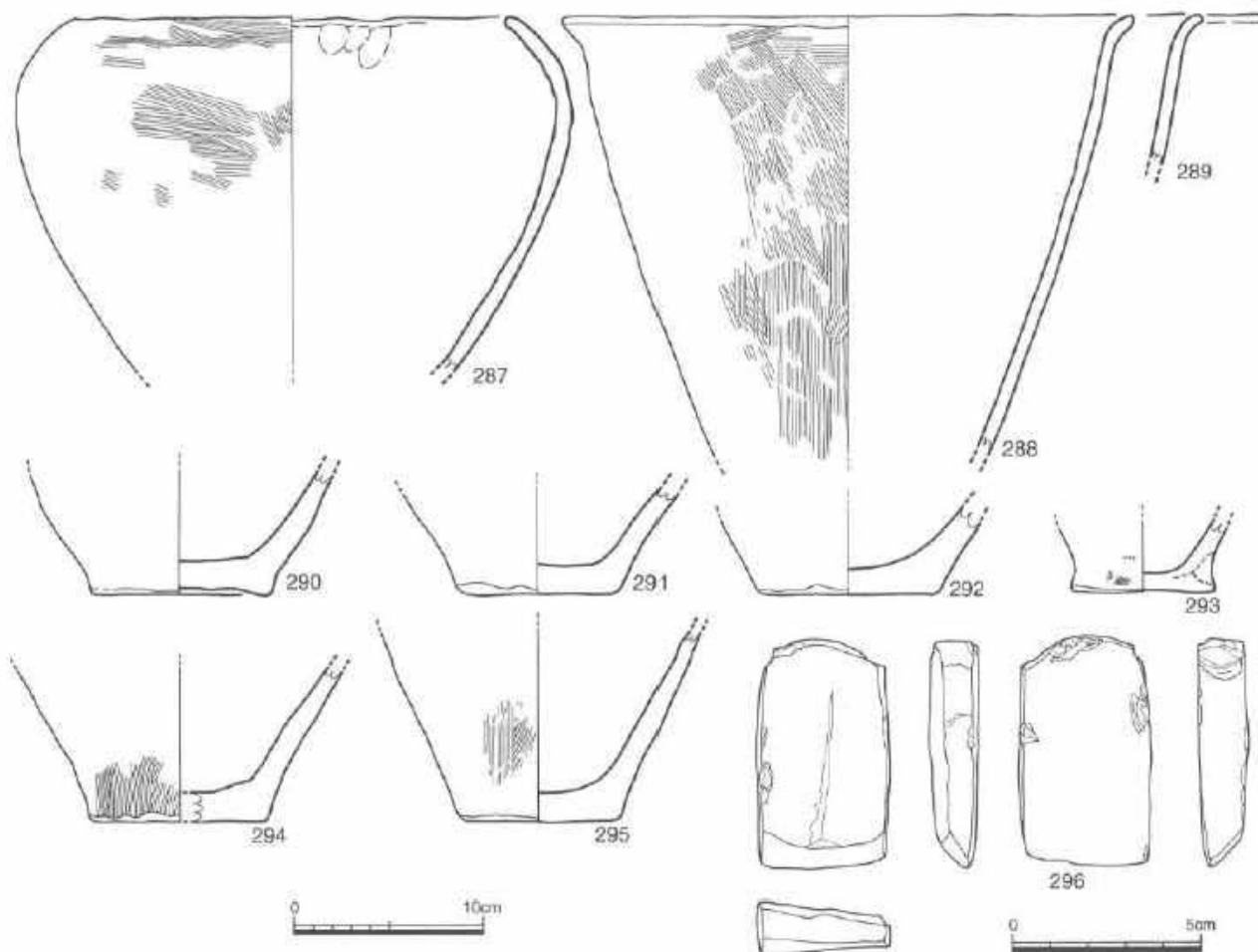
第29図 B区SU19出土遺物実測図 土器（1/4）石器（1/2）

SU20（遺構：第30図、第3表、図版5／遺物：第31図、第4表、図版7）

SU20は、2基が切り合っており、古い方をSU20B、新しい方をSU20Aとした。調査区西側より検出され、東側がほぼ全域にわたってSK1によって削平される。周辺には北東5.98mにSU12、東2.70mにSU18、西側に近接してSU21が存在する。平面形はSK1の埋土を除去後に円形で検出された。土層観察の結果、SU20Bの埋土が埋まった後に再度SU20Aを掘削したものと考えられる。床面はSU20BよりSU20Aが30cm浅く、規模も小さくなる。SU20Aは地山に似た埋土で遺物をほとんど含んでいなかった。断面形はいずれも台形A型である。



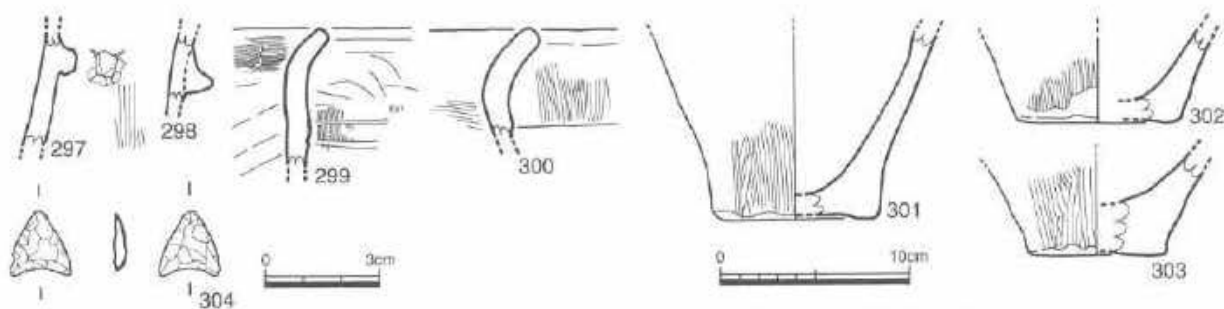
第30図 B区SU18~23遺構実測図 (1/60)



第31図 B区SU20B出土遺物実測図 (1/4)

SU21 (遺構：第30図、第3表、図版5／遺物：第32図、第4表、図版7)

SU21は、調査区の西端に位置する。東側には近接してSU20が存在し、SU20Aの床面の一部が接する。検出面および底部平面形は円形で断面形は台形A型である。埋土は下層の中央部分が盛り上がるような堆積で、その後その上に沿うように堆積している。

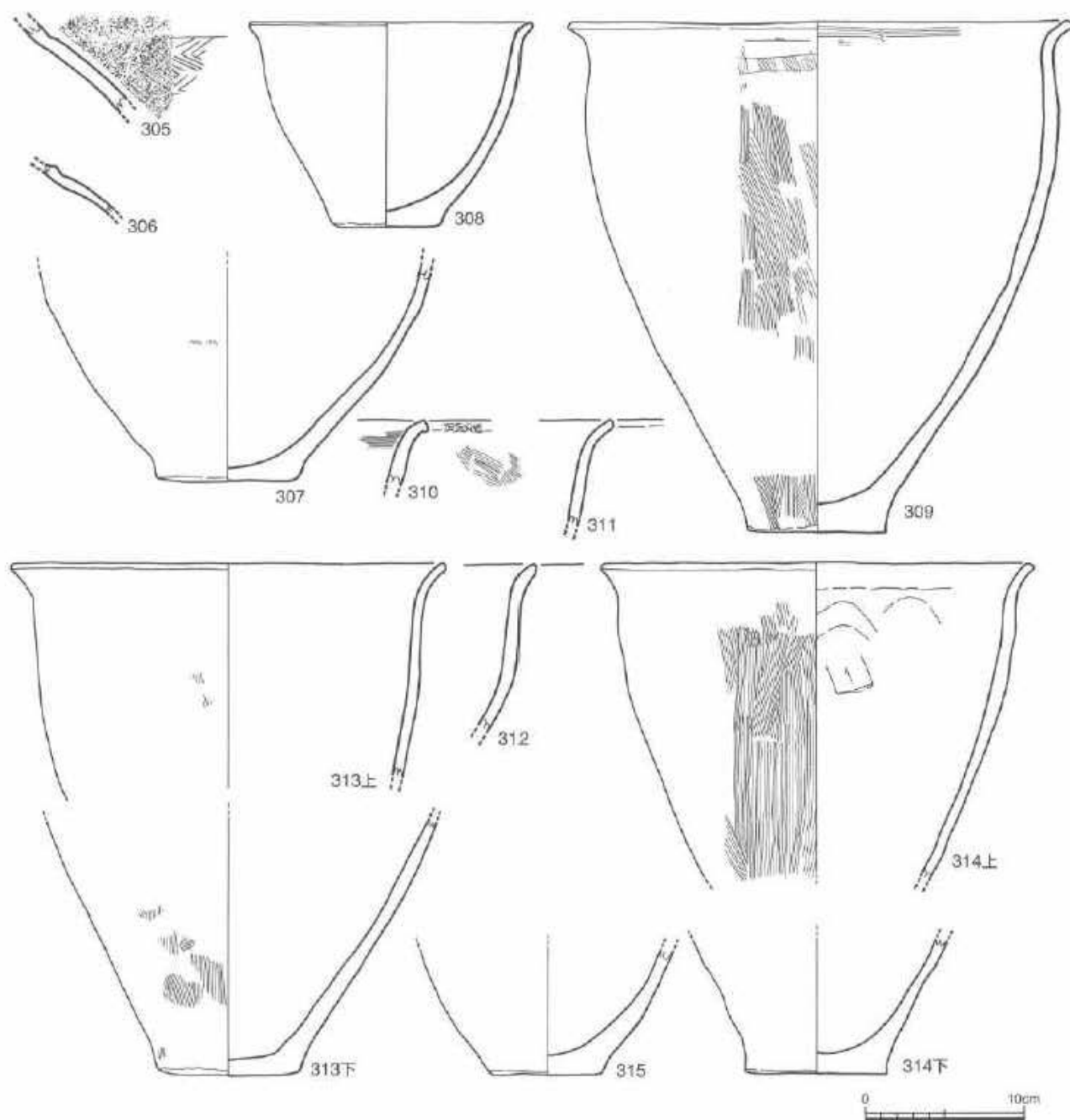


第32図 B区SU21出土遺物実測図 土器 (1/4) 石器 (1/2)

SU22 (遺構：第30図、第3表、図版5／遺物：第33図、第4表、図版7)

SU22は、調査区の南西側に検出され、SC3の埋土および炉などを除去後に検出された。周辺には、北東

5.17mにSU19、北7.30mにSU20、西3.19mにSU23が所在する。検出面および底部平面形は円形で、断面形は歪ながらも台形A型である。壁には南東側と南西側の一部に杭状の掘削痕が認められる。埋土は下層の中央部分が盛り上がるような堆積で、その後その上に沿うように堆積している。

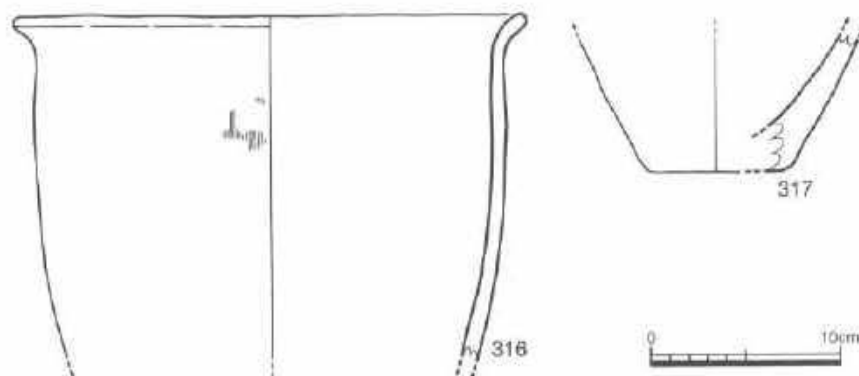


第33図 B区SU22出土遺物実測図（1/4）

SU23（遺構：第30図、第3表、図版5／遺物：第34図、第4表）

SU23は、調査区の南西端より検出された。周辺には北東8.09mにSU18、北北東7.35mにSU20、北7.71mにSU21、東3.19mにSU22が所在する。上面は2条の溝に切られるが、検出面および底面平面形は円形を呈し、

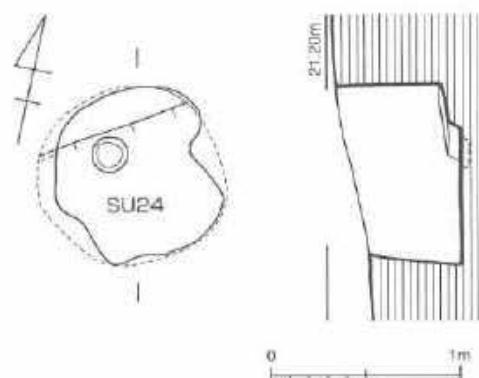
断面形は台形A型である。壁の北西側には杭状の掘削痕が認められる。埋土は下層の中央部分が盛り上がるような堆積で、その後その上に沿うように堆積している。



第34図 B区SU23出土遺物実測図(1/4)

SU24 (遺構：第35図、第3表)

SU24は、調査区の南側で、SU4の南西側に検出された。検出面および床面の平面形は円形を呈し、断面形は台形A型を呈する。周辺の貯蔵穴に比べかなり小形である。また床面にはSU4同様の断層によるずれが検出された。



第35図 B区SU24遺構実測図(1/40)

第3表 B区SU1～24遺構計測表

()は復元値 単位(m)

遺構番号	調査区	平面形	断面形	底径	深さ	上面標高	床面標高	遺構挿図	遺物挿図
SU1	B区	円形	台形C	2.26	1.72	21.53	19.81	第8図	6～36
SU2	B区	円形	台形C	2.12	0.90	20.96	20.06	第8図	37～46
SU3	B区	円形	台形A	2.38	0.77	20.91	20.14	第8図	47～55
SU4	B区	円形	台形A	3.56	1.56	21.10	19.54	第8図	56～74
SU5	B区	円形	方形B	1.61	0.35	21.00	20.65	第8図	75～81
SU6	B区	円形	袋状B	2.22	1.61	21.24	19.63	第12図	82～104
SU7	B区	円形	台形A	2.37	1.38	21.10	19.72	第12図	105～137
SU8	B区	円形	台形A	2.30	1.11	21.08	19.97	第12図	138～141
SU9	B区	円形	方形B	2.53	2.00	21.02	19.02	第12図	142～177
SU10	B区	円形	台形A	2.55	1.63	21.10	19.47	第12図	178～203
SU11	B区	円形	台形A	1.53	0.64	21.04	20.40	第12図	204～216
SU12A	B区	円形	台形A	(1.88)	1.05	21.00	19.95	第22図	217～218
SU12B	B区	円形	袋状B	2.27	1.29	20.97	19.68	第22図	219～240
SU13	B区	円形	台形A	1.93	0.84	21.04	20.20	第22図	241～252
SU14	B区	円形	台形A	1.98	1.20	21.02	19.82	第22図	253～266
SU15	B区	円形	方形B	1.32	0.53	20.98	20.45	第22図	267～268
SU16	B区	円形	台形A	1.07	0.57	20.91	20.34	第22図	269～271
SU17	B区	円形	袋状B	2.47	1.50	20.82	19.32	第22図	272～278
SU18	B区	円形	台形A	2.22	0.51	20.43	19.92	第30図	—
SU19	B区	円形	台形A	2.18	1.92	20.82	18.90	第30図	279～286
SU20A	B区	円形	台形A	2.12	0.87	20.61	19.74	第30図	—
SU20B	B区	円形	台形A	3.12	1.33	20.61	19.28	第30図	287～296
SU21	B区	円形	台形A	2.18	0.97	20.45	19.48	第30図	297～304
SU22	B区	円形	台形A	2.29	1.45	20.05	18.60	第30図	305～315
SU23	B区	円形	台形A	2.27	1.38	20.14	18.76	第34図	316～317
SU24	B区	円形	台形A	0.96	0.66	21.15	20.49	第35図	—

第4表 B区SU1～23出土遺物計測表

番号	出土地点	器種	器形	計測単位 cm	胎土	色調	焼成
第3面 6 13頁	B区SU1	弥生	鉢やや定	口径16.3・胴部最大径15.2・底径6.2・器高11.6	赤褐色および白色の粗砂粒を所々含む。ほかシルト・細砂粒質	内面下半部黒色、口縁一部浅黄褐色・外面浅黄褐色～橙色、一部黒色	やや良
7	B区SU1	弥生	甕胴部から上半部	口径15.8	len 大の礫～粗砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面橙色底部の一部にぶい橙色・外面にぶい黄褐色～橙色	やや良
8	B区SU1	弥生	甕上半部	口径(28.4)・胴部最大径(26.8)	石英質の小礫や粗砂粒を多く含む、ほかシルト質	内面全体的に暗赤褐色・外面所々暗赤褐色でススの付着する部分は灰褐色～黒色	良
9	B区SU1	弥生	甕上半部	口径(26.8)・胴部最大径(25.6)	石英質の砂粒～粗砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい褐色～黒褐色・外面橙色～黒褐色	やや良
10	B区SU1	弥生	甕上半部	口径(22.0)・胴部最大径(19.5)	白色および有色の粗砂粒を所々含み金雲母も含む、ほか細砂粒質	内面にぶい黄褐色・外面にぶい橙色で全体的にスス状の付着が認められる	良
11	B区SU1	弥生	甕口縁部	口径(21.2)・胴部最大径(18.6)	白色の粗砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい褐色～灰褐色・外面赤～暗赤灰色	やや良
12	B区SU1	弥生	甕上半部	口径(22.8)・胴部最大径(22.0)	小礫を所々含む、ほかシルト～砂粒質	内面にぶい黄褐色～ぶい褐色・外面浅黄褐色～ぶい褐色～褐灰色	やや良
13	B区SU1	弥生	甕口縁部	—	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい黄褐色・外面にぶい褐色で底部はやや褐灰色	良
14	B区SU1	弥生	甕上半部	—	粗砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい褐色～褐灰色・外面にぶい褐色	やや良
15	B区SU1	弥生	甕口縁部	—	有色の粗砂粒を所々含む、ほか細砂粒質	内面全体的に浅黄褐色・外面胴部は褐色で口縁付近は灰白色～褐灰色	良
16	B区SU1	弥生	甕上半部	—	粗砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面浅黄褐色～ぶい褐色・外面口縁浅黄褐色下半部黒およびぶい褐色	良
17	B区SU1	弥生	甕上半部	—	白色および灰色の粗砂粒を多く含む、ほかシルト質～細砂粒質	内面にぶい褐色～灰褐色・外面にぶい褐色～褐色で一部黒色	やや良
18	B区SU1	弥生	甕上半部	—	シルト～砂粒で均質	内面浅黄褐色～褐色でムラがある、外面褐灰色～褐色	やや不良
19	B区SU1	弥生	甕上半部	—	小礫を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内外面ともに褐色～灰黄色	やや良
20	B区SU1	弥生	甕口縁部	—	粗砂粒を多く含む、ほかシルト質	内面明赤褐色～褐色・外面褐色で一部褐灰色	やや良
21	B区SU1	弥生	甕口縁部	—	シルト～砂粒質	内外面ともにぶい褐色・断面浅黄褐色	良
22	B区SU1	弥生	甕胴部	—	白色の粗砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい黄褐色・外面にぶい褐色～ぶい褐色	やや良
23	B区SU1	弥生	甕上半部	—	小礫や粗砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面褐色～ぶい褐色・外面褐色で一部黒褐色	良
24	B区SU1	弥生	甕上半部	—	所々粗砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい黄褐色・外面黒褐色～灰黄褐色	良
第10面 25 13頁	B区SU1	弥生	甕底部	底径(10.2)	白色の粗砂粒および砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面黒褐色～ぶい褐色・外面褐色	やや良
26	B区SU1	弥生	甕下半部	底径6.0・底部外径7.4	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～砂粒質	内面灰褐色～黒褐色・外面褐色～赤褐色	やや良
27	B区SU1	弥生	甕底部 蓋か?	底径7.1・底部くびれ径6.8	粗砂粒から小礫を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内外面共にぶい黄褐色から黒褐色	やや良
28	B区SU1	弥生	甕底部	—	粗砂粒と赤色粒子を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい黄褐色・外面にぶい黄褐色～ぶい褐色	やや良
29	B区SU1	弥生	甕下半部	底径(8.4)・底部外径(9.4)	白色の粗砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい褐色で黒色にススける・外面にぶい褐色で所々褐灰色	やや良
30	B区SU1	弥生	甕下半部	底径7.7	赤色および白色の砂粒～粗砂粒を多く含む、ほか細砂粒質	内面黒褐色～褐色・外面褐色	やや良
31	B区SU1	弥生	甕下半部	底径8.5	小礫や粗砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面赤褐色・外面赤褐色で底部および胴部の一部暗赤灰色	良
32	B区SU1	弥生	甕底部	底径(8.6)	赤褐色粒子および粗砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面浅黄褐色～褐灰色・外面にぶい褐色～灰白色	やや良
33	B区SU1	弥生	甕下半部	底部外径(6.2)	小礫や粗砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面褐色で一部褐灰色・外面にぶい黄褐色～褐色	やや不良
34	B区SU1	弥生	甕?底部	底径6.5	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～砂粒質	内面にぶい黄褐色・外面にぶい褐色	やや良
35	B区SU1	弥生	甕?底部	底径(9.4)	赤褐色粒子を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面褐灰色～黒褐色・外面にぶい黄褐色・断面褐灰色	やや良
36	B区SU1	弥生	甕底部	底径(9.4)	白色の砂粒・粗砂粒を多く含む、ほかシルト質	内外面ともに暗灰色	やや良
37	B区SU2	弥生	甕上半部	口径(27.6)	赤褐色や白色の小礫および粗砂粒を含む、ほかシルト～砂粒質	内面にぶい黄褐色～ぶい褐色・外面褐灰色～ぶい褐色	やや良
38	B区SU2	弥生	甕上半部	—	小礫を所々含む、ほかシルト～砂粒質	内面にぶい黄褐色～褐灰色・外面にぶい褐色～黒褐色	やや良
39	B区SU2	弥生	甕上半部	—	砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面褐色・外面にぶい黄褐色と黒色	やや良
40	B区SU2	弥生	甕口縁部	—	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面褐色・外面黒褐色	良
41	B区SU2	弥生	甕口縁部	—	砂粒～粗砂粒を含む、ほかシルト質	内外面ともに褐色	やや良

番号	出土地点	器種	器形	計測単位 (cm)	胎土	色調	焼成
42	B区 SU2	弥生	甕底部	底径7.2	粗砂粒を含む、ほかシルト質	内面褐色・外面にぶい黄褐色	やや良
43	B区 SU2南半	弥生	甕底部	底径(7.4)	一部小礫を含む粗砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい褐色・外面にぶい黄褐色～にぶい褐色～褐灰色で底になる	やや良
44	B区 SU2南半	弥生	甕底部?	底部外径(5.5)	粗砂粒を含む、ほかシルト質	内面にぶい黄褐色・外面にぶい褐色	やや良
45	B区 SU2南半	弥生	甕底部	底径(6.5)	一部小礫を含む白色の砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい赤褐色・外面褐色～にぶい褐色	良
46	B区 SU2	弥生	甕底部 蓋か?	底部くびれ径5.2・底径6.5・底部外径7.1	赤褐色粒子や小礫を所々含む、ほかシルト～砂粒質	内面褐灰色～黒褐色・外面褐色	やや良
47	B区 SU3	弥生	小壺	口径(10.8)・胴部最大径(10.0)・底径6.0・器高8.5	シルト～砂粒質で均質	内面黒色・外面灰黄褐色～黒褐色・断面灰白色	やや良
48	B区 SU3北半	弥生	甕上半部	口径(20.8)・胴部最大径(18.2)	小礫や赤褐色の粗砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面浅黄褐色・外面灰褐色	やや良
49	B区 SU3	弥生	甕口縁部	—	砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面褐灰色で一部褐色・外面にぶい黄褐色～にぶい褐色	やや良
50	B区 SU3北半	弥生	甕底部	底径(8.7)・底部外径(10.3)	粗砂粒および砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい褐色胴部褐色・外面褐色	良
51	B区 SU3	弥生	甕底部	底径(8.0)	粗砂粒を所々含む、ほか粗砂粒質	内面有機物の付着により黒褐色・外面褐色～にぶい褐色	やや良
52	B区 SU3北半	弥生	甕底部	底径7.9	白色の砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい褐色・外面にぶい褐色と褐色	やや良
53	B区 SU3	弥生	甕底部	底径(12.8)	粗砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面浅黄褐色～にぶい黄褐色・外面にぶい褐色・底部にぶい黄褐色	やや良
54	B区 SU3	弥生	甕底部	—	粗砂粒を含む、ほかシルト質	内面にぶい黄褐色・外面にぶい褐色	やや良
55	B区 SU3	弥生	甕底部	底径外径7.3	粗砂粒および砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面浅黄褐色～褐灰色・外面褐色～浅黄褐色で一部黒底	良
第1編 56 14頁	B区 SU4床面	弥生	甕口縁から胴部の一部欠	口径12.0・胴部最小径9.8・胴部最大径15.8・底径7.8・器高20.1～20.3	白色の砂粒や粗砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質で均質	内面上半部褐灰色、下半部明赤褐色・外面黒色～にぶい赤褐色	良
57	B区 SU4	弥生	甕胴部	—	砂粒を含むがその中で赤褐色粒子を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい黄褐色・外面にぶい褐色～灰白色で一部褐灰色	やや良
58	B区 SU4下層	弥生	甕上半部	口径(15.2)・胴部最小径(13.6)・胴部最大径(14.8)	赤褐色の粗砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい黄褐色～褐灰色・外面にぶい黄褐色	やや良
59	B区 SU4	弥生	甕口縁部	—	粗砂粒から砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内・外面ともに褐色～にぶい褐色、口縁部付近は黒褐色	やや良
60	B区 SU4	弥生	甕口縁部	—	白色および赤色の小礫を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面浅黄褐色・外面浅黄褐色で一部褐灰色	良
61	B区 SU4	弥生	甕口縁部	—	一部小礫で赤褐色砂粒を含む、ほか粗砂粒質	内面褐灰色～にぶい黄褐色・外面にぶい黄褐色とにぶい褐色が底になる	やや良
62	B区 SU4下層	弥生	甕口縁部	—	砂粒を多く含む、ほかシルト質	内面口縁部付近にぶい褐色、ほか灰色・外面にぶい褐色	良
63	B区 SU4下層	弥生	甕口縁部	—	全体的に細砂粒～砂粒質	内面黒から褐灰色・外面にぶい黄褐色	やや良
64	B区 SU4	弥生	甕口縁部	—	砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい赤褐色～黒褐色・外面にぶい黄褐色	やや良
65	B区 SU4	弥生	甕口縁部	—	シルト～砂粒質で均質	内・外面ともに褐色	良
66	B区 SU4	弥生	甕上半部	口径(27.8)	赤褐色の粗砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面褐色口縁部一部にぶい黄褐色・外面にぶい黄褐色・口縁の一部褐色	やや良
67	B区 SU4	弥生	鉢か?	口径(20.8)	小礫を所々含む、ほかシルト～砂粒質	内面褐色・外面口縁にぶい黄褐色～黒褐色・下半褐色	やや良
68	B区 SU4	弥生	甕底部	底部外径(10.0)	粗砂粒および砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内・外面ともに褐色・外面底部の一部褐灰色	やや良
69	B区 SU4	弥生	甕底部	底径(7.8)	小礫や粗砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい褐色と浅黄褐色が底になる・外面明赤褐色～にぶい褐色・断面灰褐色	やや良
70	B区 SU4	弥生	甕底部	底径(6.0)	有色の小礫を多く含む、ほか細砂粒質	内面にぶい黄褐色・外面胴部にぶい褐色・褐灰色底部中心灰白色、断面褐灰色	やや不良
71	B区 SU4	弥生	甕底部	底径7.9	白色の粗砂粒を所々含む、ほか細砂粒質	内面黒～黒褐色・外面赤・底部黒褐色	やや不良
72	B区 SU4	弥生	甕底部	底径外径7.9	白色赤褐色および金雲母などが混じった砂粒や粗砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面褐色・外面褐色で一部黒色	やや良
73	B区 SU4	弥生	甕底部	底径7.5	粗砂粒および砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい黄褐色・外面褐色～にぶい褐色	やや良
74	B区 SU4	弥生	甕底部	底部外径7.5・底部くびれ径6.6	白色の砂粒を所々含む、ほかシルト質	内・外面ともに褐色・外面底部の一部黒色	やや良
75	B区 SU5	弥生	甕口縁～胴部	口径(22.0)・胴部最小径(15.6)	白色・赤色・金雲母などの砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい褐色・一部黒色・外面口縁部褐灰色、胴部浅黄褐色で赤色の筋料を散布	良

番号	出土地点	器種	器形	計測単位 cm	胎土	色調	焼成
76	B区 SU5	弥生	甕上半部	口径(20.6)・胴部最大径(19.4)	白色の粗砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面口縁部暗赤灰色で一部赤色、胴部におい褐色・外面褐色で所々に赤褐色	やや不良
77	B区 SU5	弥生	甕上半部	—	白色の砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面黒褐色と黄褐色で一部赤色・外面赤褐色～褐色	やや良
78	B区 SU5	弥生	甕上半部	—	白色粗砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面褐色・外面明赤褐色で一部褐色	やや不良
79	B区 SU5	弥生	甕上半部	—	白色および赤褐色の粗砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面黒色～黄褐色・外面暗黄褐色	やや不良
80	B区 SU5	弥生	甕下半部	底径7.8・底部穿孔最小径1.1	粗砂粒～砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面におい褐色で底付近は側面が黒褐色・外面褐色～におい褐色	やや良
81	B区 SU5	弥生	甕下半部	底径8.0・底部穿孔最小径1.7	白色の粗砂粒を多く含む、ほか細砂粒～シルト質	内面明赤褐色、底部付近暗赤褐色・外面胴部および底部におい赤褐色～褐色	やや良
第14図 82 17頁	B区 SU6	弥生	甕上半部	口径(10.8)・頸部最小径(8.4)・胴部最大径21.7	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面褐色で表面の剥がれた部分浅黄色・外面におい黄褐色～におい赤褐色で一部黒褐色	やや良
83	B区 SU6	弥生	壺肩部	—	粗砂粒および砂粒を所々含む、ほかシルト質	内面におい黄褐色・外面赤色～褐色、一部褐色	良
84	B区 SU6	磨製具未製品	—	長5.6+α・幅3.6+α・厚0.9	凝灰岩質	灰青色～紫灰色	—
第13図 85 16頁	B区 SU6	弥生	甕	口径(38.0)・胴部最大径(34.7)・底径9.3・器高40.5	シルト～砂粒で均質	内面褐色一部におい黄褐色・外面口縁褐色・胴部黒褐色～褐色、底部におい黄褐色	良
86	B区 SU6	弥生	甕3/4	口径(21.6)・胴部最大径(20.4)・底径6.0・器高23.3	有色の小漣や粗砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面におい黄褐色、胴部下半黒色・外面灰黄褐色で下半部褐色	やや良
87	B区 SU6	弥生	甕	口径20.2・胴部最大径18.0・底径6.6・器高22.0	シルト～砂粒質で均質	内面上半におい黄褐色、下半黒褐色・外面上半黒～黒褐色、下半赤～におい褐色	下半2次焼成 やや良
88	B区 SU6	弥生	鉢	口径(25.4)・底径7.4・器高15.0	粗砂粒～砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面褐色～におい赤褐色・外面褐色で一部黒縁による黒色	やや良
89	B区 SU6	弥生	鉢?	口径(31.8)・底径8.0・器高(20.0)	有色の粗砂粒・砂粒を多く含む、ほかシルト質	内面におい褐色・外面におい黄褐色一部黒色	やや良
90	B区 SU6	弥生	甕上半部	—	シルト～砂粒質で均質	内面褐色・外面褐色で所々黒色～黒褐色	やや良
91	B区 SU6	弥生	甕上半部	—	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面におい褐色～黒褐色・外面全体的に灰褐色一部有機物を含む	やや良
92	B区 SU6	弥生	大型甕口縁部	—	シルト～砂粒質で均質	内面浅黄褐色・外面におい黄褐色～褐色、口縁部の一部黒褐色	良
93	B区 SU6	弥生	甕口縁部	—	赤褐色の小漣を所々含む、ほか細砂粒～砂粒質	内面におい褐色で表面の剥がれた部分は灰白色・外面におい黄褐色で所々黒褐色	やや良
94	B区 SU6	弥生	甕口縁部	—	粗砂粒を所々含む、ほか細砂粒質	内面におい黄褐色・外面におい黄褐色～灰黄褐色	やや良
95	B区 SU6	弥生	甕口縁部	—	粗砂粒～砂粒を所々含む、ほかシルト質	内面灰黄色～暗灰色・外面灰黄褐色・断面浅黄褐色	良
96	B区 SU6	弥生	甕上半部	口径(22.2)	粗砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面におい黄褐色～褐色で一部黒色・外面黒褐色～におい黄褐色	2次焼成を やや良
97	B区 SU6	弥生	甕底部	底径7.9	白色および赤褐色の粗砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質で均質	内面褐色～におい褐色・外面褐色～灰褐色でやや強がある	やや良
98	B区 SU6	弥生	壺底部	底径5.7	砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面におい黄褐色で一部黒色・外面褐色～におい黄褐色	やや良
99	B区 SU6	弥生	甕底部	底径7.6	粗砂粒を含む、ほか細砂粒～砂粒質	内面におい黄褐色～褐色・外面褐色で底部褐色	やや良
100	B区 SU6	弥生	(鉢)壺底部	底径(8.4)	白色粗砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面におい黄褐色・外面におい褐色～赤褐色	やや良
101	B区 SU6	弥生	甕底部	底径(7.6)	粗砂粒を所々含む、ほか細砂粒～砂粒質	内面黒褐色～におい褐色・外面におい褐色	やや良
102	B区 SU6	弥生	甕底部	底径7.0	細砂粒～砂粒質で均質	内面褐色・外面浅黄褐色～赤色で底部褐色	やや良
103	B区 SU6	弥生	甕?底部	底径(8.6)	赤褐色粒子を所々含む、ほかシルト～砂粒質	内面におい黄褐色～灰黄褐色・外面におい褐色で底部褐色	やや良
104	B区 SU6	弥生	甕底部	底径6.4	白色の粗砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面灰褐色～黒褐色・外面褐色	やや良
第13図 105 17頁	B区 SU7	弥生	蓋の一部	口径(25.8)	シルト～砂粒質で均質	内面褐色で一部褐色・外面におい褐色で一部褐色	良
106	B区 SU7上層	弥生	甕上半部	口径(15.6)・頸部径11.1～10.7	白色の砂粒や赤色粒子を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面褐色～褐色・外面におい赤褐色	良
107	B区 SU7下部堅穴	弥生	小壺	口径(5.1)・頸部径(4.1)・胴部最大径7.8・底径4.0・器高9.0	赤褐色や白色の粗砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内・外面ともににおい黄褐色	やや良
108	B区 SU7	弥生	甕肩部	—	砂粒～粗砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内・外面ともに黒褐色・断面におい褐色	やや良

番号	出土地点	器種	器形	計測単位 cm	胎土	色調	焼成
109	B区 SU7西側半分中層	弥生	甕肩部	—	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～砂粒質	内面にぶい黄褐色・外面褐色	やや良
前109 110 111	B区 SU7	弥生	甕底部欠	口径31.0・胴部最大径27.2	粗砂粒や砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面明赤褐色一部黒色・外面褐色～赤褐色で一部黒色	良
111	B区 SU7	弥生	甕上半部	口径(33.4)・胴部最大径(31.0)	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい黄褐色～褐色・外面浅黄褐色～褐色	やや良
112	B区 SU7下部堅穴	弥生	甕上半部	口径(25.8)・胴部最大径(23.2)	褐色や白色の粗砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい黄褐色・外面灰褐色～にぶい赤褐色で一部黒色で斑がある	やや良
113	B区 SU7北西側	弥生	甕口縁部	口径(33.4)	粗砂粒～砂粒(所々に金雲母有り)を含む、ほかシルト質	内面褐色・外面褐色～にぶい褐色	良
114	B区 SU7北西側	弥生	甕上半部	口径(30.8)・胴部最大径(28.0)	粗砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面浅黄褐色・外面灰褐色	やや良
115	B区 SU7北側	弥生	甕口縁部	口径(14.8)・胴部最大径(14.0)	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～砂粒質	内面にぶい褐色～にぶい黄褐色・外面にぶい褐色に黒褐色	やや良
116	B区 SU7北側	弥生	甕上半部	口径(17.6)・胴部最大径(16.6)	粗砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい褐色口縁褐灰色・外面にぶい褐色	やや良
117	B区 SU7北側	弥生	甕上半部	口径(28.3)・胴部最大径(25.4)	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～砂粒質	内面浅黄褐色・外面にぶい黄褐色	やや不良
118	B区 SU7	弥生	甕上半部	口径(22.0)・胴部最大径(19.3)	粗砂粒を含む、ほかシルト～砂粒質	内面灰白色～にぶい褐色・外面浅黄褐色～灰黄褐色	やや良
119	B区 SU7西側半分中層	弥生	甕口縁部	—	砂粒や粗砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい褐色・外面にぶい赤褐色で一部灰褐色	良
120	B区 SU7北側	弥生	甕口縁部	—	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい黄褐色と黒色・外面にぶい褐色と黒色	良
121	B区 SU7	弥生	甕口縁部	—	小礫や粗砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい黄褐色・外面浅黄褐色で一部黒色	やや不良
122	B区 SU7北側	弥生	甕上半部	—	粗砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面灰白色～暗灰色・外面にぶい黄褐色～黒褐色	やや良
123	B区 SU7西側半分中層	弥生	甕口縁部	—	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内・外面ともに褐色～にぶい赤褐色	良
124	B区 SU7北西側	弥生	甕口縁部	—	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい褐色～黒色・外面にぶい褐色で縁部灰色	良
125	B区 SU7北西側	弥生	甕胴部	—	砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい褐色～灰褐色・外面にぶい褐色で一部黒色	良
126	B区 SU7西側全段	弥生	甕胴部	—	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～砂粒質	内・外面ともににぶい褐色	やや良
127	B区 SU7北側	弥生	甕底部	底部外径(7.1)	粗砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面灰白色・外面褐色で斑がある	やや良
128	B区 SU7下部堅穴	弥生	甕底部	底径5.3	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～砂粒質	内面褐色・外面褐色	やや良
129	B区 SU7北西側	弥生	甕底部	底径(10.4)	粗砂粒や砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい黄褐色・外面にぶい褐色～にぶい黄褐色・断面灰色	やや良
130	B区 SU7北側	弥生	甕底部	底径(7.0)・底部外径(7.4)	砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい褐色～褐色・外面褐色で一部褐色	やや良
131	B区 SU7北西側	弥生	甕底部	底径(9.0)	赤褐色粒子や粗砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面褐色・外面にぶい赤褐色	やや不良
132	B区 SU7北側	弥生	小甕底部	底径(4.8)	赤褐色粒子を所々含む砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面黒色～にぶい黄褐色・外面褐色～にぶい褐色	やや不良
133	B区 SU7西側全段	弥生	甕底部	底径6.5・底部外径7.3	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～砂粒質	内面にぶい黄褐色・外面にぶい黄褐色で一部にぶい褐色と褐色	やや良
134	B区 SU7西側半分中層	弥生	甕底部	底径(6.4)	粗砂粒を含む、ほかシルト～砂粒質	内面にぶい褐色・外面褐色	やや良
135	B区 SU7西側全段	弥生	甕底部	底径9.0・底部外径10.3	粗砂粒を含む、ほかシルト～砂粒質	内面にぶい褐色・外面にぶい黄褐色～褐色	やや良
136	B区 SU7	弥生	甕底部	底径(9.4)	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質で均質	内面にぶい黄褐色～褐色・外面にぶい黄褐色～褐色で底部褐色	やや良
137	B区 SU7北側	弥生	甕底部	底径(7.2)	砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい褐色～灰褐色・外面褐色	やや良
前137 138 139	B区 SU8	弥生	甕上半部	—	小礫や粗砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内・外面ともににぶい黄褐色～灰白色	やや良
139	B区 SU8	弥生	甕口縁部	—	粗砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面明赤褐色・外面にぶい褐色	やや不良
140	B区 SU8	弥生	甕底部	底径7.8	粗砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい赤褐色と黄褐色・外面にぶい赤褐色	やや良
141	B区 SU8	弥生	甕底部	底部外径(8.2)	粗砂粒や砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面明赤褐色～褐色・外面褐色～明赤褐色	やや良
前140 142 143	B区 SU9	弥生	甕上半部	口径(14.0)・胴部最小径(11.8)・胴部最大径(29.6)	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～砂粒質で均質	内面露胎は褐色で表面灰褐色・外面褐色～褐色	やや良
143	B区 SU9	弥生	甕上半部	—	砂粒や赤褐色粒子と小礫を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面褐色・外面にぶい褐色	良
144	B区 SU9	弥生	甕	口径27.2・胴部最大径25.3・底径7.5・器高26.7	白色および赤褐色の粗砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面浅黄褐色～黒褐色一部黒色・外面上半部褐色～黒褐色下半部褐色	やや良

番号	出土地点	器種	器形	計測単位 cm	胎土	色調	焼成
145	B区 SU9北半	弥生	甕上半部	口径(36.2)・胴部最大径(24.4)	粗砂粒および赤褐色粒子を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面橙色～にぶい橙色・外面にぶい黄橙色～灰褐色	やや良
146	B区 SU9	弥生	甕上半部	口径(24.4)・胴部最大径(23.0)	白色や赤褐色の小礫を所々含む、ほかシルト～砂粒質	内面にぶい橙色～黒色・外面浅黄橙色～にぶい橙色と黒色	良
147	B区 SU9北半	弥生	甕上半部	口径(23.4)・胴部最大径(21.8)	粗砂粒や砂粒、赤褐色粒子を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい黄橙色～灰色・外面橙色～褐灰色	やや良
148	B区 SU9	弥生	甕上半部	口径(20.6)・胴部最大径(19.4)	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～砂粒質	内・外面ともににぶい橙色～にぶい黄橙色	やや良
149	B区 SU9	弥生	甕上半部	—	粗砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面浅黄橙色で一部灰色・外面浅黄橙色と黒色	やや良
150	B区 SU9	弥生	甕上半部	—	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい黄橙色～褐灰色・外面にぶい橙色～黒褐色	良
151	B区 SU9	弥生	甕上半部	—	所々に褐色の砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質で均質	内面浅黄橙色～褐灰色・外面にぶい黄橙色～褐灰色	やや良
152	B区 SU9	弥生	甕上半部	—	小礫や粗砂粒を所々含む、ほかシルト～砂粒質	内面浅黄橙色～灰褐色・外面にぶい黄橙色～黒褐色	やや良
153	B区 SU9	弥生	甕上半部	—	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～砂粒質	内・外面ともににぶい橙色～にぶい黄褐色	良
154	B区 SU9	弥生	甕上半部	—	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい橙色・外面にぶい黄橙色～灰黄褐色	やや良
155	B区 SU9北半	弥生	甕上半部	—	粗砂粒や砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい橙色～にぶい黄褐色で一部灰色・外面にぶい褐色～褐灰色	やや良
156	B区 SU9	弥生	甕口縁部	—	白色の砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい黄褐色～褐色と褐灰色・外面橙色～褐灰色	やや良
157	B区 SU9	弥生	甕口縁部	—	シルト～砂粒質	内・外面灰白色～黄灰色～黒色	やや良
第19回 198 25頁	B区 SU9	弥生	甕下半部	底径6.3・底部外径7.3	一部小礫で粗砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面橙色～灰褐色・外面にぶい橙色～にぶい褐色	やや良
159	B区 SU9	弥生	甕下半部 蓋か?	底部外径7.0・底径6.8	白色粗砂粒や砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面赤黒色と赤褐色・外面赤灰色～赤褐色	やや良
160	B区 SU9	弥生	甕下半部	底径7.8	白色、赤色、金雲母の粗砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい赤褐色～黒褐色・外面橙色～にぶい褐色で一部褐灰色	良
161	B区 SU9	弥生	甕下半部	底径6.6	シルト～砂粒質で均質	内面浅黄褐色～にぶい黄褐色・外面灰白色、浅黄褐色、黒褐色、黒色	やや良
162	B区 SU9	弥生	甕底部	底部外径8.0	砂粒を所々含む、ほかシルト質	内面褐灰色～にぶい褐色・外面にぶい黄褐色～にぶい褐色	やや良
163	B区 SU9	弥生	甕底部	底径(7.8)	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面黒褐色・外面にぶい褐色・底部褐灰色	やや不良
164	B区 SU9	弥生	甕底部	底径5.0・底部外形5.8	粗砂粒や砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面黒褐色・外面にぶい褐色～にぶい黄褐色・底部褐灰色	やや良
165	B区 SU9	弥生	甕底部	底径(6.2)・底部外径(7.4)・底部くびれ径(6.8)	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面灰黄褐色・外面にぶい褐色～褐灰色	やや良
166	B区 SU9	弥生	甕下半部	底部外径8.0・底部くびれ径7.4	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面褐色・外面にぶい褐色～褐灰色	やや良
167	B区 SU9	弥生	甕下半部	底径5.7	砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質で均質	内面灰褐色～褐色・外面にぶい黄褐色～褐色・底部黒色	やや良
168	B区 SU9	弥生	甕底部	底部外径6.0	小礫や粗砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面灰褐色・外面褐色～にぶい褐色	やや良
169	B区 SU9	弥生	甕底部	底径7.4・底部外径8.7	粗砂粒を多く含む、ほか細砂粒質	内面浅黄褐色～灰黄褐色・外面にぶい褐色、褐色、褐灰色が混じる	やや不良
170	B区 SU9	弥生	甕底部	底径(7.8)	赤褐色粒や砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面灰黄褐色・外面にぶい黄褐色～褐灰色	やや良
171	B区 SU9	弥生	甕下半部	底部外径(8.0)	粗砂粒や砂粒、赤褐色粒子を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい黄褐色・外面にぶい黄褐色～にぶい褐色	良
172	B区 SU9	弥生	甕下半部	底径(7.0)	粗砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面浅黄褐色・外面にぶい黄褐色・褐灰色	やや良
173	B区 SU9	弥生	甕下半部	底径(7.6)・底部外径(8.4)	粗砂粒や砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい褐色・外面にぶい褐色～褐色	やや不良
174	B区 SU9	弥生	甕下半部	底部外径(9.2)	シルト～細砂粒質で均質	内面褐灰色～にぶい褐色・外面にぶい褐色	良
175	B区 SU9	弥生	甕底部	底径(8.0)	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面黒～灰褐色・外面にぶい褐色・底部褐灰色	やや不良
176	B区 SU9	弥生	甕底部	底部外径8.8・底部くびれ径7.5	粗砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい褐色～褐灰色・外面褐色・底部は灰黄色	やや不良
177	B区 SU9	弥生	甕底部	底径6.2	白色砂粒を多く含む、ほかシルト質	内面明赤褐色・外面明赤褐色～赤黒色	良
第20回 178 22頁	B区 SU19床	弥生	特殊小甕	口径3.5・胴部最大径9.3・底径4.6・器高8.9	シルト～細砂粒質で均質	内面灰白色・外面灰白色～褐色	良
179	B区 SU10東半	弥生	甕上半部	口径18.0・胴部くびれ径12.2	粗砂粒や砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面褐色口縁部灰黄色・外面にぶい褐色～にぶい黄褐色	やや良
180	B区 SU10	弥生	鉢	口径(18.0)・底部外径5.8・器高11.1	シルト～砂粒で均質	内面褐灰色～灰白色で一部にぶい褐色・外面灰褐色～にぶい黄褐色	やや良

番号	出土地点	器種	器形	計測単位	胎土	色調	焼成
181	B区 SU10・13	弥生	甕上半部	口径(38.2)・胴部最小径(34.0)・胴部最大径(36.5)	褐色及び粗砂粒・砂粒を所々含む、ほかシルト・細砂粒質	内面褐色～にぶい黄褐色、口縁部の一部暗褐色・外面褐色～黄褐色	良
182	B区 SU10南半	弥生	甕上半部	口径(22.8)	粗砂粒を所々含む、ほかシルト・砂粒質	内面褐色～明赤褐色・外面表面にぶい褐色剥がれた部分明赤褐色～赤褐色・断面灰褐色	やや良
183	B区 SU10	弥生	甕上半部	口径(32.3)	粗砂粒を多く含む、ほかシルト・砂粒質	内面にぶい赤褐色～浅黄褐色・外面にぶい褐色	やや不良
184	B区 SU10	弥生	甕口縁部	口径(25.8)	粗砂粒や砂粒を所々含む、ほか細砂粒質	内面灰白色～黒褐色・外面灰色～黒褐色	良
185	B区 SU10	弥生	甕口縁部	口径(32.9)	粗砂粒を所々含む、ほかシルト・細砂粒質	内・外面灰色～褐色で断面黒色	やや良
186	B区 SU10	弥生	甕上半部	—	シルト～砂粒質で均質	内面黒・外面黒～褐色・断面褐灰色	やや良
187	B区 SU10東半	弥生	甕上半部	—	粗砂粒を所々含む、ほかシルト・細砂粒質	内面褐色・外面褐色～にぶい褐色・断面黒	やや良
188	B区 SU10東半	弥生	甕上半部	—	砂粒を含む、ほかシルト・細砂粒質	内面褐色～灰黄褐色・外面にぶい褐色～赤褐色	やや良
189	B区 SU10	弥生	甕口縁部	—	粗砂粒を含む、ほかシルト・細砂粒質	内面明赤褐色～にぶい黄褐色・外面褐色～にぶい褐色	やや良
190	B区 SU10	弥生	甕口縁部	—	小礫や砂粒を所々含む、ほかシルト・細砂粒質	内面褐色～にぶい褐色・外面にぶい褐色	やや良
191	B区 SU10	弥生	甕上半部	—	粗砂粒を所々含む、ほかシルト・細砂粒質	内面褐色で一部赤褐色及び黒・外面にぶい褐色～褐色	良
192	B区 SU10東半	弥生	甕下半部	底径(9.2)	粗砂粒を所々含む、ほかシルト・砂粒質	内面褐灰色～浅黄褐色・外面褐灰色～褐色	やや良
193	B区 SU10	弥生	甕下半部	底径(8.3)	砂粒を含む、ほかシルト・細砂粒質	内面にぶい黄褐色・外面褐色～明赤褐色	やや良
194	B区 SU10	弥生	甕底部	底径(8.4)	小礫や粗砂粒を含む、ほかシルト・細砂粒質	内面にぶい赤褐色～灰白色～暗灰色・外面にぶい褐色	やや良
195	B区 SU10東半	弥生	甕底部	底部外径5.8	小礫や粗砂粒を所々含む、ほかシルト・砂粒質	内面にぶい褐色・外面褐灰色	やや良
196	B区 SU10	弥生	甕底部	底径9.2・底部外径10.0	赤褐色粒子や粗砂粒・砂粒を含む、ほかシルト・細砂粒質	内面にぶい褐色～黒褐色・外面褐色で底部黒褐色	やや良
197	B区 SU10東半	弥生	甕底部	底径8.1・底部外径8.6	粗砂粒を多く含む、ほかシルト・細砂粒質	内面浅黄褐色～暗灰色・外面浅黄褐色で底部黒褐色	やや良
198	B区 SU10	弥生	甕底部	底径6.8	粗砂粒や砂粒を含む、ほかシルト・細砂粒質	内面黒褐色～明赤褐色・外面赤褐色	やや不良
199	B区 SU10	弥生	甕底部	底部外径(7.0)	粗砂粒を所々含む、ほかシルト・細砂粒質	内面褐灰色・外面褐灰色～褐色	やや良
200	B区 SU10	弥生	甕底部	底径8.1	砂粒を多く含む、ほかシルト・細砂粒質	内・外面ともに褐色	良
201	B区 SU10	弥生	甕底部	底部外径6.0	粗砂粒・砂粒を所々含む、ほかシルト・細砂粒質	内面にぶい赤褐色・外面にぶい褐色～明褐灰色	やや良
202	B区 SU10	弥生	甕底部	底径(6.1)	砂粒を多く含む、ほかシルト・細砂粒質	内面にぶい褐色・外面暗赤褐色～明赤褐色	やや良
第1920 203 21頁	B区 SU10	弥生	甕	長8.8+α・幅6.0・厚0.9	凝灰岩	暗紫灰色	—
第2130 204 23頁	B区 SU11下	弥生	甕	頸部くびれ径10.4・胴部最大径(31.8)・底部外径8.6	小礫や粗砂粒を多く含む、ほかシルト質	内外面ともに褐灰色～灰色	やや不良
205	B区 SU11	弥生	甕	口径(7.2)・頸部最小径(7.0)・胴部最大径(15.9)・底部最小径5.7・底部外径6.2・器高16.4	粗砂粒を含む、ほかシルト・細砂粒質	内面灰黄色～黄灰色・外面淡黄色～黒褐色～黒色	やや良
206	B区 SU11	弥生	小甕	頸部最小径(4.8)・胴部最大径(7.6)	粗砂粒や砂粒を多く含む、ほかシルト質	内面褐色～灰黄褐色・外面明赤褐色～にぶい黄褐色	やや良
207	B区 SU11	弥生	甕肩部	—	白色及び赤褐色の粗砂粒や砂粒を含む、ほかシルト・細砂粒質	内面灰黄色・外面にぶい黄褐色	やや良
208	B区 SU11	弥生	甕肩部	—	白色の粗砂粒を所々含む、ほかシルト質	内面暗赤褐色・外面明赤褐色～褐色～黒褐色	良
209	B区 SU11	弥生	甕肩部	—	粗砂粒や砂粒を含む、ほかシルト・細砂粒質	内外面ともに褐色	やや良
210	B区 SU11	弥生	甕肩部	—	砂粒を多く含む、ほかシルト・細砂粒質	内面にぶい褐色・外面にぶい褐色～黒色	やや良
211	B区 SU11	弥生	甕上半部	口径(23.4)・胴部最大径(22.4)	小礫や粗砂粒を所々含む、ほかシルト質～砂粒質	内面赤褐色～にぶい褐色・外面にぶい褐色～灰褐色	やや不良
212	B区 SU11下	弥生	甕上半部	—	粗砂粒を多く含む、ほかシルト・砂粒質	内面にぶい黄褐色～褐色・外面口縁灰黄褐色、他にぶい黄褐色～褐色	やや良
213	B区 SU11	弥生	甕口縁部	—	粗砂粒や砂粒を所々含む、ほかシルト・細砂粒質	内面褐灰色・外面にぶい褐色	やや不良
214	B区 SU11	弥生	甕上半部	—	砂粒を多く含む、ほかシルト・細砂粒質	内面にぶい黄褐色、一部褐灰色、口縁灰黄褐色・外面灰褐色、一部黒色	やや良
215	B区 SU11	弥生	甕底部	底部外径7.8	粗砂粒や砂粒を多く含む、ほかシルト・細砂粒質	内面にぶい褐色～黒褐色・外面褐色～黒褐色	やや良

番号	出土地点	器種	器形	計測単位 cm	胎土	色調	焼成
216	B区 SU11	弥生	壺底部	底径(8.4)	砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質で均質	内面におい黄褐色～黒褐色・外面褐色	良
第23回 217 218頁	B区 SU12A	弥生	壺上半部	口径(27.9)・胴部最大径(25.7)	粗砂粒～砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面浅黄褐色で下半部灰色・外面灰黄褐色～黒色で下半部褐色	良
218	B区 SU12A	弥生	鉢口縁部	口径(15.5)	砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面褐色～におい赤褐色・外面におい赤褐色～黒褐色	やや良
219	B区 SU12B	弥生	壺肩部	—	黒色の小礫や白色の砂粒を所々含む、ほかシルト質	内・外面ともに褐色	良
220	B区 SU12B	弥生	壺肩部	—	小礫や粗砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面褐色・外面褐色～におい黄褐色	やや良
221	B区 SU12B	弥生	壺肩部	—	砂粒を多く含むほか、シルト～細砂粒質	内面灰色・外面の表面におい褐色ほか灰色	やや良
222	B区 SU12B	弥生	壺肩部	—	砂粒を多く含むほか、シルト～細砂粒質	内面灰色～灰白色・外面灰色	やや良
223	B区 SU12B	弥生	壺肩部	—	砂粒を含むほか、シルト～細砂粒質	内面浅黄褐色・外面褐色	やや良
224	B区 SU12B	弥生	壺肩部	—	砂粒を含むほか、シルト～細砂粒質	内面灰黄色～灰色・外面灰黄褐色～褐色	やや良
225	B区 SU12B	弥生	壺底部	底径(8.6)	砂粒を多く含むほか、シルト～細砂粒質	内面褐色～黒褐色・外面赤褐色～灰褐色	やや良
226	B区 SU12B	弥生	壺	口径(28.7)・胴部最大径(25.8)・底径(9.0)・器高30.9	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面褐色～灰褐色・外面におい黄褐色～におい褐色で一部灰色	良
227	B区 SU12B	弥生	鉢	口径(22.2)・底径7.3・器高16.0	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面浅黄褐色で胴部の一部黒色・外面におい褐色で一部黒色	良
228	B区 SU12B	弥生	壺上半部	口径(21.1)・胴部最大径(21.0)	粗砂粒を多く含む、ほかシルト～粗砂粒質	内面におい褐色～褐色で一部灰色・外面におい褐色～黒褐色	やや良
229	B区 SU12B	弥生	壺上半部	口径(27.0)	粗砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面褐色～黒褐色・外面におい褐色～黒褐色	やや良
230	B区 SU12B	弥生	壺上半部	—	白色の砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内・外面ともに褐色	やや良
231	B区 SU12B	弥生	壺上半部	—	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～砂粒質	内面褐色・外面褐色～におい褐色	やや良
232	B区 SU12B	弥生	壺上半部	—	粗砂粒を所々含む、ほか細砂粒質	内面灰白色～褐色・外面におい黄褐色～黒褐色	やや良
233	B区 SU12B	弥生	壺上半部	—	砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面褐色・外面褐色で一部灰色	やや良
234	B区 SU12B	弥生	壺上半部	—	砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面黒褐色で一部褐色・外面褐色～におい赤褐色	やや不良
235	B区 SU12B	弥生	壺上半部	—	細砂粒～砂粒質	内面褐色・外面黒褐色	やや良
236	B区 SU12B	弥生	壺口縁部	—	砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面浅黄褐色～におい褐色・外面浅黄褐色	良
237	B区 SU12B	弥生	壺口縁部	—	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～粗砂粒質	内・外面ともに浅黄褐色～灰褐色	やや良
238	B区 SU12B	弥生	壺上半部	—	小礫や粗砂粒を所々含む、ほかシルト～砂粒質	内面におい褐色・外面におい褐色～黒褐色	やや良
239	B区 SU12B	弥生	壺底部	底径(6.7)・底部くびれ径(6.8)	粗砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面褐色・外面褐色～におい褐色で斑がある断面褐色	やや良
240	B区 SU12B	大形石包丁	—	長19.3・幅7.8・厚1.1	凝灰岩	暗紫灰色	—
第24回 241 242頁	B区 SU13	弥生	小壺蓋	径5.4・器高1.4	粗砂粒を多く含む、ほかシルト質	内外面ともに褐色～灰色	やや良
242	B区 SU13	弥生	小壺下半部	胴部最大径(7.0)・底径3.2	粗砂粒～砂粒質	内面におい黄褐色～褐色・外面におい褐色～黒色	やや良
243	B区 SU13	弥生	壺底部	底径14.1・底部外径15.8	粗砂粒～砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面におい黄褐色・外面におい黄褐色～褐色	やや良
244	B区 SU13	弥生	壺上半部	—	砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面灰色～におい黄褐色・外面灰色～黄灰色で一部黒褐色	やや良
245	B区 SU13	弥生	壺上半部	—	粗砂粒を所々含む、ほか細砂粒質	内面灰黄色～暗灰色・外面灰黄色～黄灰色	やや良
246	B区 SU13	弥生	壺口縁部	—	粗砂粒や砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面におい黄褐色・外面褐色～におい褐色	やや良
247	B区 SU13	弥生	壺上半部	口径(28.4)	小礫を所々、粗砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面灰白色～灰色～灰褐色・外面表面の残る部分におい褐色ほか灰色～におい赤褐色	2次焼成による やや良
248	B区 SU13	弥生	壺上半部	口径(23.0)・胴部最大径(21.8)	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～砂粒質	内面におい黄褐色・外面におい黄褐色～灰黄色・断面黒色	やや良
249	B区 SU13床面	弥生	壺底部欠損	口径15.6	粗砂粒を多く含む、ほかシルト～砂粒質	内面口縁の一部黄褐色でほか赤褐色・外面胴部下半灰褐色胴部上半赤褐色で斑になる	2次焼成による やや不良
250	B区 SU13	弥生	壺下半部	底径10.0	粗砂粒や砂粒を含む、ほかシルト～粗砂粒質	内面褐色～におい褐色・外面褐色～におい褐色～明赤褐色	やや良
251	B区 SU13	弥生	壺下半部	底径(9.4)	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～砂粒質	内・外面ともに褐色～灰黄褐色、所々黒褐色で内面はその変化が強い	やや良
252	B区 SU13	弥生	壺	底径8.7	小礫や粗砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面におい褐色～褐色～灰色・外面褐色～灰白色～褐色	やや良

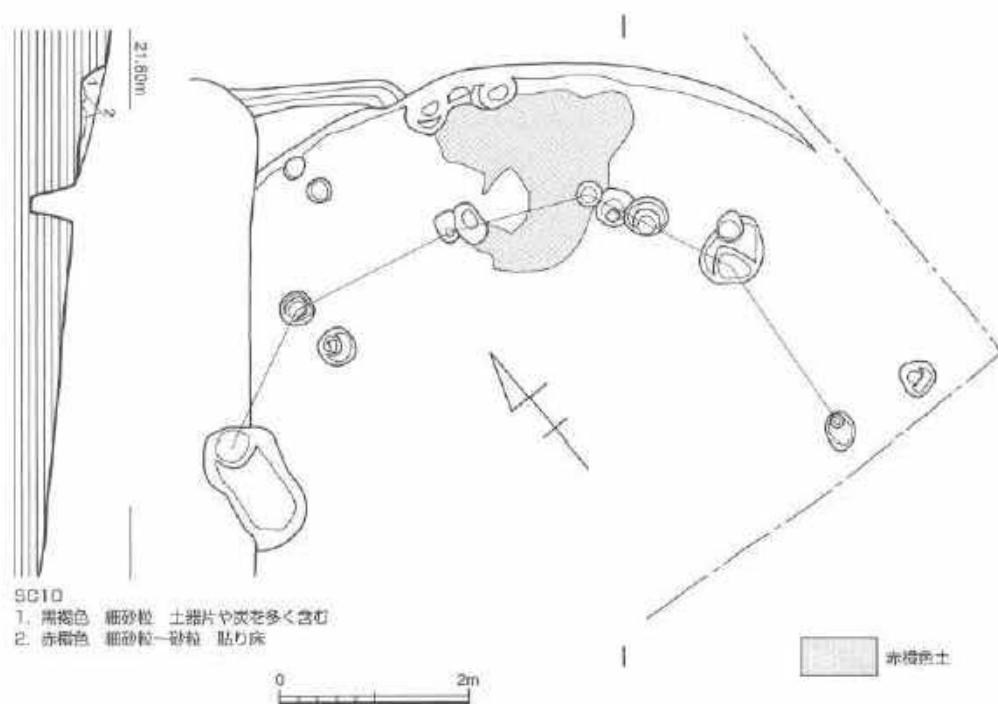
番号	出土地点	器種	器形	計測単位	cm	胎土	色調	焼成
第25回 252 253頁	B区SU14	弥生	甕口縁部	口径(10.0)	—	砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい橙色～褐色・外面にぶい橙色～浅黄褐色一部褐色	やや良
254	B区SU14	弥生	壺肩部	—	—	シルト～砂粒質	内面にぶい黄褐色・外面にぶい黄褐色～褐色	やや良
255	B区SU14	弥生	甕口縁部	—	—	泥質～細砂粒質	内外面ともににぶい橙色～褐色	良
256	B区SU14	弥生	甕口縁部	—	—	細砂粒～砂粒質	内面灰褐色・外面にぶい褐色	やや良
257	B区SU14	弥生	甕口縁部	—	—	砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面明赤褐色・外面褐色・断面の一部にぶい黄褐色	良
258	B区SU14	弥生	甕口縁部	—	—	砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面褐灰色～灰白色・外面浅黄褐色	やや良
259	B区SU14	弥生	甕口縁部	—	—	シルト～細砂粒質	内面褐灰色・外面暗褐色	やや良
260	B区SU14	弥生	甕口縁部	—	—	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい橙色・外面褐色～褐灰色	やや良
261	B区SU14	弥生	甕口縁部	—	—	砂粒を多く含む	内面にぶい褐色・外面にぶい褐色～褐灰色	やや良
262	B区SU14	弥生	大甕甕口縁部	—	—	シルト～砂粒質	内面浅黄褐色・外面にぶい黄褐色～褐色一部焼酎赤色	やや良
263	B区SU14	弥生	甕口縁部	—	—	シルト～砂粒質	内面にぶい黄褐色・外面褐色	やや良
264	B区SU14	弥生	小甕底部	底径(5.4)・底部くびれ径(5.0)	—	シルト～砂粒質	内面褐色・外面褐色～灰黄色・一部黒褐色	やや良
265	B区SU14	弥生	甕底部	底部外径(8.0)	—	シルト～砂粒質	内面灰白色～灰黄褐色・外面褐色～にぶい黄褐色	やや良
266	B区SU14	弥生	甕下半部	底部外径7.4	—	赤褐色や白色の砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面浅黄褐色・外面褐灰色	やや良
第26回 267 268頁	B区SU15埋土	弥生	蓋	胴部外径6.2	—	粗砂粒～砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面灰褐色・外面にぶい黄褐色～褐色	やや良
268	B区SU15埋土	弥生	器台・脚部	脚径(14.6)	—	砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい褐色・外面にぶい黄褐色～褐色	やや良
第27回 269 270頁	B区SU16	弥生	甕口縁部	—	—	白色及び褐色の砂粒・金雲母を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい褐色～にぶい黄褐色口縁一部褐灰色・外面灰黄褐色～褐色	やや良
270	B区SU16	弥生	壺底部	底径(8.8)	—	白色砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい褐色・外面にぶい褐色底部の一部灰色	やや良
271	B区SU16	弥生	底部	底径(4.2)	—	花崗岩質の粗砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい褐色・外面にぶい褐色～褐灰色	やや良
第28回 271 272頁	B区SU17上層	弥生	甕口縁部	—	—	砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面明赤褐色・外面褐色	良
272	B区SU17	弥生	甕口縁部	—	—	白色粗砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	表面は浅黄色で胎土全体は黄灰色	やや良
274	B区SU17	弥生	壺底部	底径5.2	—	シルト～粗砂粒質	内面褐色・外面褐色～浅黄褐色	やや良
275	B区SU17	弥生	壺底部	底部外径(9.4)・底部くびれ最小径(8.6)	—	白色の小礫及び粗砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面黒褐色～にぶい黄褐色・外面にぶい黄褐色～褐色	やや良
276	B区SU17	弥生	壺底部蓋か?	底径(6.2)	—	粗砂粒を所々含むほか、粗砂粒～砂粒質	内面灰黄褐色・外面明赤褐色～褐灰色	やや良
277	B区SU17	弥生	壺底部	底部外径(6.5)・底部くびれ最小径(5.1)	—	粗砂粒を所々含む、ほか細砂粒質	内面にぶい黄褐色・外面褐色～明赤褐色	やや良
278	B区SU17	弥生	壺底部	底部外径(7.4)・底部くびれ径(5.8)	—	花崗岩質の粗砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内外面ともに褐色	やや良
第29回 279 280頁	B区SU19	弥生	甕口縁部	口径(21.6)・胴部最小径(13.9)	—	粗砂粒・砂粒・及び金雲母を所々含む、ほかシルト質	内面褐灰色～にぶい赤褐色・外面暗灰色～灰白色	良
280	B区SU19	弥生	高坏?	—	—	砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内・外面ともに口縁明赤褐色ほか褐灰色～にぶい褐色	良
281	B区SU19	弥生	壺底部	底径11.4	—	砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい黄褐色～褐色・外面にぶい赤褐色～赤褐色	やや良
282	B区SU19	弥生	鉢	口径(21.8)・底径6.6・底部外径7.0・器高12.1	—	粗砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面灰黄褐色口縁にぶい赤褐色・外面底部周辺にぶい黄褐色～黒色で上半部褐色～赤褐色	2次焼成により やや良
283	B区SU19	弥生	甕下半部	胴部最大径(16.6)・底径7.6	—	粗砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面灰褐色～褐色～灰色・外面黒色～赤褐色～にぶい黄褐色底部褐色	3次焼成により やや良
284	B区SU19	弥生	鉢上半部	口径(32.0)	—	小礫や粗砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面浅黄褐色～灰色・外面暗灰色～浅黄褐色	やや良
285	B区SU19	弥生	甕上半部	—	—	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい褐色・外面褐色～黒褐色(スス付着)	やや良
286	B区SU19	埴輪具	—	氏10.6・幅3.95・厚0.5	—	凝灰岩質	黒褐色～にぶい褐色	—
第31回 287 30頁	B区SU20B	弥生	鉢上半部	口径(23.0)・胴部最大径(29.4)	—	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面褐色～にぶい褐色・外面灰白色～褐色～黒褐色	やや良
288	B区SU20B	弥生	甕上半部	口径(30.0)	—	砂粒～小礫を含む、ほか細砂粒質	内面褐色・外面にぶい黄褐色～黒褐色	やや良
289	B区SU20B	弥生	甕上半部	—	—	粗砂粒を含む、ほか細砂粒質	内面浅黄褐色・外面灰黄褐色	やや良

番号	出土地点	器種	器形	計測単位 cm	胎土	色調	焼成
290	B区 SU20B	弥生	甕底部	底径9.3	シルト～砂粒質	内面にぶい黄褐色・外面にぶい赤褐色～赤灰色で底部灰白色～黒褐色	やや良
291	B区 SU20B	弥生	甕底部	底径7.4・底部外径8.8	粗砂粒や砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面浅黄褐色・外面褐色～赤褐色底部浅黄褐色～褐色	やや良
292	B区 SU20B	弥生	甕底部	底径9.0	赤褐色粒子や砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内・外面ともににぶい褐色で一部黒色	やや良
293	B区 SU20B	弥生	甕底部	底径7.4・底部最小径7.2	砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面明赤褐色・外面明赤褐色～にぶい赤褐色	良
294	B区 SU20B	弥生	甕下半部	底径(9.2)	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい黄褐色～褐色・外面にぶい褐色～黒褐色	やや良
295	B区 SU20B	弥生	甕下半部	底部外径8.8	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい黄褐色～褐色・外面褐色～浅黄褐色	やや良
296	B区 SU20B	扁平片刃石斧		長6.1・幅3.5・厚1.3	泥岩?	灰白色	—
第340 297 300前	B区 SU21南半	弥生	甕上半部	突起を施す	砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい褐色・外面灰黄褐色	やや良
298	B区 SU21	弥生	甕上半部	突起を施す	粗砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内外面ともに褐色	やや良
299	B区 SU21南半	弥生	甕口縁部	—	粗砂粒や赤褐色粒子を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内外面とも褐色断面にぶい黄褐色	良
300	B区 SU21南半	弥生	甕口縁部	—	砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい黄褐色・外面褐色～にぶい黄褐色断面褐色	やや良
301	B区 SU21南半	弥生	甕下半部	底部外径8.8	粗砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい褐色・外面褐色～褐色	やや良
302	B区 SU21	弥生	甕底部	底径(7.6)	粗砂粒や褐色粒、砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい褐色・外面明赤褐色・断面褐色	やや良
303	B区 SU21	弥生	甕下半部	底径(7.2)	白色や赤褐色の粗砂粒を含む、ほかシルト～砂粒質	内面はにぶい褐色・外面赤褐色断面灰色	やや良
304	B区 SU21南半	石鏡		長1.7・幅1.6・厚0.3	サヌカイト?	暗灰色	—
第340 305 311前	B区 SU22	弥生	甕肩部	—	砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい褐色～褐色・外面褐色～褐色	やや良
306	B区 SU22	弥生	甕肩部	—	シルト～砂粒質	内面にぶい黄褐色・外面にぶい黄褐色～褐色	やや良
307	B区 SU22	弥生	甕下半部	底部外径9.0	砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面浅黄褐色～黒褐色～黒色・外面にぶい褐色～褐色～赤褐色～黒褐色	1.焼成により やや良
308	B区 SU22	弥生	鉢	口径(17.5)・底部外径6.9・器高12.8	砂粒や粗砂粒を多く含む、ほかシルト質	内面浅黄褐色～にぶい黄褐色・外面褐色～にぶい赤褐色	やや良
309	B区 SU22	弥生	甕	口径(31.0)・胴部最大径(29.7)・底部外径8.7・器高32.0	赤褐色粒子や粗砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面褐色で一部灰白色～黒色・外面褐色で黒度が認められる、黒部の周囲は浅黄褐色	良
310	B区 SU22	弥生	甕口縁部	—	砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい褐色・外面にぶい黄褐色	良
311	B区 SU22	弥生	甕上半部	—	砂粒を含む、ほかシルト質	内面黄灰色・外面浅黄褐色～灰黄褐色	やや良
312	B区 SU22	弥生	甕上半部	—	砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい黄褐色～黒褐色・外面灰黄褐色で一部にぶい褐色	やや良
313	B区 SU22	弥生	甕	口径(26.9)・底径8.9	砂粒～粗砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面灰白色・外面灰白色で淡赤褐色と褐色	やや良
314	B区 SU22	弥生	甕	口径(26.6)・胴部最大径(25.0)・底部外径8.9	粗砂粒から砂粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい褐色～灰黄褐色・外面にぶい褐色～灰褐色底部にぶい黄褐色～灰黄褐色	上半部 やや良 下半部 2次焼成により やや不良
315	B区 SU22	弥生	鉢下半部	底径6.8	粗砂粒を多く含む、ほかシルト質	内面明赤褐色～黒褐色で一部褐色・外面灰白色～褐色～にぶい褐色	やや良
第340 316 320前	B区 SU23	弥生	甕上半部	口径(26.2)・胴部最大径(24.8)	粗砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい黄褐色～灰黄褐色・外面灰黄褐色で一部黒色及び褐色	やや良
317	B区 SU23	弥生	甕下半部	底径(7.0)	粗砂粒を多く含む、ほかシルト～細砂粒質	内面灰褐色・外面赤褐色～褐色	やや良

3. B区円形住居

SC4（遺構：第36図、第5表、図版5／遺物：第37図、第6表、図版7）

SC4は、調査区の南東端より検出され、北西側はSC1に切られている。低位にあたる南西側は、後世の攪乱や遺構によって削平され、また、高位にあたる北東側は、住居の壁が検出され、最大24cmの高さが残る。壁の立ち上がりは全体の22%残っていて、そこから径を復元すると直径が9.40mの大型の住居となる。住居に伴う柱穴は、床面の残存する北東側で6本確認でき、削平された部分を含めると12本あったものと推測される。床面の一部は東西2m、南北1.8mのほぼ三角形の範囲に赤橙色の砂粒から細砂粒質の土を厚さ3cm前後貼っている。



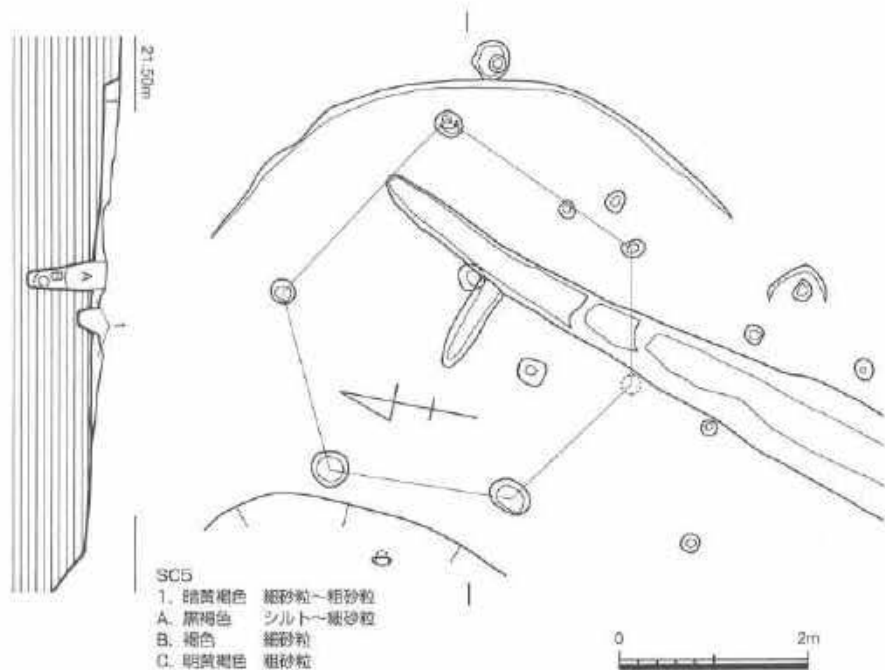
第36図 B区SC4遺構実測図 (1/80)



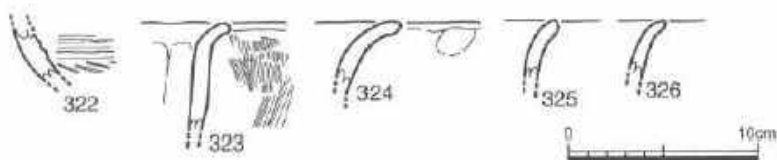
第37図 B区SC4出土遺物実測図 (1/4)

SC5（遺構：第38図、第5表、図版5／遺物：第39図、第6表、図版7）

SC5は、調査区の中央より検出された。南東側にはSC1とSC2が、西側にはSK1が存在する。低位にあたる西側は、後世の攪乱や遺構によって削平され、また、高位にあたる東側は、住居の壁が検出され、最大15cmの高さが残る。壁の立ち上がり部分は全体の33%残っていて、そこから径を復元すると直径が6.28mの住居となる。住居に伴う柱穴は、床面の残存するところで5本確認でき、溝に削平された部分を含めると6本あったものと推測される。



第38図 B区SC5遺構実測図 (1/80)



第39図 B区SC5出土遺物実測図 (1/4)

第5表 B区SC4・5遺構計測表

単位(m)

遺構番号	調査区	平面プラン	復元径	深さ	床面標高	主柱穴	周壁溝	屋内土坑	遺構挿図	遺物挿図
SC4	B区	円形	9.4	0.24	21.3	6 + α (12?)	無	不明	第36図	318-321
SC5	B区	円形	6.28	0.15	21.8	5 + α (6?)	無	不明	第38図	322-326

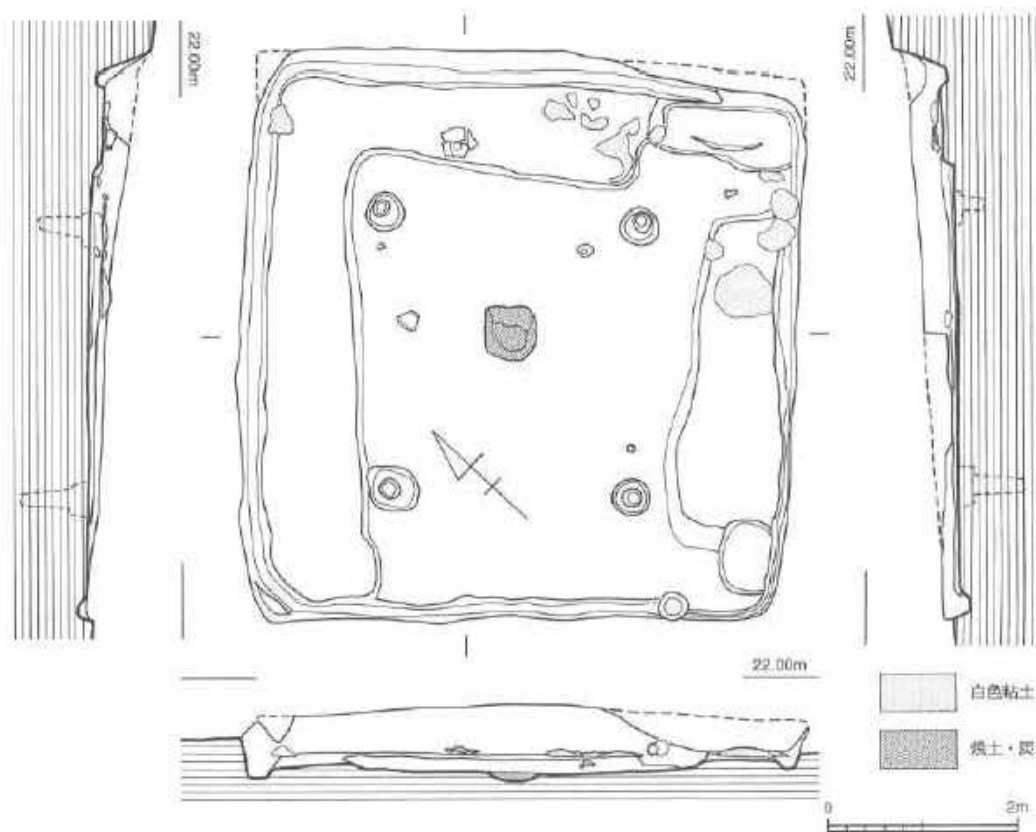
第6表 B区SC4・5出土遺物計測観察表

番号	出土地点	器種	器形	計測単位 (cm)	胎土	色調	焼成
第37図 318 42頁	B区SC4	弥生	甕口縁部	—	砂粒を含む、ほかシルト〜細砂粒質	内面灰黄色・外面浅黄褐色、断面灰色	やや良
319	B区SC4	弥生	甕口縁部	—	シルト〜砂粒質	内面にふい黄褐色・外面灰黄褐色	やや良
320	B区SC4北西側	弥生	甕底部	底径(7.0)	粗砂粒や砂粒を所々含む、ほかシルト〜細砂粒質	内面灰黄色〜黄灰色・外面にふい黄褐色〜褐色	やや良
321	B区SC4北西側	弥生	甕底部	底径(5.8)・底部外径(7.4)	花崗岩質の小礫や粗砂粒を所々含む、ほかシルト〜細砂粒質	内面明赤褐色・外面にふい黄褐色〜橙色	やや良
第39図 322 43頁	B区SC5北側	弥生	甕口縁部	—	砂粒を所々含む、ほかシルト〜細砂粒質	内外面ともにふい橙色断面にふい黄褐色	良
323	B区SC5北側	弥生	甕口縁部	—	粗砂粒を所々含む、ほかシルト〜砂粒質	内外面ともに黒褐色	良
324	B区SC5北側	弥生	甕口縁部	—	粗砂粒を所々含む、ほかシルト〜細砂粒質	内面褐色・外面褐色〜褐色	やや良
325	B区SC5北側	弥生	甕口縁部	—	粗砂粒を所々含む、ほかシルト〜細砂粒質	内面灰黄褐色・外面浅黄褐色	やや良
326	B区SC5北側	弥生	甕口縁部	—	粗砂粒を所々含む、ほかシルト〜砂粒質	内外面ともに黄灰色	やや良

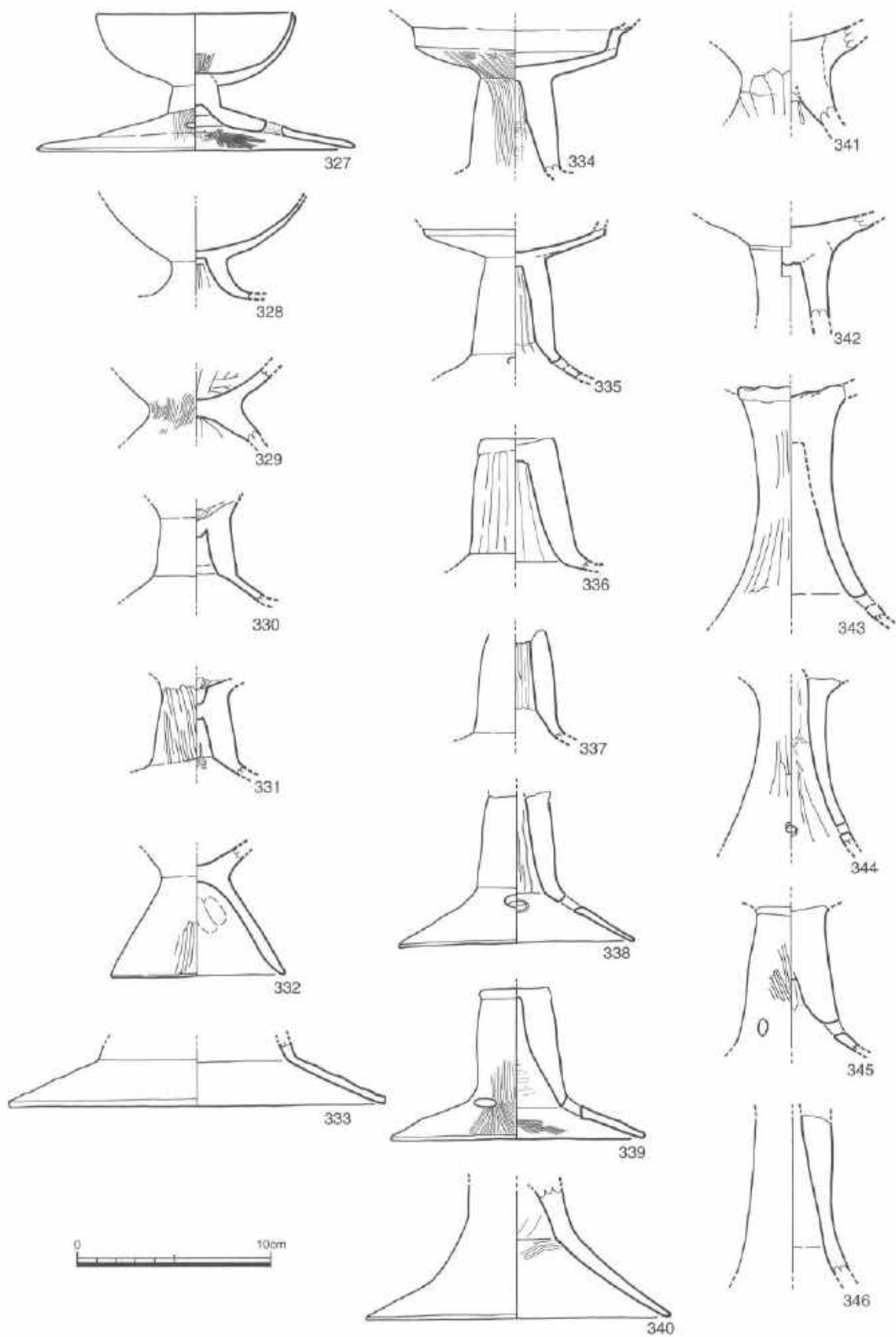
4. B区方形住居

SC1〔遺構：第40図、第7表、図版7／遺物：第41・42・43図、第8表、図版7〕

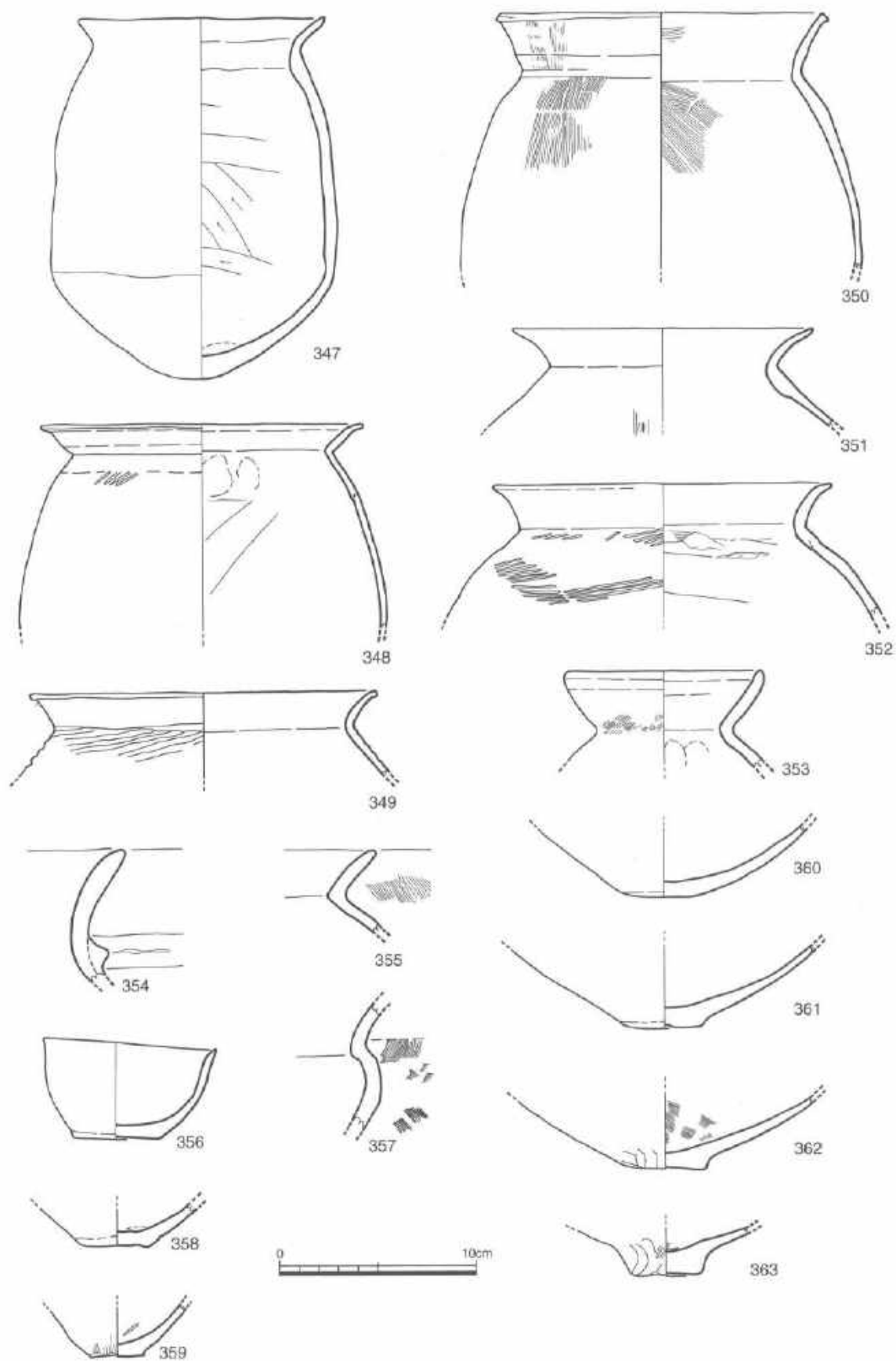
SC1は、調査区の東側より検出された。当初は黒褐色の埋土が長方形に認められたため、長方形プランの竪穴式住居と考えられたが、土層を観察した結果2棟の住居が切り合っていることがわかった。切られた住居はSC2、切った住居をSC1とした。平面形はほぼ方形の竪穴式住居である。丘陵の緩やかな南西斜面に検出され標高21.20～21.70mの間で確認した。規模は長軸5.96m、短軸5.85mで深さは最大で67cmを測る。床面にはベッド状遺構が築かれていた。ベッド状遺構は北側コーナーを角としてL字状につくられたものと、南東側の中央につくられている。ベッドはすべて盛土を用いて作り出され、幅はほぼ80cmである。ベッドの上には所々白色の粘土が検出され、特に東側コーナー周辺のベッド上面で顕著に検出された。東側コーナーには屋内土坑状の窪みが検出されたが、後の調査結果からSU1の陥没に伴うものと考えられる。周壁溝は陥没した東側コーナーを除き検出され、炉は住居のほぼ中央に検出された。支柱穴は4本で、南東側の2本の支柱穴はほぼSC2の支柱穴に沿って検出され、北西側の2本の支柱穴はSC2の支柱穴より70～90cm程内側で検出された(第46図参照)。周壁溝を除き床面およびベッド状遺構はすべて貼り床である。



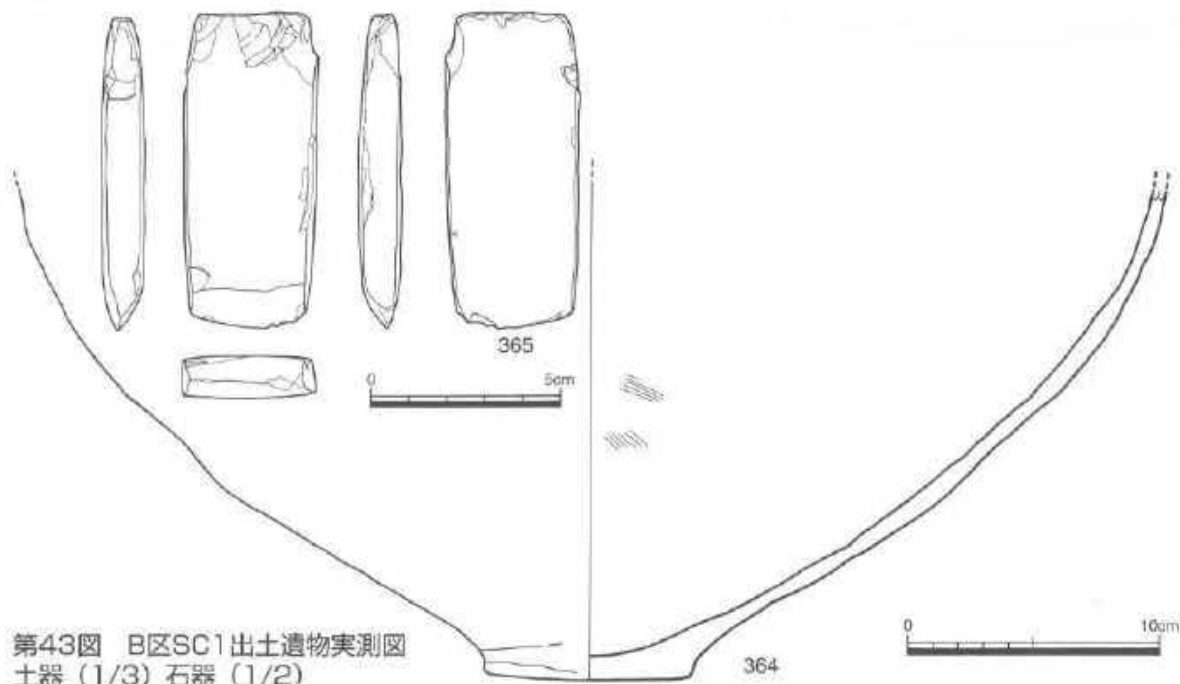
第40図 B区SC1遺構実測図 (1/80)



第41图 B区SC1出土遗物实测图 (1/3)



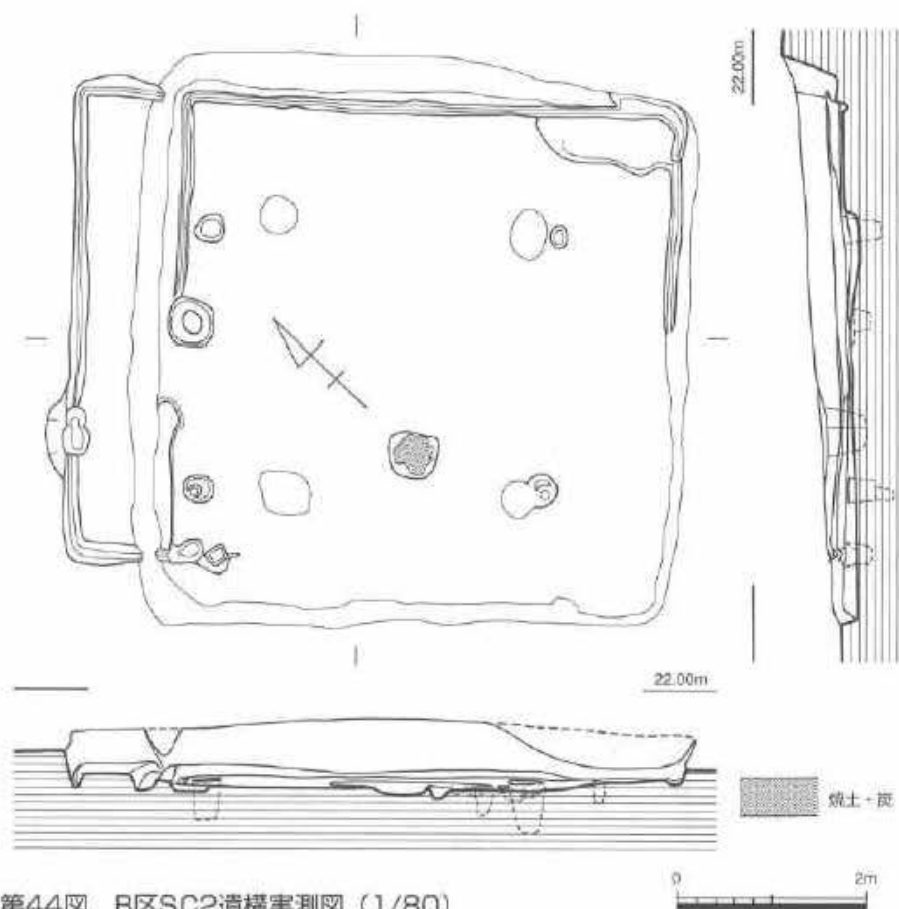
第42图 B区SC1出土遗物实测图 (1/3)



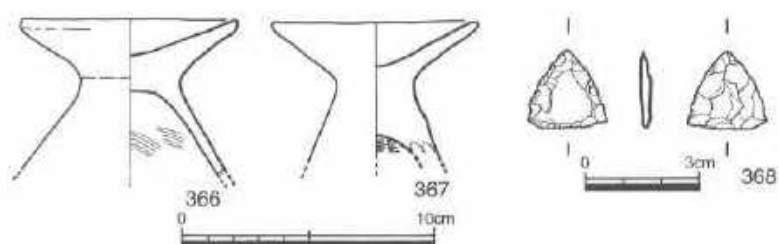
第43図 B区SC1出土遺物実測図
土器 (1/3) 石器 (1/2)

SC2 (遺構：第44図、第7表、図版8 / 遺物：第45図、第8表、図版8)

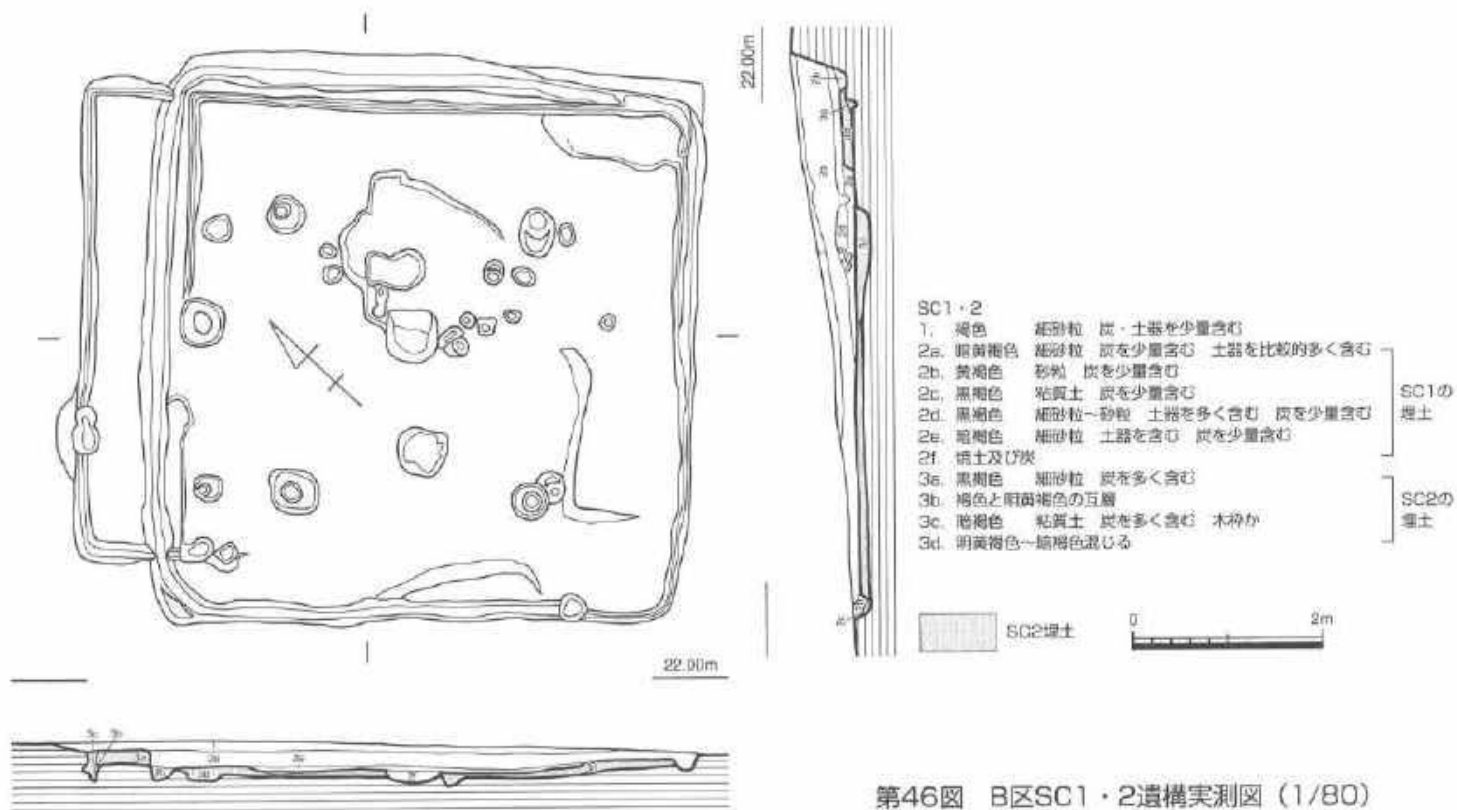
SC2は、SC1の北西側と、SC1の貼り床を除去後に全体が検出された。規模は長軸6.40m、短軸5.14mを測る長方形を呈した竪穴式住居である。北西側の1辺には幅約1mのベッド状遺構が認められる。周壁溝はほぼ全周していたものと考えられるが、南西側から南東側の一部がSC1の立て替えの際に削平される。炉は南西側の支柱穴の間に検出された。支柱穴は4本である。床面やベッド状遺構などはいずれも地山削り出しである。



第44図 B区SC2遺構実測図 (1/80)



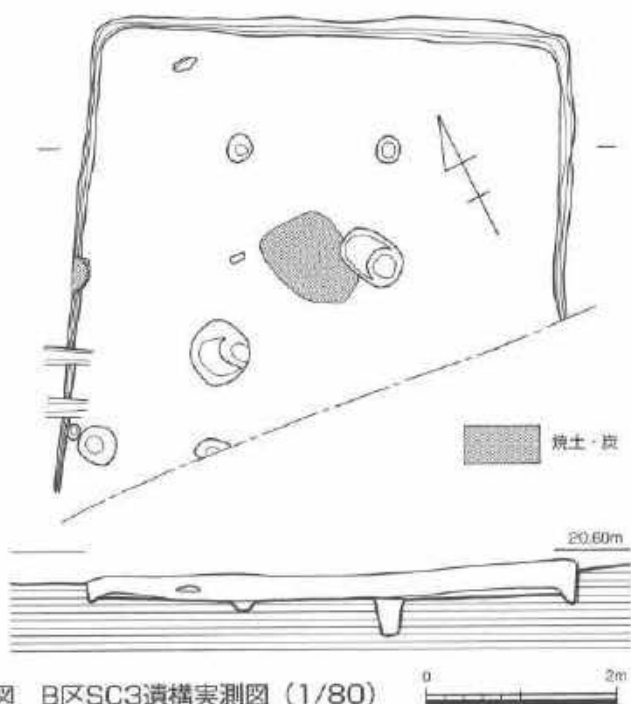
第45図 B区SC2出土遺物実測図 土器 (1/3) 石器 (1/2)



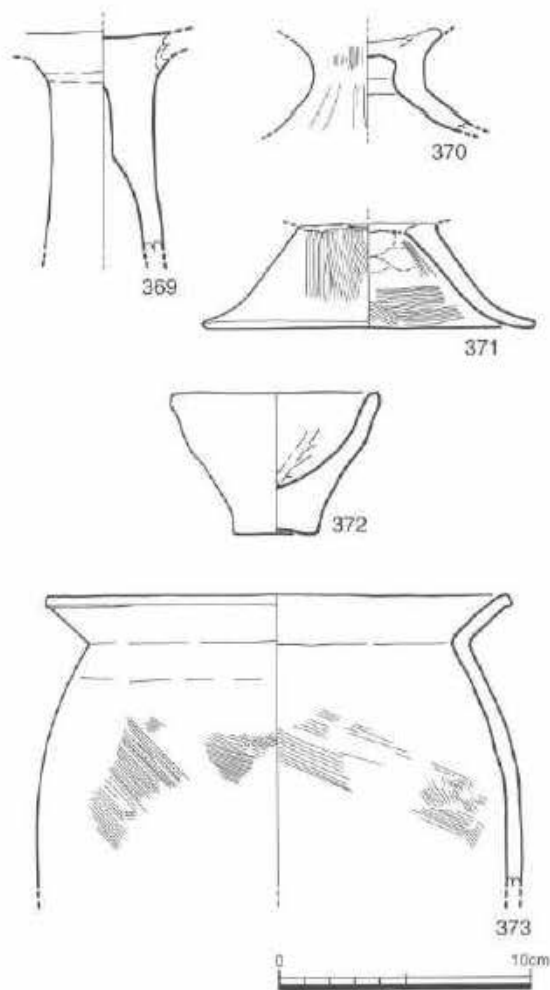
第46図 B区SC1・2遺構実測図 (1/80)

SC3 (遺構：第47図、第7表、図版8／遺物：第48図、第8表、図版8)

SC3は、調査区の南西隅に検出された長方形の堅穴住居である。住居の南西側が調査区外となり、畑の段として削平されている。よって、主柱穴は4本と考えられるが、現状では3本確認できる。住居の中央で炉が検出された。この炉はSU22を切っており、当初貯蔵穴の埋土と考えられていたが掘削中に炉であることが確認された。周壁溝は検出された3辺で認められるものの南西辺は不明である。



第47図 B区SC3遺構実測図 (1/80)



第48図 B区SC3出土遺物実測図 (1/3)

第7表 B区SC1～3遺構計測表

単位 (m)

遺構番号	長軸	短軸	柱数	深さ	床面標高	主軸	ベッド	壁溝	炉	屋内土坑	遺構挿図	遺物挿図
SC1	5.96	5.85	4	0.67	21.03	N-46°-E	○	○	○	?	第40図	327～365
SC2	6.40	5.14	4	0.72	20.98	N-46°-E	○	○	○	?	第44図	366～368
SC3	5.05+ π	5.13	3+ π	0.41	20.10	N-29°-E	無	○	○	?	第47図	369～373

第8表 B区SC1～3出土遺物計測観察表

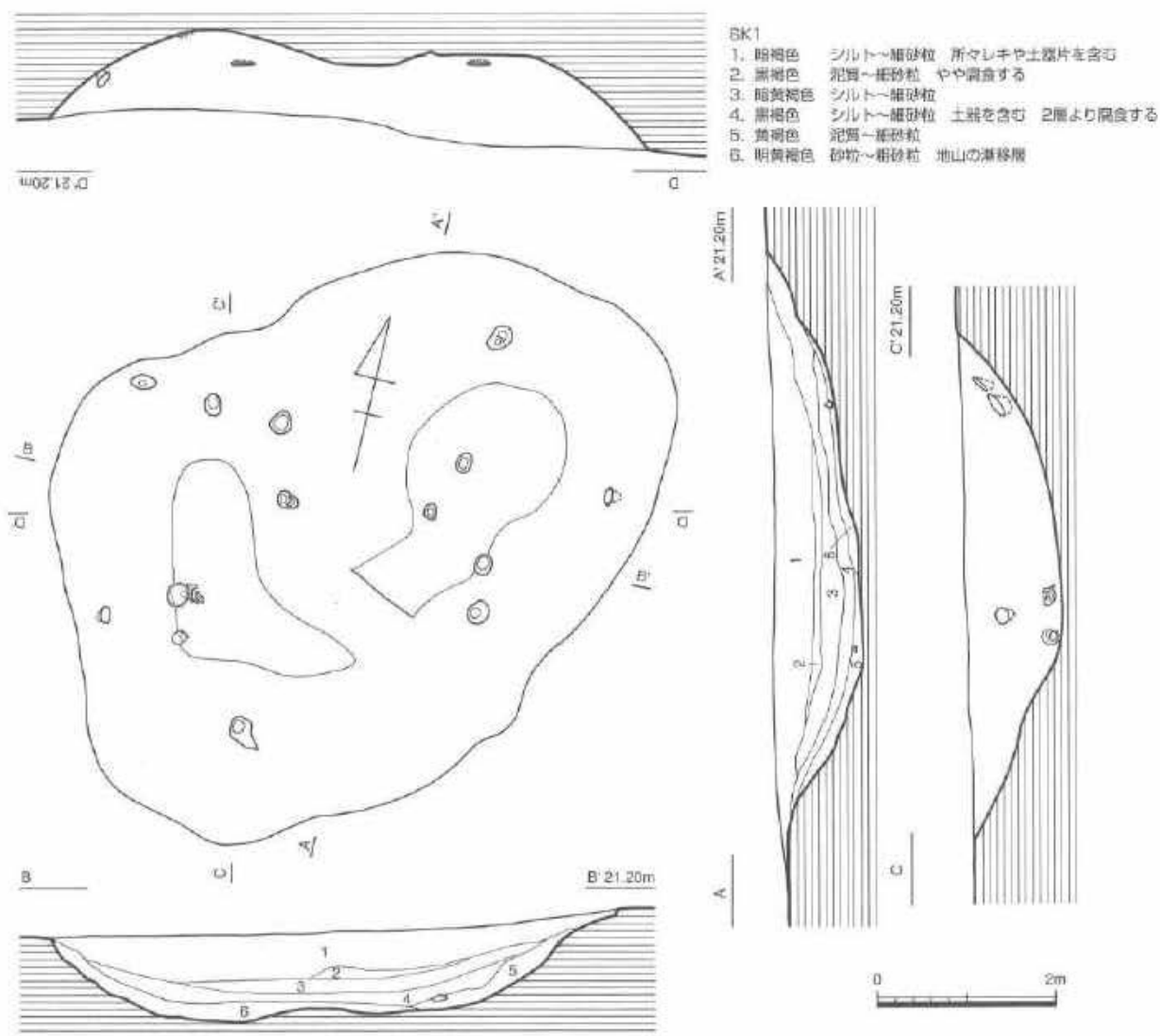
番号	出土地点	器種	器形	計測単位 cm	胎土	色調	焼成
第41図 327 45頁	B区SC1・3区下層	土師器	脚付鉢	口径(10.0)・基部最小径2.2・脚径(16.0)・器高7.0	褐色粒子を多く含む。白色粒子も所々含む。ほか泥～シルト質	内外面ともに表皮部分は赤褐色・その他にぶい黄褐色	良
328	B区SC1・3区床面	土師器	脚付鉢	基部最小径2.8	白色の粒子や褐色の粒子を含む。ほかシルト質	受部内面にぶい黄褐色・外面及び脚部表面褐色	やや良
329	B区SC1・3区貼床	土師器	高杯	基部最小径4.6	白色の砂粒及び粗砂粒を含む。ほかシルト質	内外面ともににぶい橙色	やや良
330	B区SC1・1区中層	土師器	高杯脚部	基部最小径3.5	白色の粗砂粒や赤色粒を所々含む。ほか泥～シルト質	脚部内面明赤褐色・外面褐色	やや良
331	B区SC1・1区中層	土師器	高杯脚部	基部最小径3.3	白色砂粒を所々含む。ほか泥～シルト質	内外面ともに明赤褐色	良
332	B区SC1・1区中層	土師器	高杯脚部	基部最小径3.4・脚径(8.8)	白色砂粒及び粗砂粒を多く含む。ほか泥～シルト質	内外面ともに橙色	やや良
333	B区SC1・1区下層 コーナー付近	土師器	高杯脚部	脚径(19.2)	白色粒や小礫を所々含む。ほか泥～シルト質	内外面ともに明赤褐色・外面の一部黄灰色	やや良
334	B区SC1・下層	土師器	高杯	基部最小径3.6	白色及び有色の砂粒を含む。ほか泥～シルト質	受部内面褐色～にぶい黄褐色・外面褐色	良
335	B区SC1・NO4	土師器	高杯	基部最小径3.0	白色の砂粒。粗砂粒を所々含む。ほか泥～シルト質	内外面灰色・断面所々灰白色	やや良
336	B区SC1・1区中層	土師器	高杯脚部	基部最小径4.0	白色砂粒及び赤色粒子を含む。ほかシルト質	内外面ともににぶい橙色	やや良
337	B区SC1・3区下層	土師器	高杯脚部	基部最小径3.0	白色の砂粒を多く含む。ほか泥～シルト質	外面灰色・断面灰白色	やや良
338	B区SC1・1区中層	土師器	高杯脚部	基部最小径3.1・脚径(12.0)	白色の砂粒～粗砂粒を多く含む。ほか泥質～シルト質	内外面ともに灰色・断面灰白色	やや良
339	B区SC1・東側ベルト1区4区間	土師器	高杯脚部	基部最小径3.6・脚径13.0	砂粒～粗砂粒を含む。ほか泥～シルト質	全体的に赤色	やや不良
340	B区SC1・NO3	土師器	高杯脚部	脚径(15.4)	粗砂粒を所々含む。ほかシルト～細砂粒質	内面褐色・外面にぶい褐色	やや良
341	B区SC1・1区中層	土師器	高杯基部	基部最小径4.5	白色粒や石英粒を含む。ほかシルト～細砂粒質	内外面ともに淡黄色	やや良
342	B区SC1・2区中層	土師器	高杯基部	基部最小径3.6	白色及び有色の粒子を多く含む。ほかシルト～細砂粒質	全体と断面は淡黄色で身の厚い部分の中心付近は不完全燃焼により黄灰色・外面は所々淡褐色	やや良
343	B区SC1・4区中層～上層	土師器	高杯脚部	基部最小径3.8	白色の砂粒を含む。ほかシルト質	表面内外面共ににぶい褐色～にぶい黄褐色・脚部の一部は暗灰色	良
344	B区SC1・東側ベルト1区4区間	土師器	高杯脚部	基部最小径3.4	白色及び有色の粗砂粒を多く含む。ほかシルト質	内面にぶい赤褐色・外面にぶい褐色	良
345	B区SC1・NO5	土師器	高杯脚部	基部最小径3.4	細砂粒を多く含む。ほかシルト質	表皮部分は褐色一部赤褐色。他はにぶい褐色	やや良
346	B区SC1・4区中層	土師器	高杯脚部	基部最小径3.8	白色及び有色の砂粒を含む。ほか全体的にはシルト質	内外面ともににぶい黄褐色・基部付近とその断面はにぶい褐色	やや良
第42図 347 46頁	B区SC1・NO1	土師器	甕	口径12.3・胴部最大径14.4・頸部径10.4・器高18.0	石英長石などの白色粗砂粒を含む。赤褐色の粒子(1～5mm)大を多く含む。ほかシルト～細砂粒質	全体的ににぶい褐色・一部黒褐色及び赤褐色	やや良
348	B区SC1・2区中層	土師器	甕上半部	口径(16.2)・胴部最大径(18.5)・頸部径(13.0)	白色の砂粒及び粗砂粒を含む。ほか泥～シルト質	内面にぶい黄褐色～にぶい黄褐色・外面黒色～暗灰黄色	やや良
349	B区SC1・1区中層	土師器	甕口縁部	口径(17.4)・頸部径(15.0)	白色粗砂粒や砂粒を所々含む。ほか泥～シルト質	内外面ともに灰色系統・断面黄灰色	やや良
350	B区SC1・1区上層	土師器	甕上半部	口径(16.2)・胴部最大径(20.2)・頸部径(14.0)	白色粒や石英などの粗砂粒を多く含む。ほかシルト～細砂粒質	内面口縁部はにぶい黄褐色胴部は暗赤褐色・外面風化していない表面は黒褐色。風化している部分は赤褐色	やや良
351	B区SC1・下層ベルト内	土師器	甕口縁部	口径(15.0)・頸部径(11.4)	白色、石英、赤色の砂粒粗砂粒を含む。ほか泥質	内外面ともににぶい黄褐色	やや不良
352	B区SC1・1区中層	土師器	甕上半部	口径(16.8)・頸部径(14.4)	白色粒や石英などの砂粒を含む。ほかシルト質	内面にぶい褐色・外面胴部上方の一部に黒斑ほかはにぶい黄褐色	やや良で表面風化が進む
353	B区SC1・1区中層	土師器	甕上半部?	口径(9.8)・頸部径(6.8)	白色及び赤色の砂粒を含む。ほかシルト質	内外面ともににぶい褐色	良
354	B区SC1・1区下層 コーナー付近	土師器	甕口縁部	—	白色粒や石英などの砂粒及び粗砂粒を含む。ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい黄褐色・外面暗褐色～にぶい黄褐色・断面褐灰色	良

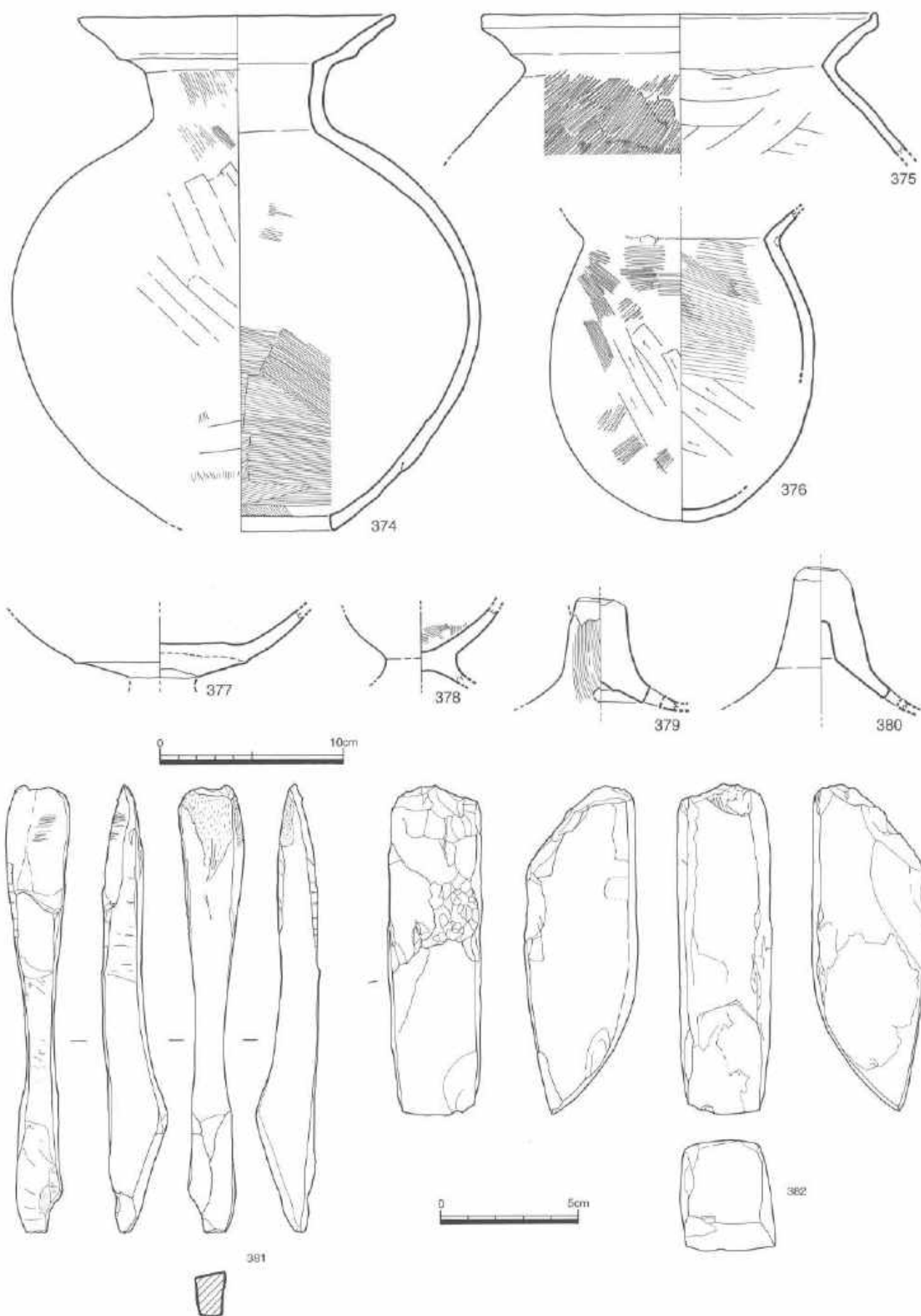
番号	出土地点	器種	器形	計測単位・cm	胎土	色調	焼成
355	B区 SC1・4区中層～上層	土師器	甕口縁部	—	白色粒や褐色粒を含み中には小礫も含む、ほかシルト～細砂粒質	内外面ともに橙色	やや良
358	B区 SC1・東側ベルト1区4区間	土師器	小形鉢	口径(8.7)・底径4.4・器高4.5～(5.1)	白色の粗砂粒～砂粒及び褐色の粒子を含む、ほかシルト質	内外面ともに橙色～にぶい橙色・外面底部の一部から胴部にかけて黒色	やや良
357	B区 SC1・1区東コーナー屋内土坑	土師器	壺頸胴部	—	白色粒や石英粒を含む、ほかシルト～細砂粒質	内外面ともににぶい黄褐色	やや良
358	B区 SC1・1区ベルト内	土師器	甕底部	底径3.3	白色粒子や赤色粒子を多く含む、ほか泥～シルト質	内面暗赤褐色で所々赤・外面赤色に近い・断面赤色	良
359	B区 SC1・3区埋土内	土師器	小型鉢?	底径2.6	白色及び石英粒を含む、ほかシルト質	内面にぶい褐色・外面にぶい黄褐色	良
360	B区 SC1・3区床面	土師器	甕底部	底径4.0	白色粒や赤色粒を含む、ほか全体的にはシルト～細砂粒質	内面にぶい黄褐色～にぶい黄褐色・炭化物の付着部分は黒褐色・外面にぶい黄褐色～褐色・表皮部分にはぶい褐色	やや良
361	B区 SC1・東側ベルト1区4区間	土師器	甕底部	底径3.9	白色及び石英の粗砂粒や赤褐色の粒子を含む、ほかシルト～細砂粒質	内面にぶい褐色・外面褐色～黒褐色(スス付着)	やや良
362	B区 SC1・下層ベルト内	土師器	甕底部	底径4.0	白色砂粒を含む、ほか泥質～シルト質	内外面ともに明赤褐色で2次焼成か黒斑と考えられる黒色部分が認められる	やや不良
363	B区 SC1・1区中層	土師器	甕底部	底径3.4	粗砂粒や砂粒を所々含む、ほかシルト質	内外面ともに褐色	やや良
第45図 364 47頁	B区 SC1・4区中上層	土師器	大型甕下半部	底径8.0	朱～褐色の粒子を多く含む、ほかシルト～砂粒質	内面褐色～にぶい黄褐色・外面底部は黒斑状の黒色、それ以外褐色～にぶい黄褐色	良
365	B区 SC1・1区上層	硝平片 刃石斧		長8.3・幅3.6・厚1.1	泥岩?	浅黄褐色	—
第45図 366 47頁	B区 SC2・埋土	土師器	器台	口径8.3・基部最小径3.7	赤色の粒子及び1～5mm大の斑点を多く含む、ほか泥～シルト質で均質	浅黄褐色～にぶい黄褐色	良
367	B区 SC2・埋土	土師器	器台基部	口径8.0・基部最小径3.0	白色砂粒を所々含む、ほか細砂粒～シルト質	受部内面褐色・外面にぶい褐色	やや良
368	B区 SC2・2区	石鏝		長2.05・幅2.1・厚0.25	サヌカイト?	灰色	—
第48図 369 48頁	B区 SC3・上層	土師器	高坏胴部	基部最小径8.9	白色砂粒を多く含む、ほか泥～シルト質	内外面とも明赤褐色	やや良
370	B区 SC3・上層	土師器	器台	基部最小径4.2	白色の砂粒を多く含む、ほか泥～シルト質	内外面ともに褐色で受部と接触する部分にはぶい褐色	やや良
371	B区 SC3・上層	土師器	器台胴部	基部最小径5.4・脚径12.6	砂粒及び粗砂粒を所々含む、ほか泥～シルト質	内面褐色・外面にぶい黄褐色～褐色	良
372	B区 SC3・上層	土師器	小形鉢	口径(8.0)・底径8.3・器高5.5	赤色や白色の砂粒を所々含む、ほか泥質	内面にぶい褐色・外面にぶい黄褐色・口縁部に一部黒斑有り	良
373	B区 SC3	土師器	甕上半部	口径(18.2)・頸部径(15.0)	粗砂粒や砂粒を多く含む	内面表皮の残る部分にはぶい褐色・外面にぶい黄褐色で一部スス状の黒色有り	良

5. B区土坑

SK1（遺構：第49図、第9表、図版8／遺物：第50図、第10表、図版8）

SK1は、調査区のやや北西側より検出された。平面形は不整円形で、規模は長軸7.82m、短軸5.82m、深さは最大1.50mを測り、やや大型の土坑である。床面は一定ではなく、北東側と南西側にややフラットな面があって、南西側が約30cm深い。床面や斜面には、不規則に柱状の穴を検出した。埋土は、比較的自然的な堆積で中層では黒色の腐食土が認められる。出土する遺物のほとんどは細片で復元できる遺物は少ないが、南西側の床面より畿内系二重口縁壺や在地系の甕などが出土した。方形住居などとはほぼ同時期の遺構と考えられる。





第50图 B区SK1出土文物实测图 土器 (1/3) 石器 (1/2)

第9表 B区SK1遺構計測表

単位 (m)

遺構番号	調査区	平面形	長軸	短軸	深さ	上面標高	床面標高	遺構挿図	遺物挿図
SK1	B区	不定楕円形	7.82	5.82	1.50	21.02	19.52	第49図	374—382

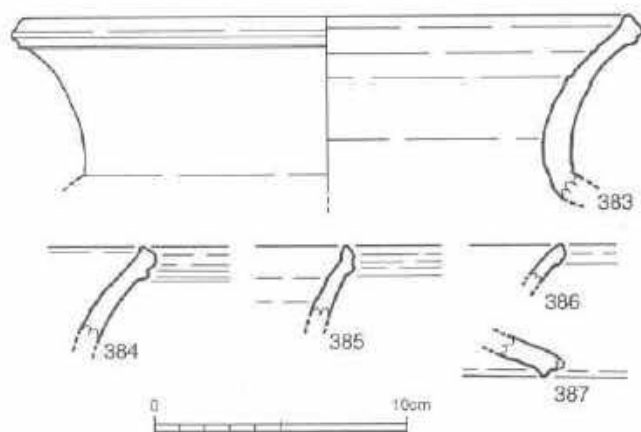
第10表 B区SK1出土遺物計測観察表

番号	出土地点	器種	器形	計測単位: cm	胎土	色調	焼成
第50図 374 32期	B区SK1・NQ1	土師器	二重口縁壺	口径16.8・頸部径9.2・ 胴部最大径25.3・器高 27.9・底部焼成前穿孔	砂粒や赤色粒子を所々含む、ほかシルト質	内面胴部黄灰色～褐灰色・外面から口縁 内面橙色～浅黄色で一定していない	良
375	B区SK1・2区	土師器	甕上半部	口径(21.2)・頸部径 (16.8)	所々に細砂粒や赤色粒を含む、ほかシルト質	内面にぶい褐色～にぶい橙色・外面にぶい 橙色口縁部や胴部にスス状の黒色	良
376	B区SK1・NQ2	土師器	甕	頸部径(10.5)・胴部最大 径14.2	白色の砂粒や粗砂粒を所々含む	内面上半部にぶい黄褐色下半部橙色・外 面上半部にぶい黄褐色下半部二次焼成に よるにぶい橙色～黒色	やや良
377	B区SK1・4区上層	土師器	高坏受部	—	石英粒や赤褐色粒を所々含む、ほかシルト ～細砂粒質	内外面共に浅黄褐色～淡黄色	良
378	B区SK1・3区埋土	土師器	器台基部	基部最小径3.8	雑や粗砂粒を所々含む、ほかシルト質	内外面共に表皮部分にはぶい黄褐色、断面 にはぶい黄褐色～褐灰色	やや良
379	B区SK1・2区	土師器	高坏胴部	基部最小径3.0	白色の砂粒を所々含む、ほかシルト質	内外面共に橙色・表皮の剥がれた部分や 断面は浅黄色～黄灰色	やや良
380	B区SK1・2区	土師器	高坏胴部	—	細砂粒や赤色粒子を所々含む、ほかシルト 質	内外面共に浅黄色、基部周辺は橙色	やや良
381	B区SK1・4区中層	礫石		長16.2・最小幅1.0最大幅 2.3・最小厚1.4最大厚2.1	泥岩?	暗灰色	—
382	B区SK1・4区中層	柱状片 刃石斧		長11.9・幅3.4・厚4.1	泥岩?	灰白色断面黒色	—

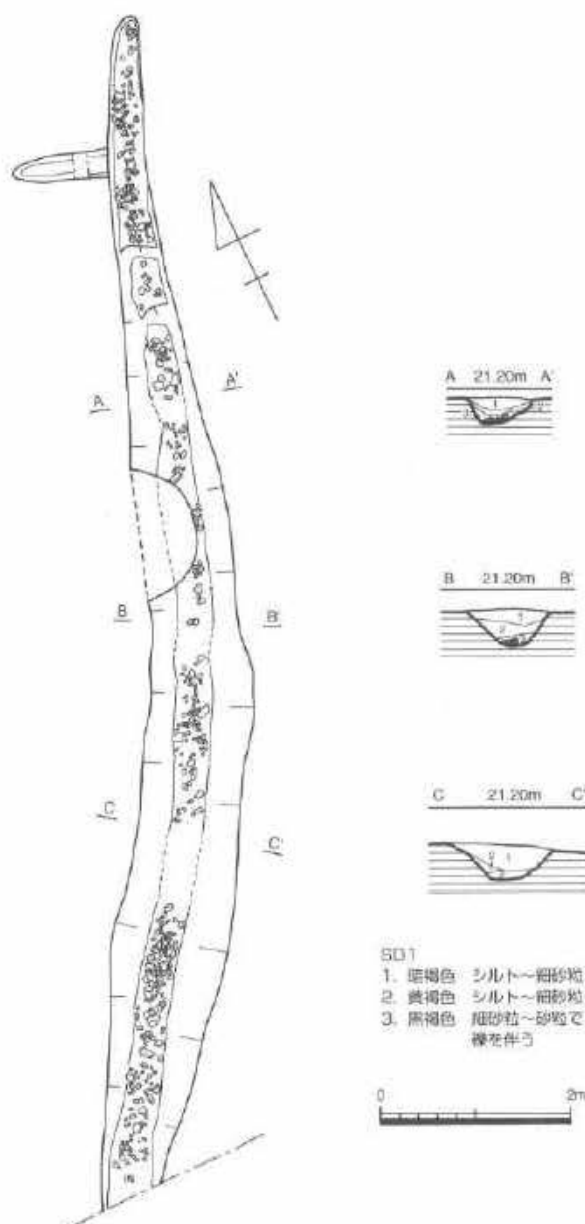
6. B区溝

SD1（遺構：第51図、図版8／遺物：第52図、第11表、図版8）

SD1は、調査区のはば中央に検出され、北から南にかけて延びている。溝の起点は標高21.27mでSC5の埋土から切り込まれる。調査区内ではSC3の東側で標高20.06mの地点まで確認された。長さ12.5mで比高差1.21m、平均傾斜角度は5.5度である。溝の床面には礫が敷き詰められており、排水用の溝ではないかと考えられる。遺物は礫の間より、須恵器の破片が出土している。



第52図 B区SD1出土遺物実測図（1/3）



第51図 B区SD1遺構実測図（1/80）

第11表 B区SD1出土遺物計測観察表

番号	出土地点	器種	器形	計測単位 (cm)	胎土	色調	焼成
第52図 383 54頁	B区SD1-4	須恵器	壺口縁部	口径(24.0)・頸部最小径(19.4)	白色の砂粒を所々含む、ほかシルト～細砂粒質	内面灰色・外面青灰色・断面灰色～青紫色	良
384	B区SD1-1敷石内	須恵器	壺口縁部	—	シルト～砂粒質	内面灰色・外面暗灰色	良
385	B区SD1-1・2区間ベルト	須恵器	壺口縁部	—	白色の砂粒を所々含む、ほかシルト質	内・外面ともに暗灰色で表面測がれている部分は灰色	やや良
386	B区SD1-4	須恵器	壺口縁部	—	白色の砂粒を所々含む、ほかシルト質	内・外面ともに灰色	やや良
387	B区SD1-4	須恵器	坏蓋	—	シルト～細砂粒質	内・外面ともに橙色断面灰色	やや不良

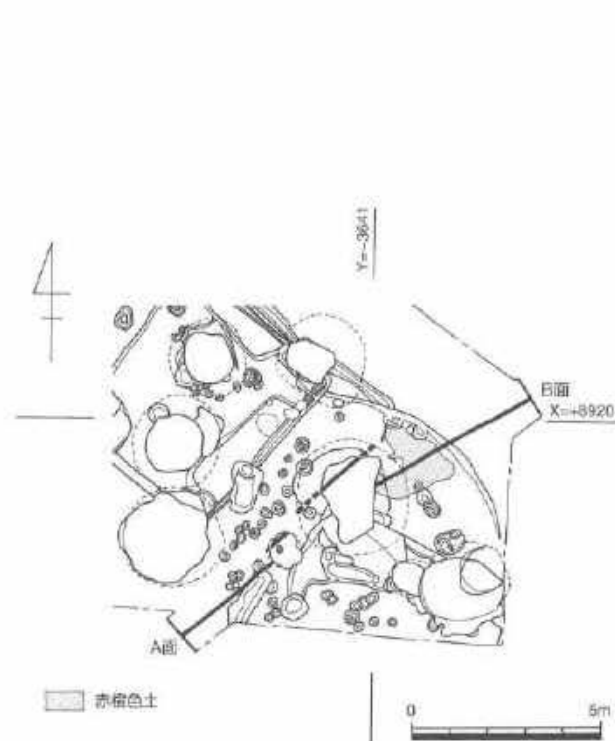
7. B区断層〔第53・54図、図版8〕

調査区南東側に検出された逆断層である。SU24を完掘後、床面を精査していたときに直進して伸びる4cm程の段が認められ、当初は食料や容器などを保管するための棚状の遺構と考えていた。ところが北東側に検出された比較的大型のSU4を完掘した際に、床面を精査したところ同様の方向に4cm程の段が認められ、同時に壁面の観察をおこなったところ、南側へ立ち上がる断層のラインが認められた。その後周囲の地山を精査した結果、断層は北東から南西方向に伸びることが確認された。

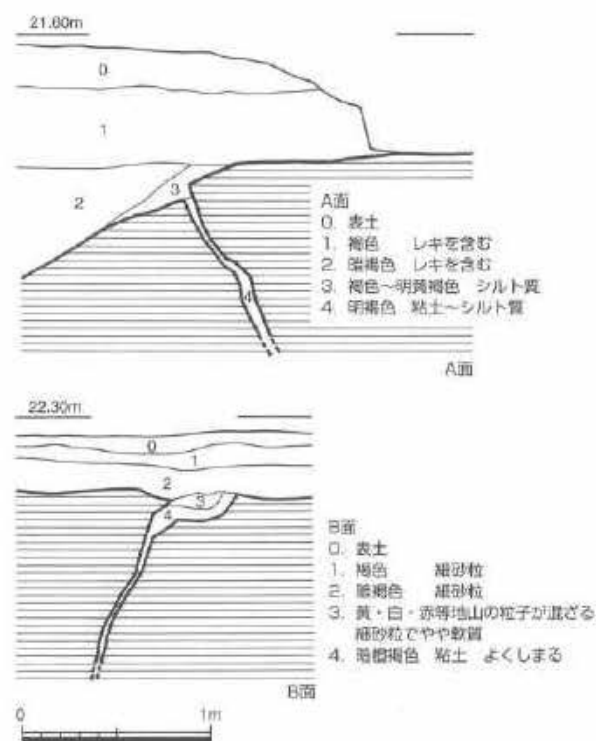
断層の方向は地表面の傾斜によってかなり差が出ることがわかり、比較的レベルを保っているSU4の床面で計測したところ座標軸から $N-48^{\circ}-E$ であった。なお、断層のラインは直線ではなくやや弧を描いているようにも観察できる。断層の角度は、北東調査区壁側(B面)での観察では 66° 、南西調査区壁側(A面)での観察では 61° である。

断層の生じた時期であるが、SU24やSU4が作られた後であることは断定できる。貯蔵穴完成当初は当然ながら床面は平らであったと考えられるからである。調査終了後、SC4の貼床を除去したが断層に伴う段は認められなかったことから、断層は住居廃絶以前に生じていたことが推測される。つまり、貯蔵穴の時期は出土遺物から考えて前期後半と推測され、住居は出土遺物に良好なものが少なく、時期ははっきりしないが、住居自体の特徴から弥生時代中期頃と推測される。よって断層ができたのは、前期後半～中期の間ではないかと考えられる。

弥生時代前期から中期にかけての時期の断層が確認され、かなり時代幅が絞られた。この時期の地震層や他地域での事例など今後の資料の増加に期待する。



第53図 断層位置図 (1/200)



第54図 断層土層図 (1/40)

第3章 まとめ

今回の調査によって大きく2時期の生活遺構を検出した。1つは弥生時代前期から中期を中心とした貯蔵穴群と住居跡、1つは古墳時代前期の堅穴住居と土坑である。

1. 弥生時代

出土した貯蔵穴内の遺物は、近隣の調査で報告されている土器編年^{註1}に当てはめてみるとSU14はⅠ期、SU17はⅢ期で、検出された貯蔵穴の時期も大方この範囲に収まるものと思われる。

円形住居に関しては埋土出土の遺物の個体数が限られ、そのほとんどが貯蔵穴からの流れ込みであることから住居の時期判断は難しい。このため検出された層位から判断して、貯蔵穴が埋った以後の造営であることは断定できるので中期頃と推測する。

遺物出土量の多い貯蔵穴内で出土した甕と壺について観察してみる。

〔甕について〕

今回出土した総遺物の82%は貯蔵穴からの土器である。そのうち甕は破片を含め8割以上を占める。甕はそのほとんどが如意状口縁を呈するいわゆる速賀川系であるが、具体的な特徴を整理するため全体を口縁部、胴部上半部、底部の各部位で分け、さらに口縁部を5つに、胴部上半部を4つに、底部を4つに大きく分類した。

(1) 口縁部の特徴

Ⅰ、口唇下端部に刻み目を施すもの

(13・39・41・59・63・64・77・86・95・119・123・124・191・217・236・244・255・256・257・310)

Ⅱ、口唇部直下に刻目凸帯を施すもの(157・258・259)

Ⅲ、如意状で口唇端部が細くなって終わるもの(3・11・48・76・78・79・90・229・230・312)

Ⅳ、如意状で口唇端部が長方形で厚みを持つもの(8・9・10・15・17・66・86・91・93・94・110・111・113・118・145・146・147・148・149・150・153・154・155・182・184・186・189・212・214・226・228・284)

Ⅴ、口縁部を肥厚させるもの外側(49・62・139・188・190・211・246・262)内側(92・272)

(2) 胴部上半部

A、沈線1条(9・10・20・38・41・85・86・156・211・285)

B、沈線2条(39・48・119・146・231・299)

C、刻み目の上下に沈線(138)

D、三角突帯に刻みを施す(123・181・244)

(3) 底部

ア、平底(29・42・43・53・69・70・71・87・99・102・132・133・136・137・140・141・171・172・173・174・175・176・177・192・199・201・202・252・266・283・291・292・294・295・309・313・

314・315)

イ、2mm程度のやや上げ底 (30・32・45・52・72・85・135・163・166・167・169・193・194・197・227・239・250・251・265・293・301・302・303)

ウ、3mm以上の上げ底 (26・86・97・128・130・158・160・162・164・170・198・264・277・290)

エ、底部穿穴 (80・81)

通常古い特徴といわれる口唇端部あるいは突帯の刻みから、その後の沈線への簡略化、如意状口縁、さらに逆L字状口縁と一連の変遷を個々の土器では追えそうな特徴を備えているが、実際の出土状況はそれらの土器が混在している。また、次段階の特徴ともいえる底部の肥厚や上げ底の特徴もこの段階には認められる。中には肥厚がほとんど認められないにも関わらず、あえて上げ底を意識して作られる特徴はいかなる意味をもつのか今後の課題である。

(壺について)

壺は1割程度の出土で完形の土器は少ないが、口縁部と加飾の部位で分類が可能である。

(1) 口縁部

I、肥厚するもの (75・106・179・279)

II、肥厚しないもの (21・56・82・107・142・205・253)

(2) 加飾

A、口縁部内面 (75・279)

B、肩部など (22・57・82・83・108・109・204・207・208・209・210・219・220・221・222・223・224・254・305)

C、沈線など (21・56・143)

D、無しおよび不明 (106・107・142・179・205)

以上から106、179は板付系統、75、82、83、279は下関系統、142、205は口縁部の未発達な在地形か。56はもともと口縁部を肥厚させないものである。特に142や205のような稚拙な壺は、この段階で見られなくなると考えられる。このことは土器製作が専門化していく過程ではないかと考えられる。石丸遺跡^{註2}で指摘されたように口縁部の肥厚の有無や肩部の加飾などの特徴は福岡平野や北九州・下関、それらを模倣した在地系が混在する当地の地域性を考える上で重要である。

2. 古墳時代

SC1・SC2・SK1は古墳時代前期いわゆる庄内・布留並行期に営まれ廃絶している。

SC1は、SC2のほとんどを切って建て替えられているため、出土遺物のほとんどはSC1からの遺物である。また、出土状況に関しては、掘削時の埋土中からの遺物で現位置を留めているものは少なく、住居廃絶後に埋ったものである。その中で高坏について観察すると、大きく2系統に分けることができる。327～340は畿内系の高坏や脚付鉢で、341～346は在地系か、あるいは弥生終末段階からの特徴を残す高坏である。近年、資料数が増えつつあるベッド状遺構について、今後宗像地域で検討していく必要がある。

SK1の埋土は自然堆積で、遺物の大半は腐食の進んだ粘土質の埋土より破片の状態出土した。遺物総数はP-27の整理箱に3箱分あるが、図化できたものは報告した通りである。その中で、床面よりほぼ完形の

畿内系二重口縁壺と庄内系土器を模倣したと考えられる甕の2点が出土した。この2点は出土状況から当初立てて置かれたものと推測できる。このため土坑の用途は、ゴミ貯め遺構や貯水用などとは考えにくく、祭祀用とも考えられるが、その後の堆積状況からしても断定は難しい。平面形は不整円形を呈しているものの、SU12・18・20に多少の影響を受けているとも見える。住居と土坑の関係については今後の資料増加を待ちたい。

以上、弥生時代の貯蔵穴や円形住居、古墳時代の住居や土坑について見てきた。

弥生時代では特に貯蔵穴から出土した土器の特徴から、前期中ごろから中期の初頭という限定された時期幅で貯蔵穴が営まれ終息し、その間北部九州とくに玄界灘沿岸という地域性から、福岡平野や北九州・下関地域間の交流を窺わせる資料を含んでおり、宗像地域の一端を知る貴重な調査となった。

古墳時代においてはベッド状遺構を伴う竪穴住居や同時期の大型土坑などの配置から、一集落空間の特徴が捉えられた。このような配置状況や土坑の役割が他地域での資料の追加によって解明されることを期待したい。また、古式土師器から窺われるベッドを持つ住居の変遷や、近隣で調査したほぼ同時期の墓所である武丸的場遺跡^{註3}の結果を踏まえ、古墳時代前期の集落と墓制のあり方を検討していく必要がある。

註1：名残Ⅳ ―福岡県宗像市所在遺跡の発掘調査報告― 宗像市文化財調査報告書 第29集 1991 宗像市教育委員会 (p119～126の第4章おわりに)

註2：石丸遺跡 ―宗像郡宗像町大字石丸所在遺跡の調査― 宗像町文化財調査報告書 第4集 1980 宗像町教育委員会 (p19のⅢまとめ1.と2.)

註3：武丸的場遺跡は、本遺跡と同丘陵にあり、2002年度に調査した市道に伴う調査で石棺墓・木棺墓・石蓋土槨墓・土槨墓・土器棺墓などの墳墓群が検出された。





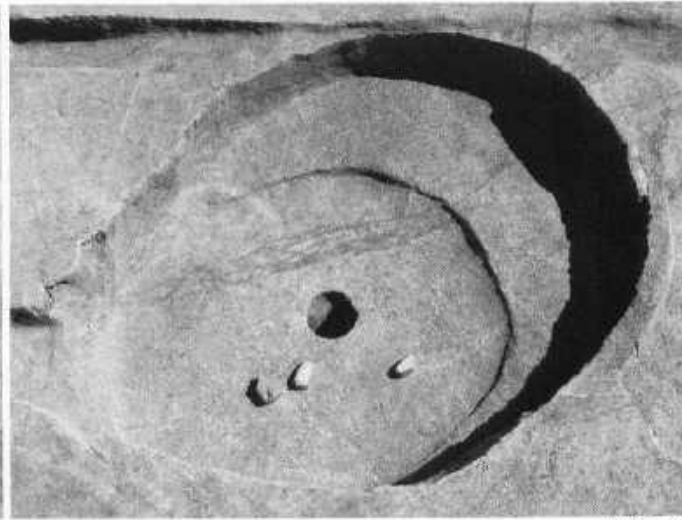
A区及び遠景



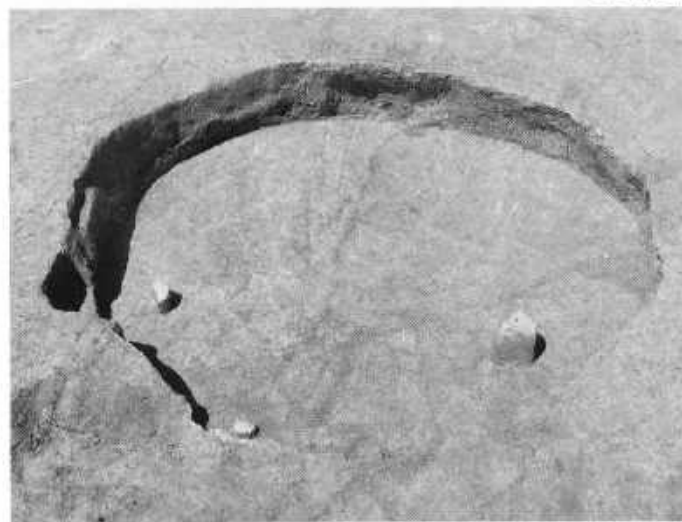
A区(上から)



A区SU1



A区SU4



A区SU2



A区SU4遺物出土状況



A区SU3



A区SU5



B区及び遠景



B区(上から)



B区SU1



B区SU6土層 (中)



B区SU10土層



B区SU2土層



B区SU6土層 (左)

B区SU6土層 (右)



B区SU6



B区SU10



B区SU2



B区SU7



B区SU11土層 (左)

B区SU11土層 (右)



B区SU8·11



B区SU3



B区SU8土層



B区SU12遺物出土狀況



B区SU4土層 (左)

B区SU4土層 (右)



B区SU8



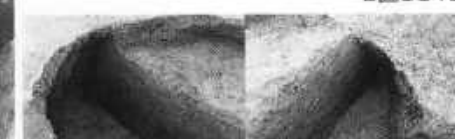
B区SU12



B区SU4



B区SU9土層



B区SU13土層 (左)

B区SU13土層 (右)



B区SU5



B区SU9



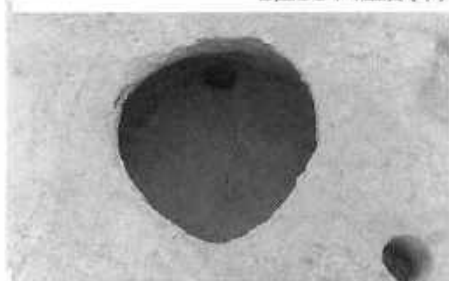
B区SU13



B区SU14土层(左) B区SU14土层(右)



B区SU14土层(中)



B区SU14



B区SU15土层



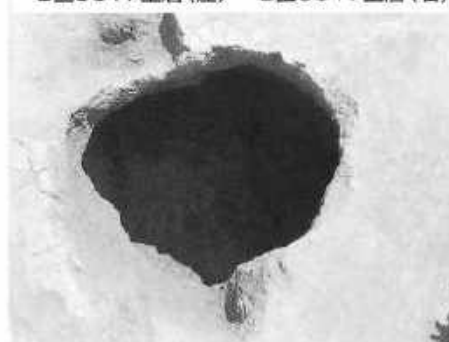
B区SU15



B区SU16



B区SU17土层(左) B区SU17土层(右)



B区SU17



B区SU18土层



B区SU18



B区SU19



B区SU20土层



B区SU20



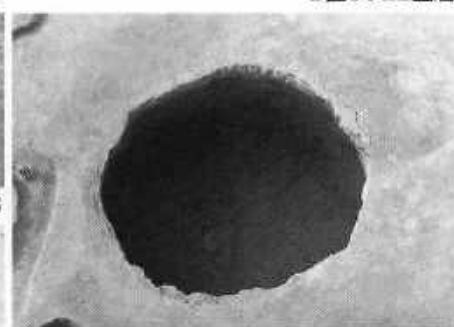
B区SU21土层



B区SU21



B区SU22土层



B区SU22



B区SU23土层



B区SU23

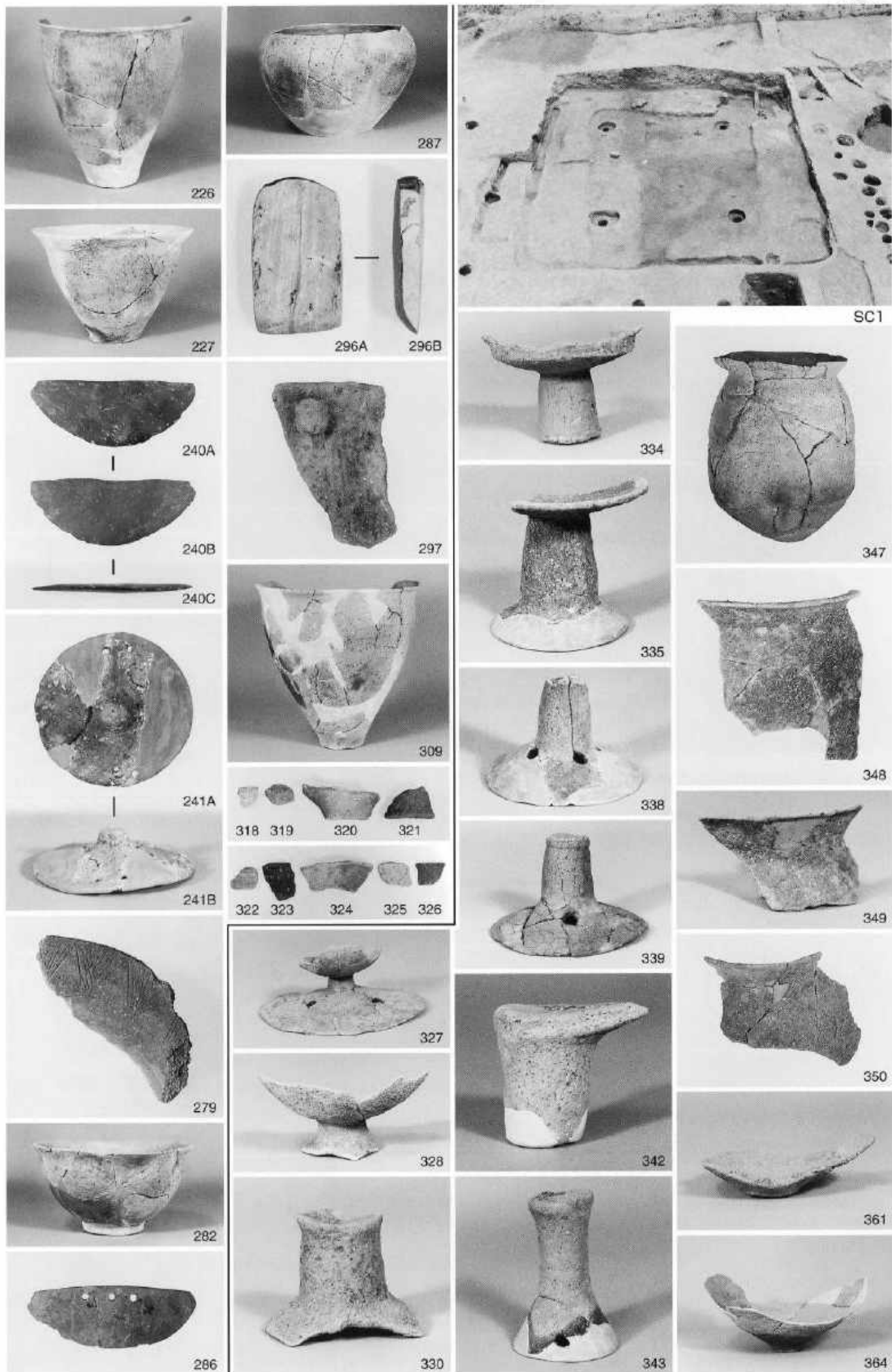


B区SC4



B区SC5







SC2



SK1



366



367



374



376



SC3



375



377



381A



381B



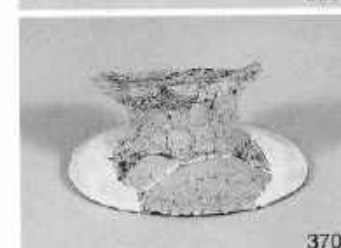
369



372



373



370



SD1



SD1第2ベルト土層



383



384



385



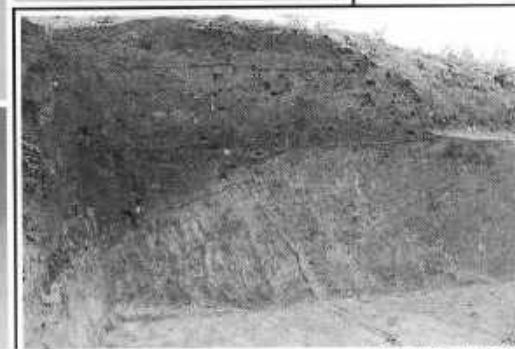
386



387



371



南壁断層 (A面)



東壁断層 (B面)

フ リ ガ ナ	タケマルノハセ							
書 名	武丸初瀬							
副 書 名	福岡県宗像市武丸所在遺跡の発掘調査報告							
巻 次								
シ リ ー ズ 名	宗像市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第55集							
編 著 者 名	岡 崇							
編 集 機 関	宗像市教育委員会							
所 在 地	〒811-3492 福岡県宗像市東郷一丁目1番1号 TEL(0940)36-1540							
発 行 年 月 日	西暦 2004年2月25日							
所 収 遺 跡	所 在 地	コ ー ド		北 緯 ° ' "	東 経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
武 丸 初 瀬	宗像市武丸 1956-1 番地ほか	40220	330176	33° 48' 15"	130° 36' 25"	2002.4.2 ～ 2002.7.5	900㎡	個人の 住宅建築
所 収 遺 跡 名	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物		特 記 事 項		
武 丸 初 瀬	集 落	古墳 弥生	竪穴住居 貯蔵穴	古式土師器 遠賀川式土器		その時代の特徴を 示す遺物を出土		

武 丸 初 瀬

宗像市文化財報告書

第55集

平成16年 2 月25日

発 行 宗像市教育委員会

宗像市東郷一丁目1番1号

印 刷 (株)マツモト

北九州市門司区辻ノ木一丁目2番1号